

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(哺乳類)>  
【国外由来の外来種】

- 対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
  - ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
  - ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
  - ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

- 選定理由
- I. 生態系被害が大きいもの。
  - II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
  - III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
  - IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※掲載の順番は、分類の並びとし、原則 Wilson, Don E., DeeAnn M. Raeder (ed.) (2005) Mammal Species of the World (Third Edition), A Taxonomic and Geographic Reference, Johns Hopkins University Press, pp.2142. に従った。  
※特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則現学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。  
※飼養等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2028.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症									
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																								
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着	混入																					
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																										
<b>侵入予防外来種(まだ侵入していない種)</b>																																										
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ジャワマンギース	<i>Urva javanica (Herpestes javanicus)</i>	I	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	東南アジア原産。	-	森林、草地、農地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	日本に定着しているマンギースは本種であると考えられていたが、調査の結果、別種フイリマンギースとして抜くこととなった。生態的特徴等はフイリマンギースとほぼ同じであり、定着すれば同様の影響を生じさせると考えられる。	①特定外来、②W100;IUCN、日本、③GISD、④各県:群馬、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019) Veron et al.(2007)	近縁種のフイリマンギースは防除事例あり。	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	レプトスピラ症
2	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	フクロギツネ	<i>Trichosurus vulpecula</i>	I	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。ニュージーランドに外来分布。	-	市街地、農地、草地、森林等。	動物園で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	ニュージーランドでは本種により捕食の改変や鳥類への食害影響等が見られている。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県:北海道、群馬、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	ウシ結核	
3	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	リスザル	<i>Saimiri sciureus</i>	I	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	南米原産。アメリカフロリダ州やカリブ海諸島に外来分布。	-	森林、マングローブ等。	ペットとして販売、飼養されている。多数の動物園で飼養されている。実験動物として飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	静岡県伊豆地域で脱糞個体が確認されたことがある。アメリカフロリダ州では導入された個体群が定着しており、植物や小動物を捕食している。	④各県:群馬、静岡、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法により輸入禁止	エリシニア症、トキソプラズマ症	
4	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	タイワンザル×ニホンザル	<i>Macaca oyoilopis × Macaca fusca</i>	I,III	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	タイワン原産。アメリカフロリダ州やカリブ海諸島に外来分布。	-	農地、草地、森林。	利用に関する情報は得られなかった。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	かつて、青森県の下北半島や和歌山県に定着していたが、現在は根絶されている。	①特定外来、②日本	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法により輸入禁止	Bウイルス病、黄熱	
5	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	I,IV	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	東南アジア原産。モリシャス、パラオ、サモア、小スンダ列島の島嶼に外来分布。	-	森林、マングローブ等。	かつて、千葉県勝浦市の公園で飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	千葉県房総半島でかつて野生化し、ニホンザルと交雑していた可能性が指摘されている。伊豆諸島地内島に放されて野生化した。近年は確認されていない。鳥類の卵やヒナを捕食し、生態系に影響を及ぼすおそれがある。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県:群馬、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法により輸入禁止	Bウイルス病、黄熱	
6	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	トウハイロリス	<i>Sciurus carolinensis</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	北米原産。南アフリカ、オーストラリア、イギリス等に外来分布。	-	市街地、公園、農地、森林。	かつて、動物園で飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	ヨーロッパ各地で定着しており、感染症(ハロボクスウイルス感染症)の伝播等により在来種を減少させている。野外への導入や定着事例は無い。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県:北海道、群馬、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	サルモネラ症		
7	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>	I	○	-	○	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	ロシア、中国、朝鮮半島等	-	森林。	かつて、ペットとして販売、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	北海道に定着した場合には、北海道の在来種であるエゾモモンガ(Pteromys volans orii)との交雑のおそれがある。	①特定外来、④各県:北海道、群馬、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	レプトスピラ症		
8	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	フィンレイソンリス	<i>Callosciurus finlaysonii</i>	I,II,III	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	東南アジア原産。イタラア等に外来分布。	-	市街地、農地、草地、森林。	かつて、ペットとして販売、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	静岡県浜松市にクリハリリスとの交雑個体が定着している。生態系はクリハリリスとほぼ同様であり、在来種のニホンリスとの競合や、農業被害の発生が懸念される。浜松市がクリハリリスと共に防除を実施している。	①特定外来、④各県:群馬、静岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	浜松市:クリハリリス 安田ほか(2024)クリハリリス防除マニュアル https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalscience/64/1/64_89/pdf/-char/ja 【URL取得日:2026年1月7日】	感染症法の輸入届出対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣	ライム病					
9	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ポリネシアネズミ	<i>Rattus exulans</i>	I,III	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	東南アジア原産。ニュージーランド、南太平洋諸島等に外来分布。	-	市街地、農地、草地、森林等。	利用に関する情報は得られなかった。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	かつて宮古島で標本が採取されているが、その後確認されていない。同属のドブネズミやクマネズミに比べて小型だが、ニュージーランドでは海鳥類やトカゲ類を食害し、生態系に影響を及ぼしていることが知られている。	③GISD	Ohdachi et al. (2015)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	Q熱、咬鼠症等		
10	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	シママンギース	<i>Mungos mungo</i>	I	○	-	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	アフリカ原産。	-	サバンナ、森林、集落等。	かつて、動物園で飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	在来地の表性昆虫類を中心に捕食し得る。養殖被害や農作物への被害のおそれがある。	①特定外来、④各県:群馬、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	カンピロバクター		
11	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	フェレット	<i>Mustela furo</i>	I	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	アメリカ、イギリス、ニュージーランド等で野生化した外来分布。	-	市街地、森林、草地、河川等。	ペットとして販売されている。北海道動物の愛護及び管理に関する条例で特定移入動物に指定されており、飼養には届出が必要。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	ヨーロッパ原産のヨーロッパナゲキタチ Mustela putorius を家畜化したもの。ニュージーランドでは鳥類等の在来生物の存続を脅かしている。	③GISD、④各県:北海道、群馬、千葉、東京、兵庫、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	エリシニア症、サルモネラ症、皮膚糸状菌症		
12	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	カニクイアライグマ	<i>Procyon cancrivorus</i>	I,IV	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	中南米原産。	-	森林(特に水辺林)。	アライグマに混入してペットとして輸入された可能性もあるが、実態は不明。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	アライグマと同様に、在来生物に対する競合・捕食・感染症の伝播、農業被害等の可能性がある。	①特定外来、④各県:北海道、群馬、滋賀、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	感染症法の輸入届出対象動物	アライグマ回虫		
13	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	アクシスジカ(アクシスジカ)属	<i>Axis spp.</i>	I,IV	○	-	○	○	○	-	○	○	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	インド、スリランカ原産。東ヨーロッパ、北米、南米、ニュージーラニア等に外来分布。	-	草地、森林等。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を得て複数の動物園で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	ニホンジカとの競合・交雑の可能性が指摘されている。本属には計4種が含まれる。	①特定外来、③GISD、④各県:群馬、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	一部の種、亜種はワシントン条約付属書掲載 感染症法の輸入届出対象動物	結核、ブルセラ症、ライム病		
14	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	シカ属(サンバー、タイワンジカ、アカシカ、国内産ニホンジカを除く。)	<i>Cervus spp.</i>	I	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	北半球原産。	-	草地、森林等。	狩猟対象として本来の生息地外に人為的に導入されたことがあった。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を得て展示動物として飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	和歌山県友ヶ島及び大阪府岬町に本種とサンバー、タイワンジカ、サンバー、アカシカの交雑個体である。IUCNのワースト100対象種はアカシカである。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県:群馬、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	環境省HP:友ヶ島におけるタイワンジカ交雑種防除計画策定事業 https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/local/gov/hozen/r3images/185_r3wakayama-taiwanjika.pdf 【URL取得日:2026年1月7日】	家畜伝染病予防法による検疫対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣(ニホンジカ、エゾシカ)	日本紅斑熱、ツツガムシ病、肺吸虫症、E型肝炎、ライム病					
15	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	アカシカ	<i>Cervus elaphus</i>	I	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	ヨーロッパ、北アフリカ原産。オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン等に外来分布。	-	草地、森林等。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を得て養鹿場で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	和歌山県友ヶ島及び大阪府岬町周辺に、本種とサンバー、アカシカ及びニホンジカの交雑個体が野生化している。	①特定外来、②IUCN、④各県:群馬、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Matsumoto et al.(2015)、宮崎・丹治(2016)	-	-	-	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	結核、ブルセラ症、ライム病		
16	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	タイワンジカ	<i>Cervus nippon taiouanus</i>	I	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	台湾原産。	-	草地、森林等。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を得て養鹿場で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	和歌山県友ヶ島及び大阪府岬町周辺に、本種とサンバー、アカシカ及びニホンジカの交雑個体が野生化している。	①特定外来、④各県:群馬、京都、和歌山、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Matsumoto et al.(2015)、宮崎・丹治(2016)	-	-	-	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	結核、ブルセラ症、ライム病		









我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(鳥類)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目立っている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本鳥学会(2024)日本鳥類目録改訂第8版、日本鳥学会、東京、471pp.及び財団法人山階鳥類研究所(1979)ドバト害防除に関する基礎的研究に基づいた。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則種学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 網欄等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症				
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																			
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生息系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済	産業	利用	付着													導入			
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																					
<b>定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)</b>																																					
1	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	カナダガン	<i>Branta canadensis</i>	I	○	-	○	◎	○	-	◎	○	-	-	○	○	-	○	-	○	-	北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに外来分布。	-	湖沼、河川等。	現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。展示目的で許可を受けた個体が動物園等で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2015年12月4日茨城県に野外分布していた2個体の捕獲が実施された結果、国内に生息していた野鳥個体はすべて捕獲されて根絶が完了した。国内に生息していた個体は亜種オオカナダガン <i>Branta canadensis moffitti</i> とされる。かつてカナダガンが増加した国内地域において、草地の遊牧、水害への被害、水際の土壌流出等が問題となった。日本に冬鳥として飛来する種シジュウカラガン <i>B. hutchinsii</i> との交雑リスクが強く懸念される。シジュウカラガンは、2004年に分類が見直されるまでは、カナダガンの1亜種と分類されていた近縁な種である。	①特定外来、③GISD、④各県：福島、茨城、千葉、神奈川、長野、静岡県、長崎、沖縄	加藤(2010)、栗山+加藤ほか(2020)	特定外来生物カナダガンの国内根絶について(環境省報道発表:20151206) <a href="https://www.env.go.jp/press/101789.html">https://www.env.go.jp/press/101789.html</a> 【URL取得日:2026年1月7日】	特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録 <a href="http://kume.life.coccan.jp/goose/42hayama.pdf">http://kume.life.coccan.jp/goose/42hayama.pdf</a> 【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-
2	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>	I	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	インド、パキスタン、ネパール、中国南部、バンラデシュ、ブータン、ミャンマー、タイ北部原産。東アフリカ、太平洋諸島等に外来分布。	-	都市、農耕地、森林等。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	神奈川県での確認事例がある。フジでは、生息地(敷)が融合する外来鳥類を追い出してほか、果樹や菜園に対する深刻な害鳥として考えられおり、トマトやナス、キャベツ類、ササゲ等の豆類に大きな被害を与えたことが確認されている。	①特定外来、②W100、IUCN、③GISD、④各県：茨城、長崎、沖縄	Lever, C. (1987), del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.), (2005), 自然環境研究センター(編著) (2019), 川上ほか(2012)	-	-	-			
3	未定着	定着防止外来種			外国産メジロ	<i>Zosterops sp.</i>	I	○	○	○	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	アフリカ〜インド、中国、東南アジア、オーストラリア原産。	-	都市、農耕地、森林等。	ペット、鳴き合わせの愛が目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本産メジロの別亜種にヒメメジロ <i>Zosterops japonicus simplex</i> 、チヨウセンメジロ <i>Z. erythroleucis</i> 、ハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> 等中国や東南アジア産の種の輸入は減少した(中国：禁輸政策、東南アジア：鳥インフルエンザの流行)ものの、アフリカ産の近縁種(キクメジロ(アフリカヤマメジロ)、キヨメジロの名前で流通。キクメジロの方がやや高価)が輸入されるようになった。メジロ <i>Z. japonicus</i> とハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> の飼育下での交雑事例が報告されている他、亜種間交雑の事例も複数確認されている。知見の集積が必要。	④各県：茨城、滋賀、京都、長崎	McCarthy, E. M. (2006)	-	-	-			
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																					
<b>防除推進外来種(生態系等に及ぼす影響が大きなもの)</b>																																					
4	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		コウライキジ	<i>Phasianus colohius karpowi</i>	I, II, III																	中国北東部、朝鮮半島原産。北米に外来分布。	北海道、千葉、神奈川、静岡、愛知、三重、奈良、愛媛、福岡、長崎(対馬)、宮崎、鹿児島(大隅諸島、奄美諸島)、沖縄(沖縄島、伊是名島、宮古島、石垣島)。	草原、農耕地。	かつては狩猟や害虫駆除目的で放鳥された。	新たな放鳥はしないこと。	北海道では本種の生息数が減少している。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。沖縄県ではやんばる地域への分布拡大が懸念されている他、伊是名島及び石垣島、宮古島では農業被害が問題となっている。種クワイキジの中国北東部、朝鮮半島に生息する亜種。なお、在来種のキジは種クワイキジの1亜種とされていたが、最新分類において別種(キジ: <i>Phasianus versicolor</i> )として整理された。在来のキジ <i>versicolor</i> と容易に交雑し、その交雑個体も繁殖能力を持つことが知られている。	②W100、日本、④各県：北海道、茨城、千葉、静岡、山口、香川、高知、長崎、沖縄、⑤検討委員	日本生態学会(編) (2002), 川上ほか(2012)	沖縄県：沖縄県外来種対策行動計画に基づくクワイキジ防除計画 <a href="https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-04kuraikiji.pdf">https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-04kuraikiji.pdf</a> 【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-		
5	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	I, II, III																	インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産。	福島、埼玉、三重、滋賀、香川(小豆島)、愛媛、鹿児島(硫黄島)、沖縄(宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、豊島島、与那国島)。	森林、草原、農耕地。	各地の動物園等で観賞用に飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	先島諸島では駆除が行われている。新島(上地島)では、絶滅危惧種のシジュウカラガンの他、アサギマダラやオオコノマダラといったチヨウ類等の減少が確認されており、本種の捕食による在来生物群集への影響が懸念されている。石垣島では、平成26年度にバングラデシュやハイマ、サトウキビに対して約50万円の農作物被害が報告されている。	③GISD、④各県：茨城、栃木、千葉、長崎、香川、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、川上ほか(2012)、田中・菅原(2003)、石垣市(2015)	沖縄県：沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク防除計画 <a href="https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-05indokujaku.pdf">https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-05indokujaku.pdf</a> 【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-		
6	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	I																	ヒマラヤ西部〜ミャンマー南部及び北東部、インドアッサム州〜ベトナム北部、中国中部〜南東部原産。	山形、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島。	森林(主に竹林、笹藪)。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	分布拡大中。高密度で営巣することで、同所的に営巣するウグイスに対しても捕食者による偶発的な捕食の増進を引き起こし、ウグイスの繁殖成功率の低下を引き起こしている。	①特定外来、②W100、日本、③GISD、④各県：福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	江口・天野(2008)	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性 生物 導入	生態系被害 競合 交雑 捕食 摂食 生態系改変	分布拡大 繁殖 気候	特に問題となる被害 重要地域 人体 経済 産業	逸出 拡散 利用 付着 混入																					
7	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	I	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	中国中部～西 南部、ラオス北 部、ベトナム 北部、台湾原 産。 ハワイに外来分 布。	宮城、福島、茨 城、栃木、群 馬、埼玉、東 京、神奈川、山 梨、静岡、長 野、愛知、大 阪、兵庫、鳥 取、島根、山 口、高知、福 岡、佐賀、長 崎、熊本、大 分、宮崎。	丘陵地、平野の 森林。	かつてはペットとして飼養されていた 可能性がある。現在は、特定外来生 物に指定され、輸入・飼養等が規制 されているが、許可を受けた個体が 愛がん目的で飼養されている。	逸出しないよう十分 注意し、放出しないこ と。	分布拡大中。ハワイでは、在来鳥類 の生息密度に影響を与えている。	①特定外来、② W100、日本、④ 各県：福島、茨 城、群馬、千葉、 東京、神奈川、 長野、岐阜、静 岡、愛知、滋賀、 山口、高知、福 岡、長崎、熊本、 大分、宮崎、鹿 児島、沖縄	自然環境研究セン ター(編著)(2019)	-	-	-	-	-
8	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ヒゲガビチョウ	<i>Lanthocincla cineracea</i> ( <i>Garrulax cineraceus</i> )	IV	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	インド北東部、 ミャンマー西 部、ミャンマー 北東部と中南部 にかけて地域原 産。	香川、愛媛、 高知。	森林。	かつてはペットとして飼養されていた 可能性がある。現在は、特定外来生 物に指定され、輸入・飼養等が規制 されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数 が増加すれば、餌や営巣場所等を巡 る競争により生態の類似する在来種 に影響を与えるおそれがある。 最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Lanthocincla</i> に変更され た。なお、外來法上は旧学名が表記 されている。 国内に生息する個体は名義タイプ重 種 <i>Lanthocincla cineracea cineracea</i> とされる。	①特定外来、④ 各県：茨城、徳 島、香川、高知、 長崎	濱田ほか(2006)、自 然環境研究センター (編著)(2019)	-	-	-	-		
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	カオジロガビチョウ	<i>Pterorhinus sannio</i> ( <i>Garrulax sannio</i> )	I	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	インド北東部、 中国南部、東南 アジア原産。	茨城、栃木、群 馬、埼玉、千 葉。	森林、住宅地、 公園等。	かつてはペットとして飼養されていた 可能性がある。現在は、特定外来生 物に指定され、輸入・飼養等が規制 されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数 が増加すれば、餌や営巣場所等を巡 る競争により生態の類似する在来種 に影響を与えるおそれがある。 最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更され た。なお、外來法上は旧学名が表記 されている。	①特定外来、④ 各県：茨城、群 馬、千葉、長崎、 沖縄	自然環境研究セン ター(編著)(2019)	-	-	-	-		
10	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	カオグロガビチョウ	<i>Pterorhinus perspicillatus</i> ( <i>Garrulax perspicillatus</i> )	I	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	中国中南部、ベ トナム原産。	岩手、群馬、埼 玉、東京、神奈 川。	森林、農耕地。	かつてはペットとして飼養されていた 可能性がある。現在は、特定外来生 物に指定され、輸入・飼養等が規制 されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数 が増加すれば、餌や営巣場所等を巡 る競争により生態の類似する在来種 に影響を与えるおそれがある。 最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更され た。なお、外來法上は旧学名が表記 されている。	①特定外来、④ 各県：茨城、栃 木、群馬、千葉、 長崎、高知、沖 縄	中村・室伏ほか (1993)、自然環境研 究センター(編著) (2019)	-	-	-	-		
防除検出外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																	
11	分布拡大期～まん延期	防除検出外来種			コバクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	I	○	-	○	-	○	○	○	-	-	○	○	-	ユーラシア原 産。ニュー ジランド、オ ーストラリア、南ア フリカ等に外来 分布。	北海道(ウツナ イ湖)、青森、秋 田、茨城、栃 木、群馬、埼 玉、千葉、東 京、神奈川、新 潟、富山、石 川、山梨、静 岡、愛知、滋 賀、京都、大 阪、兵庫、奈 良、和歌山、鳥 取、岡山、広 島、山口、徳 島、香川、愛 媛、高知、福 岡、佐賀、長 崎、大分、熊 本、宮崎、鹿 児島。	湿地、干潟、水 田。	愛がん目的で屋外で飼養されることが 多い。	逸出しないよう十分 注意し、放出しないこ と。むやみやみ餌やり 等を行わないよう する必要がある。	千葉県手賀沼周辺の水田にて農業 被害が発生している。2020年度は我 孫子市の560アール、柏市の487ア ール等6市で計1078アールで、被害総 額は1245万円に上り、面積、被害額 とも前年度の1.5倍となっている(東 京新聞、2022年6月13日)。 おむすび農園が健全で、特に繁殖期に は巣やヒナに近付くものを攻撃する のようになり、被害が拡大している。 体が大きく強いので攻撃を受けられ ば危険である。国内では本種に攻撃 されたことが原因でヒナが骨折した事 故の例があり、海外では攻撃を受け て幼児や大人が死亡した例も報告さ れている。	③GISD、④各 県：北海道、青 森、福島、茨城、 群馬、千葉、神 奈川、静岡、愛 知、滋賀、京都、 和歌山、鳥取、 島根、山口、徳 島、香川、福岡、 長崎、宮崎、鹿 児島、沖縄	Lever, C. (1987)、自 然環境研究センター (編著)(2019)、愛知 県環境部自然環境 課(2012)	-	-	-	-		
12	定着初期/限定分布	防除検出外来種			バリケン	<i>Cairina moschata</i> var. <i>domesticus</i>	IV	○	○	-	-	○	○	-	-	-	○	-	ヨーロッパ、中 国を経て日本に 持ち込まれた。	山口、沖縄。	ため池、池沼、 河川、水田、湿 地、水路、クリ ーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で 飼養されることが多い。	逸出しないよう十分 注意し、放出しないこ と。	ノバリケン <i>Cairina moschata</i> を家畜 化したもの。 原種であるノバリケン <i>C. moschata</i> は、メキシコからペルー、東部、ブラジ ル、ウルグアイ原産。 生態系被害については不明である。 大型のカモの仲間、水生植物の摂 食や在来カモ類と餌が競合する可能 性が懸念される。 沖縄県の豊原池にある龍潭池に野 生化した個体が定着し繁殖している 他、各地で野生化した個体が確認さ れている。	③GISD、⑤検討 委員	川上ほか(2012)	-	-	-	-			
13	定着初期/限定分布	防除検出外来種			アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>	IV	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	少なくとも鎌倉 時代に中国から 輸入。	兵庫、山口、福 岡、沖縄。	ため池、池沼、 河川、水田、湿 地、水路、クリ ーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で 飼養されることが多い。	逸出しないよう十分 注意し、放出しないこ と。	アヒルはマガモ <i>Anas platyrhynchos</i> を家畜化したもの。 原種であるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は、北極圏から中国中部までのユー ラシア大陸、極北の一部を除く北ア メリカの大部分で繁殖。北アメリカ、中 国南部までのユーラシア大陸、アメリ カ南部及びアメリカ大陸中部で種 冬。 福岡県の外来種リストでは、マガモ <i>A. platyrhynchos</i> やカルガモ <i>A.</i> <i>onorhynchos</i> 等との交雑の懸念の 他、水生植物の摂食や在来カモ類と 餌が競合する可能性があるとして要 対策外来種に選定している。 兵庫県の外来種リストではマガモ <i>A. platyrhynchos</i> との交雑の可能性 があるとして、注意種に選定してい る。 原種となるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は 鳥インフルエンザウイルスに罹患し ても症状をささない不顕性感染とな ることが多い。また、ウイルスの排出 量も多くウイルスを拡散する可能性 が高いと考えられている。そのため マガモ由来となる本種についても注 意が必要である。	④各県：茨城、 千葉、滋賀、京 都、兵庫、山口、 福岡、⑤検討委 員	Lever, C. (1987)、川 上ほか(2012)	-	-	-	-	高病原性鳥インフ ルエンザウイルス の媒介者となる可 能性がある。 海外では高病原 性鳥インフルエン ザウイルスの人へ の感染事例が報 告されており、死 亡例も報告されて いる。		







我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(爬虫類)>

【国外由来の外来種】

- 対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
- 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
  - 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
  - 絶滅危惧種の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
  - 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

- 選定理由
- 生態系被害が大きいもの。
  - 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
  - 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
  - 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則レベルの配列はPopah et al.2016に倣い、それ以下は学名アルファベット順とした。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 網羅されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布(日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着													
侵入・定着防止外来種(未定着)																																	
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																	
1	未定着	定着防止外来種			ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	IV	○	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	南アジア～西アジア原産。	-	岩砂漠、低木林等。	ペットとして多数が利用されている。逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。また、飼育個体の排泄物を野外に捨てない等、病原体を外出さないよう留意する。	爬虫類に病原性を持ち、在来種オビトカゲモドキに致死性のある原虫クリプトスポリジウム <i>Cryptosporidium</i> spp. に感染している場合があり、在来爬虫類への感染が懸念される。	④各県:長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、Terrell et al.(2003)、黒木(2005)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
2	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ブラウンアノール	<i>Anolis sagrei</i>	I	○	○	○	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	○	中米、西インド諸島原産。北米、ハワイ、ケイマン諸島、台湾等に外来分布。	-	森林、草原等。	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	フロリダの導入地では在来のグリーンアノールを駆逐している。特定外来生物に指定される以前はペット用等で利用されていた。台湾の一部地域に定着して高密度化しており、日本への導入が危惧される。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	第2回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、Huang et al.(2008a, 2008b)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、Lee et al.(2019)、GISD	-	-	-	-	
3	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	特定外来生物のアノール属(グリーンアノール、ブラウンアノール除く。)	<i>Anolis</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	西インド諸島原産。	-	森林、草原等。	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	<i>Anolis aeneus</i> , <i>A. alutaceus</i> , <i>A. angusticeps</i> , ナイトアノール <i>A. equestris</i> , ガーマンアノール <i>A. garmani</i> , <i>A. homolechis</i> の6種。特定外来生物に指定される以前はペット用等で利用されていた。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	第5・6・7回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、GISD	-	-	-	-
4	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ミニオオガシラ	<i>Boiga irregularis</i>	I	○	○	○	-	◎	-	-	-	○	-	○	-	-	○	オーストラリア、ソロモン諸島、ニューギニア、インドネシア原産。グアムに外来分布。	-	森林等。	かつてペットとして飼養されていた可能性はある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	沖縄島で貨物への混入に由来すると考えられる個体が捕獲されたことがある。弱毒だが咬まれると重症になることもある。グアム島での定着事例等を考慮すると、ひとたび導入され定着すると排除は困難とする指摘がある。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	第2回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、Kraus(2009)、GISD	-	-	-	-	
5	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	特定外来生物のオオガシラ属(ミニオオガシラを除く。)	<i>Boiga</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	南アジア～東南アジア原産。	-	森林等。	かつてペットとして飼養されていた可能性はある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	ミドリオオガシラ <i>B. cyanea</i> 、イヌバオオガシラ <i>B. cynodon</i> 、マングローブ <i>B. nigriceps</i> の4種。グアム島でのミニオオガシラの定着事例等を考慮すると、ひとたび導入され定着すると排除は困難と考えられる。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	第6回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
6	未定着	定着防止外来種			アメリカスッポン属	<i>Apelone</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	北米、中米原産。	-	河川、池沼、湿地等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	フロリダスッポン <i>A. ferox</i> 、スペース <i>A. mutica</i> 、トグスッポン <i>A. spinifera</i> が国内で販売されている。	④各県:北海道(トグスッポンとして)、東京、滋賀、長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2019)、USGS-NAS	-	-	-	-
7	未定着	定着防止外来種			ニシキガメ属	<i>Chrysemys</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	アメリカ、カナダ原産。	-	河川、池沼、湿地等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	アカミミガメ等の代替種となるおそれがある。2種を含む。	④各県:東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
8	未定着	定着防止外来種			チズガメ3種(ミシシッピーチズガメ、フトムチズガメ(サビーンチズガメを含む。)、ニセチズガメ)	<i>Graptemys</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	アメリカ原産。	-	河川、池沼、湿地等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ミシシッピーチズガメ <i>G. kohnii</i> 、フトムチズガメ <i>G. ouachitensis</i> (サビーンチズガメ <i>G. a. sabiniensis</i> を含む)、ニセチズガメ <i>G. pseudogeographica</i> の3種。アカミミガメが規制され、代替として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。	④各県:東京、長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2019)、USGS-NAS	-	-	-	-
9	未定着	定着防止外来種			クーターガメ属	<i>Pseudemys</i> spp.	IV	○	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	北米、中米原産。	-	河川、湖沼、湿地、汽水域等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ほとんどの種がペットとして輸入されている。特にペンシユラクーター <i>P. peninsularis</i> の輸入が多く、安価に販売されている。アカミミガメ等の代替種となるおそれがある。	④各県:東京、滋賀、長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類専門家グループ学会(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
10	未定着	定着防止外来種			チュウゴクセマルハコガメ	<i>Cuora flavomarginata flavomarginata</i>	IV	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	中国、台湾原産。	-	森林とその周辺、河川の周辺、沼沢地、湿地等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	八重山諸島に別亜種ヤヤマセマルハコガメ <i>C. f. evelynae</i> が分布。沖縄島や宮古島ではしばしば野外でセマルハコガメが確認され、宮古島では定着しているが、これらの亜種なのかは確定されていない。本亜種の属するインガメ科は属間交雑するため留意が必要。	④各県:長崎、福岡、長崎、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
11	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ハナガメ	<i>Mauromys sinensis</i>	IV	○	-	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	台湾、中国南部、ベトナム北部原産。	-	平野の河川や池沼、水路。	特定外来生物に指定される前はペットとして多数が販売されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。愛が目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。(ハナガメ・タイフンハナガメを飼っていないかもしれません) https://www.env.go.jp/nature/intro/2out/inet/list/files/chirashi_hanagame.pdf [URL取得日:2025年12月2日]	①特定外来、④各県:茨城、千葉、岐阜、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、なごや生物多様性保全活動協議会(2014) ミンシブアカミミガメ防除マニュアル	-	-	-	-	
12	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	特定外来生物のハナガメ交雑個体(ハナガメ×ニホンインシガメ、ハナガメ×ミニイシガメ、ハナガメ×クサガメ)	<i>Mauromys sinensis</i> × <i>Mauromys japonica</i> , <i>Mauromys sinensis</i> × <i>Mauromys mutica</i> , <i>Mauromys sinensis</i> × <i>Mauromys roosei</i>	IV	○	-	○	◎	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	台湾、中国南部、ベトナム北部原産。	-	平野の河川や池沼、水路。	特定外来生物に指定される前はペットとして多数が販売されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。愛が目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。(ハナガメ・タイフンハナガメを飼っていないかもしれません) https://www.env.go.jp/nature/intro/2out/inet/list/files/chirashi_hanagame.pdf [URL取得日:2025年12月2日]	①特定外来、④各県:東京	自然環境研究センター(編著)(2019)、なごや生物多様性保全活動協議会(2014) ミンシブアカミミガメ防除マニュアル	-	-	-	-	





我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(爬虫類)>

【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種等の生態・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則レベルの配列はPopuh et al.2016に倣い、それ以下は学名アルファベット順とした。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則学名を後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 網欄等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症					
								定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																	
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用													付着混入				
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																				
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)</b>																																				
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①③		八丈島のニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	IV	〇	◎	-	-	-	〇	〇	-	-	〇	-	-	〇	-	-	-	-	近畿中・北西部～西日本と周辺島嶼原産。	八丈島。	森林、農耕地、住宅地等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2013年に本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のものは別種ヒガシニホントカゲ <i>P. firmitimus</i> とされた。八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。オカダカゲとの交雑が確認されている。	④各県: 東京	栗山ほか(2009)、Okamoto et al. (2013)	国立環境研究所によって遺伝構造や生態等の調査が実施された。	-	-	
2	国内由来の外来種	防除推進外来種	①		九州(置久島を含む。)のオキナワキノボリトカゲ	<i>Diploderma polygonatum polygonatum</i>	IV	-	-	〇	-	-	〇	-	-	-	〇	-	-	〇	-	-	-	-	奄美群島、沖縄諸島原産。	宮崎県日南市、鹿児島県指宿市、屋久島。	森林等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関するさらなる知見の集積が必要。自然分布域以外のものは鹿児島県の指定外来動植物に指定されている。	④各県: 長崎、宮崎、鹿児島	日本爬虫両棲類学会(2009)、太田ほか(2013)、Jono et al. (2013)、Ota et al.(2006)	宮崎県日南町の生息地では宮崎大学等によって生息状況調査が実施されてきた。	-	-	
3	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②		南西諸島のニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i>	IV	〇	-	〇	-	-	〇	-	-	-	〇	-	-	〇	-	-	-	-	本州、四国、九州原産。	大隅諸島、奄美群島。	池沼、河川等。	日本全国で多数が養殖されているが、奄美群島等には食用、養殖用として持ち込まれたと考えられる。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。チュウゴクスッポンとは重複関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。 <i>P. japonicus</i> の外来種としての分布情報等は不明。自然分布域以外のものは鹿児島県の指定外来動植物に指定されている。	④各県: 青森、福島、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	-		
4	国内由来の外来種	防除推進外来種	②③		沖縄島、宮古島などのヤエヤマセマルハコガメ	<i>Cuora flavomarginata evelynae</i>	IV	〇	◎	-	-	-	〇	〇	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石垣島、西表島原産。	沖縄島、宮古島、黒島等。	森林とその周辺、河川の周辺、沼沢地、湿原等。	国の天然記念物に指定されていることから飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。セマルハコガメは国の天然記念物に指定されている。沖縄島、久米島、宮古島、黒島でも生息が確認されている。リュウキュウヤマガメとの交雑個体と思われるものも確認されている。天然記念物であるため、駆除を行うために課題がある。	④各県: 沖縄	Ota (1999)、前之園・戸田(2007)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	-		
5	国内由来の外来種	防除推進外来種	②③		沖縄島、宮古島などのヤエヤマシシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>	I, II	〇	-	◎	-	-	〇	〇	-	-	〇	-	-	〇	-	-	-	-	石垣島、西表島、与那国島原産。	沖縄島、阿嘉島、宮古島等。	河川、池沼、湿地等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄島、宮古島、黒石島(鹿児島)などに定着している。宮古島ではヤエヤマシシガメを捕食する被害が指摘されている。	④各県: 鹿児島、沖縄	Ota (1999)、前之園・戸田(2007)、小林・長谷川(2005)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	ミヤコサワガニの生息地において宮古島市による捕獲が実施されている。	-	-	

【国外由来の外来種との指摘がなされているが、国内に自然分布域を持つ可能性を現時点では否定できない種】

※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症					
								定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																	
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用													付着混入				
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																				
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)</b>																																				
1	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①③		自然分布域外のクサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	I	〇	◎	〇	-	-	〇	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	朝鮮半島、台湾、中国原産。	本州、四国、九州と周辺島嶼。	河川、湖沼、水田、水路。	ペットとして多数が流通し飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本産の集団は自然分布ではなく導入個体群であるとされるが、対馬、奄美や九州北部等に自然分布域を持つ可能性を現時点では否定できない。一方、千葉、福井、愛知等では在来種ニホンシシガメに対する遺伝的交雑が深刻な影響を生じさせる事例が報告されており、このような地域では積極的な防除を行う必要がある。鹿児島県の指定外来動植物に指定されている。	④各県: 北海道、青森、福島、群馬、東京、岐阜、滋賀、兵庫、山口、鹿児島、⑤意向調査: 環境省外来室、地方公共団体	日本爬虫両棲類学会(編著)(2021)、Suzuki et al.(2011)、小賀野・小林(2022)、Matsuda et al.(2024)	近年はアカミミガメと並び各地で防除の対象とされている。鹿児島県は防除マニュアルを作成、公表している。	-	-	
2	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③		クサガメ×ニホンシシガメ(ウンキョウ、イシクサガメ、イシクサ)	<i>Mauremys reevesii</i> × <i>Mauremys japonica</i>	I	〇	◎	〇	-	-	〇	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	全国で広く見つかっている。千葉、福井、愛知等のニホンシシガメ分布域ではまとまって見られる。	平野から丘陵の河川や池沼、水路。	産卵目的のために飼育下で作出されたものがしばしば販売されており、爬虫類のイベント販売等では普通に見られる。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	交雑個体と親種の間には交配前隔離が確認されず、交雑個体の産卵数・精子の数や活性などは親種と遜色なく、さらに交雑2代も生じている(雑種崩壊は生じない)ことから、何らかの原因で交雑個体が生じると交雑化が急速に進むであろうことが示されている。宮古島ではクサガメに対する生態系被害が生じており、特に千葉、福井、愛知等ではニホンシシガメに対する遺伝的交雑が深刻な影響を生じさせる事例が報告されており、このような地域では積極的な防除を行う必要がある。	④各県: 群馬、東京	日本爬虫両棲類学会(編著)(2021)、Suzuki et al.(2011)、小賀野・小林(2022)、上野(2023)、Matsuda et al.(2024)	近年はアカミミガメとクサガメと並び各地で防除の対象とされている。	-	-		



No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入														
13	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	オオヒキガエル	<i>Rhinella marina (Bufo marinus)</i>	I, II, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アメリカのテキサス州最南部～中米、アマゾン川流域原産。ブルトリコ、ハワイ、フィリピン、ニューギニア、オーストラリア等に外来分布。	小笠原諸島父島、母島、大東諸島、石垣島。	サトウキビ畑等、人里近くの開けた環境。	戦前から1980年代にかけて害虫駆除のために導入された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	2011年に沖縄島で定着が確認されたが根絶された。2023年、2024年にも沖縄島で混入と思われる個体が見つまっている。其後の高濃度により、カエルの捕食者が死亡することがある。	①特定外来、③GISD、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫類学連学会編(2021)	沖縄県、オオヒキガエル防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-09oohikigaeru.pdf 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	広東住血線虫の宿主になり得るとの報告がある。		
14	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	南アジア～東南アジア原産。	徳之島、与論島、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、北大東島。	森林、農耕地、住宅地等。	かつてペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	本種から外来種の寄生虫(寄生性蠕虫類)が報告されている。在来種の両生類への感染は確認されていないもの、留意すべきとされている。	①特定外来、③GISD、④各県：長崎、鹿児島、沖縄	Hasugawa et al.(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-			
15	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	ウンガエル	<i>Lithobates catesbeianus (Rana catesbeiana)</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。メキシコ、大アンティル諸島、ヨーロッパ、東南アジア、中国、台湾等に外来分布。	北海道南部以南のほぼ全国。	池沼等。	1918年以降に食用に輸入され、養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。教育等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	さまざまな小動物を広く捕食する他、カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根絶された。	①特定外来、③GISD、④各県：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川、石川、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-			
<b>防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)</b>																																		
16	定着初期/限定分布	防除検討外来種	/	/	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アフリカ中南部原産。イギリス、アメリカのカリフォルニア州、チリ、メキシコ、ジャワ島、アセンション島等に外来分布。	千葉、静岡、和歌山、兵庫。	池沼や池等の止水域。	日本で最も多く利用されているカエルのひとつ。実験動物、ペット、アロワナ等肉食性観賞魚の餌として利用されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。	③GISD、④各県：北海道、東京、岐阜、静岡県、兵庫、和歌山、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫類学連学会編(2021)、土永ほか(2019)、宇井ほか(2025)	和歌山県では継続的な防除が実施されている。 https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/0326-00/gairai/afurikatumegearu.html 【URL取得日:2025年12月2日】	鹿児島県(2024)アフリカツメガエル防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_2020051115158-1.pdf 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	-

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(両生類)>  
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
I. 生態系被害が大きいもの。  
II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目ざされている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則Frost, D.R. et al. 2006. The amphibian tree of life. Bulletin of the American Museum of Natural History 297: 1-370.に従った。

※ 特定外来種で推定時から学名に変更があったものについては、原則漢字学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 飼養等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来種	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症				
								定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																		
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域		人体	経済産業	利用													付着混入			
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																				
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)</b>																																				
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②		北海道、伊豆諸島及び佐渡島のアズマヒキガエル	<i>Bufo formosus</i>	I	/	/	○	-	◎	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	本州東北部(近畿まで)原産。	北海道、佐渡島、伊豆諸島。	森林、農耕地、草原、公園等。	ペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	八丈島、北海道で継続的な駆除が行われ、成果が報告されている。	④各県:北海道、東京、長崎	八谷(2024)、後藤(2021)	北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づく指定外来種に指定され防除が実施されている。 <a href="https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/shit/eigairaishu/bojo.html">https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/shit/eigairaishu/bojo.html</a> 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	-
2	国内由来の外来種	防除推進外来種	①		関東以北、長崎県島嶼部(平戸島を除く。)及び種子島のヌマガエル	<i>Fajervarya kawamurai</i>	IV	/	/	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	本州中部以西、四国、九州、奄美群島、沖縄諸島、台湾、中国原産。	関東、長崎県島嶼部(ただし平戸島は在来)、種子島。	水田、河川敷等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本在来のカエル類の中で近年の導入が最も顕著に生じている種であり、その貪欲な食性により他種に影響を与える可能性が示唆されているため注意を要する。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	④各県:関東各県、長崎(島嶼部)、鹿児島(種子島)	土原(2012)	-	-	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(魚類)>  
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
I. 生態系被害が大きいもの。  
II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であると情報のあるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目撃されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則、科(亜科)レベルの配列をNelson(2016)に、科レベル以下の配列は細谷(2019)に従った。細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順とした。

※ 網羅等されていないものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症							
								定着可能性	生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系被害	繁殖	気候	分布拡大	重要地域	特に関心となる被害	人間	経済													産業	利用	付着	拡散			
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																								
<b>侵入予防外来種(まだ侵入していない種)</b>																																								
1	未定着	侵入予防外来種			エールワイフ	<i>Aloa pseudoharengus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	カナダのラブラドル州レド湾~アメリカのサウスカロライナ州の大西洋岸原産。アメリカの非自然分布域にも外来分布。	-	湖、河川から河口付近の沿岸域。陸封型と開海型がある。河川を遡上して湖や河川の緩流域で産卵する。	利用に関する情報は得られなかった。	-	五大湖では稚魚等の捕食により漁業対象種を含む在来種の減少を引き起こした。この他、海外では、在来の底生動物群集に影響を及ぼした事例がある。	③GISD	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=625">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=625</a>	-	-	-	-
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ブラウンブルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	I,IV	○	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部原産。アメリカの非自然分布域の他、ヨーロッパ、ニュージーランド、フェリピン等に外来分布。	-	河川緩流域の底質が柔らかい場所、湖沼。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカでは導入された湖で在来のゲウオを駆逐した例がある。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pydiotis olivaris</i>	I,IV	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部、中部原産。アメリカの非自然分布域とカナダに外来分布。	-	樹木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。受が目的で許可を受けた個体が飼養されている。	-	アメリカでは本種が導入された水域で、同科の在来種であるアリガリガリ等の減少が見られている。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=331">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=331</a>	-	-	-	-	
4	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	イギリス~ロシア、中国のユーラシア大陸原産。ヨーロッパの非自然分布域の他、アメリカ、カナダに外来分布。	-	低地から高地までの河川、富栄養湖、大河川の河口や汽水湖に多い。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少等の悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=544">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=544</a>	-	-	-	-	
5	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>	I,IV	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ北東部の沿岸地域原産。カナダに外来分布。	-	中・大規模河川の止水部分や池、主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を通じて水系を超えた移動が可能。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=989">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=989</a>	-	-	-	-	
6	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アゾフ海、黒海、カスプ海流域原産。ヨーロッパ各国やアメリカ、カナダに外来分布。	-	大河川の汽水域や湖沼、湾等の底質が砂や岩がある浅瀬を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカの五大湖等で、産卵環境や餌の競合、卵の食害等によって、在来種の減少を引き起こしている。	①特定外来、③GISD、④各県:長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Neogobius+melanostomus">https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Neogobius+melanostomus</a>	-	-	-	-	
<b>定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)</b>																																								
7	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ガー科(ガーバイク、アリゲーターガー、スポットテッドガー、ロングノーズガーなど)	<i>Lepisosteidae Gen. sp.</i>	I,IV	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中米~北米、カナダ原産。ショートノーズガーがアメリカの非自然分布域に外来分布。	公園や城の堀等で放流されたと思われる個体が確認されることがある。	河川(汽水・淡水域)、湖沼。	観賞魚として利用されている。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	輸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内で放流された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合は、急速に増加し、捕食により在来生物相に影響を及ぼすおそれがある。複数個体が同じ水域で確認されたこともあり、定着の危険性が高まっている。ガー科全種が肉食性で、どの種も全長1-2mと非常に大型になるため、捕食による影響は大きいと考えられる。生態系被害について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県:北海道、福島、茨城、東京、長野、岐阜、滋賀、京都、大阪、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、佐賀、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	公園の池や城のお堀等で発見された個体が捕獲されて取り除かれることがある。	農林省特定外来生物対策ハンドブック <a href="https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/3.5E690CA0C6E90687.pdf">https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/3.5E690CA0C6E90687.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-
8	未定着	定着防止外来種			レッドホースミノー	<i>Cyprinella lutrensis</i>	I	○	◎	◎	-	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ中央南部~中央北部原産。アメリカの非自然分布域とメキシコに外来分布。	-	中小河川や水路の淵や平瀬等。	観賞魚として利用されている。	輸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に本州中部以南)。	海外では近縁種と交雑することや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。	③GISD、④各県:東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1148">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1148</a>	-	-	-	-	
9	未定着	定着防止外来種			トンキンダナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	I,IV	○	◎	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	中国南部~東南アジア北部原産。	-	河川の淡水域。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	輸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。同属のオオタナゴが競争や交雑による被害の可能性が高いとして特定外来生物に指定されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。	④各県:東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=54709&amp;lang=English">https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=54709&amp;lang=English</a>	-	-	-	-	
10	未定着	定着防止外来種			タイワンタナゴ	<i>Tanakia himantogus (Paratanakia himantogus)</i>	I,IV	○	◎	-	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	台湾原産。	野外での確認事例があるとされるが不明。	低標高地の河川や湖及び貯水池。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	輸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られる。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。	④各県:東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=17290&amp;lang=English">https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?id=17290&amp;lang=English</a>	-	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に関心となる被害		逸出・拡散		原産地・分布 (日本を除く)												
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用		付着											
11	未定着	定着防止外来種			外国産タナゴ亜科(トンキンタナゴ、オオタナゴ、カラセニタナゴ、タイリクバラタナゴ、タイリクシロフタタナゴ及びタイワンタナゴを除く。)	<i>Acheilognathinae</i> Gen. spp.	I,IV	○	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	中国や朝鮮半島を原産とする種が多いが、ヨーロッパを原産とする種も一部ある。	未定着の種が岡山で確認されている。	淡水域。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られる。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらの生息地における被害のおそれがある。	⑤検討委員	伊藤ほか(2023)、谷口ほか(2025)	-	-	-	-
12	未定着	定着防止外来種			ファットヘッドミノ	<i>Pimephales promelas</i>	I,IV	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	カナダ〜メキシコ北部、原産。池や水路、小河川に生息。滑りや低酸素等に強く、他の多くの魚が生息できない環境にも生息。	東京と神奈川県のため池等で2011年ごろから確認されている。	淡水域、泥底の池や水路、小河川に生息。滑りや低酸素等に強く、他の多くの魚が生息できない環境にも生息。	毒性試験に用いられる実験動物や観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	実験動物や観賞魚として利用されている。高水温や低酸素に極めて強く、野外に放流された場合に容易に定着する可能性が高いと考えられる。	④各県、東京、⑥国内の一部に定着済みの外来種	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-
13	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			オリノコセイルフィンキャットフィッシュ	<i>Pterygoplichthys multiradiatus</i>	I	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	オリノコ川流域。台湾、ハワイ、プエルトリコに外来分布。	-	河川、湖沼の泥底で水草が生える水域。	セイルフィンプレコ等の名前で複数種が利用されている可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	インドやプエルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした例が知られている。	③GISD、④各県、東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1656">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1656</a>	-	-	-	-	
14	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			マダラロリカリア属(スノープレコ、マダラロリカリア、オリノコセイルフィンキャットフィッシュ及びアマゾンセイルフィンキャットフィッシュを除く。)	<i>Pterygoplichthys</i> spp.	I,IV	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	オリノコ川、アマゾン川、マダラレナ川水系、マライネ川水系、パナマ川水系、サンフランシスコ川水系。トルコ、インド〜東南アジア、台湾、アメリカ、中米に外来分布。	-	河川。	〜プレコの名前で多くの種が観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	沖縄県の複数の河川に定着し、海外で生態系に影響を及ぼしているマダラロリカリアを含む種。捕食や産卵行動により水生植物帯を減少させ、そこに生息する水生昆虫等に影響を及ぼす可能性や、堤に穴を空けることで経済被害を起こす可能性が指摘されている。	④各県、東京、⑤検討委員	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Pterygoplichthys+spp">https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Pterygoplichthys+spp</a>	-	-	-	-	
15	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヨーロッパナマズ(ヨーロッパオオナマズ)	<i>Silurus glanis</i>	I	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	中央・東ヨーロッパ。ヨーロッパの非自然分布域とシベリア、中国に外来分布。	-	大きな湖や河川。汽水域に入ることもある。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ヨーロッパの導入では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に放流に注意が必要。	①特定外来、④各県、岐阜、東京、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
16	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			アフリカンクララ	<i>Clarias gariepinus</i>	I	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	アフリカ全域〜中東原産。アフリカの非自然分布域、インド〜東南アジア、ヨーロッパ、ブラジル、アルゼンチンに外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	インドでは本種を含むいくつかの外来種との競合によって絶滅危惧種への影響が懸念されている。南アメリカ共和国での在来の小型のコイ科魚類であるレッドフィンの減少は本種の導入によるとされている。	③GISD	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1900">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1900</a>	-	-	-	-
17	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ノーザンバイク	<i>Esox lucius</i>	I	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ北部、カナダ、ヨーロッパ、アジア北部原産。モロッコ、ウガンダ、エチオピア、アルジェリア、チュニジア、スペイン、ポルトガル等に外来分布。	-	河川流域や湖沼。水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	アメリカのデニス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。	①特定外来、③GISD、④各県、佐賀、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Esox+lucius">https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Esox+lucius</a>	-	-	-	-
18	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	マスキーバイク	<i>Esox masquinongy</i>	I	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ北東部とカナダ東部原産。メシカ州の非自然分布域に外来分布。	-	河川流域や湖沼。水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐する等の被害が確認されている。長寿命であり、最長30年生きた例がある。	①特定外来、④各県、佐賀、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
19	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	バイク科(ノーザンバイク及びマスキーバイクを除く。)(カワカマス科)	<i>Esox</i> Gen. spp.	I	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ大陸とユーラシア大陸の北部原産。アメリカとカナダの非自然分布域に外来分布。一部は人工水路を伝っての侵入。	-	河川流域や湖沼。水草の多い場所を好む。	かつては観賞魚として利用されていた。現在は輸入等が規制されている。	-	マスキーバイクやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様に、捕食や競争により在来魚類を駆逐する等の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。	①未判定、④各県、北海道、栃木、佐賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-
20	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			スポットテッドティラピア	<i>Tilapia mariae</i>	I,IV	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	アフリカ大陸西部のギニア湾沿岸諸国原産。アメリカとオーストラリアに外来分布。	-	沿岸域の沼や河川下流域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。果ては観賞魚が卵や仔魚を保護するため初期の生存率が高い。国内での定着可能性について、知見の集約が必要。	③GISD、④各県、東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1430">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1430</a>	-	-	-	-
21	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種			カワズメ属(ブルーティラピア、カワズメ及びナイラティラピアを除く。)	<i>Oreochromis</i> spp.	I	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	アフリカ大陸と中東地域原産。ロングフィンティラピア、 <i>O. spilargenteus</i> 、 <i>O. aureolepis</i> 等がアフリカや中東、フィジー、アメリカ等に外来分布。	沖縄島で確認。	河川や湖沼。淡水から汽水まで。	食用又は観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	世界の熱帯・亜熱帯の河川や湖沼では競争により在来種を駆逐したり、付着藻類、デトリタス、産生動物等を食べて食物網の基盤を改変するおそれがある。	③GISD、④各県、東京	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Oreochromis">https://www.iucngisd.org/gisd/speciesna.me/Oreochromis</a>	-	-	-	-
22	未定着	定着防止外来種			タイワンドジョウ属(カムルチー、コウタイ及びタイワンドジョウを除く。)	<i>Channa</i> spp.	I,IV	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	アジア地域原産。レッドスネークヘッドとブラックスネークヘッドがアメリカに外来分布。	-	淡水域。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	本属には国内で既に定着している3種の他、海外においても外来種として定着しているものが数種含まれる。ブラチドン <i>C. striata</i> 、ゴブラスネークヘッド <i>C. marulius</i> では競争により在来種を駆逐する可能性があるとされている。空気呼吸が可能で干出や低酸素に強く、卵や稚魚を保護するため、他種との競争で有利になり得る。観賞魚として様々な種が多く利用されている。	⑤検討委員	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/SpeciesList.php?synonym=Channa&amp;synonym=ScientificName+where+Genus+Equus+3C03EChanna3C2F7F3E&amp;crit2=CO NTAINS&amp;crit1=EQUAL">https://www.fishbase.org/SpeciesList.php?synonym=Channa&amp;synonym=ScientificName+where+Genus+Equus+3C03EChanna3C2F7F3E&amp;crit2=CO NTAINS&amp;crit1=EQUAL</a>	-	-	-	-
23	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ガンブスィア・ホルブローキ(タツプミノー、モスキートフィッシュ)	<i>Gambusia holbrooki</i>	I,IV	○	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部の沿岸地域原産。ヨーロッパ南部、アフリカの一部、中東、インド、マダガスカル、プエルトリコ、シンガポール等に外来分布。	-	主に水田地帯等の流れの無い水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。	-	オーストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や仔魚の捕食、攻撃が確認されており、これらの減少につながっている。胎生。	①特定外来、③GISD、④各県、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に関与する被害		逸出・拡散																
								生物	導入	競争	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	人体	経済産業	利用	付着	導入													
24	未定着 (小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	ナイルパーチ	<i>Lates niloticus</i>	I	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	西アフリカ～ナイロ川流域。湖、水路等。湖では沿岸部に分布。	-	湖、河川流域、水路等。湖では沿岸部に分布。	観賞魚として利用されている。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県：長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=89">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=89</a>	-	-	-	-		
25	未定着	定着防止外来種			マーレーコッド	<i>Maccullochella poellii</i>	I,IV	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系、クーンガ川等原産。	-	主に河川流域、湖、貯水池等。藻木や水生植物等の物陰を好む。急流の岩場でも見られる。	観賞魚として利用されている。また、管理釣り場での釣魚としての利用も始まっている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争・捕食圧が生じる可能性がある。管理釣り場での利用が始まっており、今後逸出等によって野外へ定着するおそれが高まっている。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
26	未定着	定着防止外来種			ゴールデンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>	I,IV	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系、クーンガ川等原産。	-	河川流域、湖、貯水池等。藻木や水生植物等の物陰を好む。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争・捕食圧が生じる可能性がある。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
27	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ペルクティス科(狭義)(マーレーコッド及びゴールデンパーチを除く。)	Percichthyidae Gen. spp.	I,IV	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	オーストラリアと南米原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されていた。現在は未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争・捕食圧が生じる可能性がある。同様の生態を持つ種が多いと思われ、科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/familysummary.php?ID=288">https://www.fishbase.org/familysummary.php?ID=288</a>	-	-	-	-		
28	未定着	定着防止外来種			オヤニラミ属(コウライオヤニラミ及びオヤニラミを除く。)	<i>Coreoperca spp.</i>	I,IV	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	海南島を含む中国南部～ベトナム北部原産。	-	淡水域から汽水域。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	宮崎県大淀川水系でナンエツオヤニラミC. whiteheadiの確立事例がある。当該水系では同属の近縁種であるコウライオヤニラミが定着して、捕食や競争により生態系被害を及ぼしており、ナンエツオヤニラミの確立事例に鑑みると、同様の生態をもつものと考えられる同属他種の導入や、それに伴う生態系被害の可能性が高い。生態系被害について、知見の集積が必要。	⑥国内での確認情報のある外来種	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/summary/Coreoperca-whiteheadi.html">https://www.fishbase.org/summary/Coreoperca-whiteheadi.html</a>	-	-	-	-		
29	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	アムール川水系、中国原産。	-	河川流域や湖沼。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近い。日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する事例が知られ、害魚とされている。	①特定外来、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
30	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コウライケツギョ	<i>Siniperca scherzeri</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	-	河川や湖沼。ケツギョよりも流れのある場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近い。日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。	①特定外来、④各県：栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
31	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ケツギョ科(オヤニラミ属、ケツギョ及びコウライケツギョを除く。)	Siniperoidae Gen. spp.	I,IV	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	中国、ベトナム、朝鮮半島、原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されている。ケツギョ属は現在未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ケツギョやコウライケツギョが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase: <a href="https://www.fishbase.org/search.php">https://www.fishbase.org/search.php</a>	-	-	-	-		
32	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ブルーギル属(パンキンシードサンフィッシュ、ブルーギル及びロングイヤースァンフィッシュを除く。)	<i>Lepomis spp.</i>	I,IV	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	北米東部～メキシコ北部原産。レッドプレストサンフィッシュL. auritusやグリーンサンフィッシュL. cyanellus等がヨーロッパや韓国、南米、オーストラリア等の他、アメリカ合衆国の非分布地域に外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	未判定外来生物に指定される以前は観賞魚として利用されていた種もある。そのため、指定前から繁殖され、維持されていた個体がいる可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	海外では本属に含まれるいくつかの種で捕食や競争による生態系への悪影響を及ぼした事例が知られている。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑤検討委員	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/">https://www.iucngisd.org/gisd/</a>	-	-	-	-		
33	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	サンフィッシュ科(ブルーギル属、コクチバス及びオオクチバスを除く。)	Centrarchidae Gen. spp.	I,IV	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	北米東部～メキシコ北部原産。レッドアイバスMicropterus coosaeやスポッテッドバスM. punctulatus、ロッキウスAmbloplites rupestris等が中南米やヨーロッパ、アフリカに外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	一部の種が観賞用や釣魚として利用されている。現在は特定外来生物に指定され、利用は指定以前に比べて限られる。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オオクチバスやブルーギルが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑤検討委員	Boschung and Mayden(2004)	-	-	-	-		
34	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヨーロッパアンバーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	ヨーロッパとアジア北部原産。オーストラリアとニュージーランド、ヨーロッパ南部、アフリカ、キプロス、中国等に外来分布。	-	河川流域、湖沼等。木の根が張り出した水域が豊富な場所を好む。	観賞魚として利用されている。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スウェーデンのダム湖でも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。	①特定外来、③GISD、④各県：茨城、長崎、沖縄	Global invasive species database: <a href="https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=548">https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=548</a>	-	-	-	-		
35	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	バイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	ヨーロッパ中央部～西アジア原産。ヨーロッパ西部及び南部、モロッコ、中国等に外来分布。	-	河川流域や湖沼。深みのある静穏な水域を好む。汽水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペイン等のヨーロッパ諸国で在来のバイク科魚類等の減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	①特定外来、④各県：茨城、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
36	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ホワイトバス	<i>Morone chrysops</i>	I	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-	アメリカ東部とカロライナ川流域原産。モロッコとトルコに外来分布。	-	河川流域や湖沼。河川を遡上。	本種そのものの利用に関する情報は得られなかった。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。カリフォルニア州のラウア湖とその下流では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県：茨城、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目												原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症		
								定着可能性	生態系被害	分布拡大	重要地域	特に関与する被害	逸出・拡散	生物 導入	競合	交雑	捕食 捕食	生態系 改変	繁殖													気候	人体
37	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	サンシャインバス	<i>Morone chrysops</i> <i>x Morone saxatilis</i>	I	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	作出個体のため原産地はなし。アメリカの非自然分布域に外来分布。	霞ヶ浦(茨城)と東京湾で記録がある。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。一部の管理釣り場では利用されているストライパーと呼ばれるものに、本交雑個体が含まれている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	同方の親種も特定外来生物に指定されている。親種よりも成長が早く環境適性に耐性があるとされる。	①特定外来、④各県:茨城、東京、長崎	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
38	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>	I	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	アメリカ大西部とカナダのセントローレンス川流域原産。エクトル、メキシコ、南アメリカ共和国、トルコ、ロシア等に外来分布。	内湾や河口域。産卵のために河川を遡上。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のデニス湖では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県:千葉、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																	
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)</b>																																	
39	定着初期/限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	I															中国、朝鮮半島、アムール川原産。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系の千葉、埼玉、栃木(渡良瀬)でも確認。	観賞魚として利用されている。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。知見の集積が必要。淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性もある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるイシガイ科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	①特定外来、④各県:茨城、千葉、東京、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	霞ヶ浦で駆除が行われたことがある。また、霞ヶ浦で他の外来魚とあわせて釣魚を回収したイベントの際に本種も対象となっていた。https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kantai/kasumigaura/ike/kasumi-tsurisakana.html【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
40	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③		カラゼニタナゴ(ロデウス・ノタータス)	<i>Rhodeus notatus</i>	I, II															中国、韓国原産。	岡山。	河川の淡水域。国内では主に農業用水路や小河川に生息している。生きた二枚貝の殻に産卵する。	観賞魚として利用され、ネット通販等でも販売されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。特にニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の導入に特に注意が必要。淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性もある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるイシガイ科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	④各県:東京、⑤検討委員	環境省中国四国地方環境事務所:https://chushikoku.eiv.go.jp/procure/ai/nbl.html	岡山県では環境省中国四国地方環境事務所が専門家の協力の下、防除を実施している。	公表されているものは無い	-	-
41	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③		タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	I, II															中国、朝鮮半島、台湾原産。フィジーに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	河川下流域、湖沼、水路。	一般的に観賞魚として大量に利用されている。また、釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。特にニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の導入に特に注意が必要。淡水真珠養殖用のヒレイケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性もある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるイシガイ科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	②日本、④各県:北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)	ニッポンバラタナゴ生息地では交雑や競争を防ぐために池干し等の手法で防除が行われている。	福岡県慢性的外来種防除マニュアル2021 https://www.pref.fukuoka.jp/uploaded/attachment/169206.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	「たなご」として一部地域で漁業法の漁業種となっている可能性がある。	-
42	定着初期/限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	コウライギギ	<i>Tachysurus fulvidracon (Tachysurus sinensis)</i>	IV															東アジア(アムール川-韓国、中国南部)原産。	霞ヶ浦(茨城)。	原産地では湖沼や河川、泥底の止水にも生息している。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュと食性が似ているため、在来生態系に被害を及ぼす可能性が高い。また、分布が拡大した際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念される。今後の動向に注意が必要である。生態系影響について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県:茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	NPO法人 水元ネイチャープロジェクトが、水元公園での防除について、外来生物法に基づき認定を受けている。	-	-		
43	分布拡大期~まん延期	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマス)	<i>Ictalurus punctatus</i>	I															アメリカ、カナダ南部、メキシコ原産。アメリカの非自然分布域の他、中南米とヨーロッパの一部、ロシア、フィリピン、ハワイ等に外来分布。	福島、霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系(茨城、栃木、埼玉、千葉、東京)、岐阜、京都、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄。	河川下流、湖沼や河川、泥底の止水にも生息している。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。また、養殖池から自然水域に逸出させないこと。	霞ヶ浦(茨城)ではイサザアミやハゼ類等の水産利用種を捕食し、これらに競合する可能性がある。また、分布が拡大した際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念される。今後の動向に注意が必要である。生態系影響について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県:福島、茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、滋賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	茨城県の霞ヶ浦、滋賀県の琵琶湖、福島の阿武隈川等で防除が実施されたことがある。福島県 阿武隈川におけるチャネルキャットフィッシュの駆除方法:https://www.pref.fukushima.jp/uploaded/attachment/261592.pdf【URL取得日:2025年11月27日】https://www.pref.shiga.jp/ippan/shigetosa/nyuu/suisan/19681.html【URL取得日:2025年11月14日】	水産庁 だれでもできる外来魚駆除2:https://www.fma.maff.go.jp/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-12.pdf【URL取得日:2025年11月27日】https://www.pref.shiga.jp/file/attachment/5463989.pdf【URL取得日:2025年11月14日】	-	-	
44	分布拡大期~まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	カダヤシ(タツミノ、モスキートフィッシュ)	<i>Gambusia affinis</i>	I															アメリカ南東部原産。世界中に広く外来分布。	福島以南の本州、小笠原、四国、九州、沖縄。	主に水田地帯等の流れの無い用水路、河川本流や湖沼にも生息している。観賞魚や蚊の駆除用として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	メダカの生息地に本種が導入された場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまいうる可能性がある。	①特定外来、②日本、③GSD、④各県:福島、茨城、千葉、東京、長崎、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	愛知県特定外来生物対策ハンドブック https://kansu.joho.pref.aichi.jp/Download/Download/34E69C4C6E99687.pdf【URL取得日:2025年11月27日】https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/5555/bustres/documents/gb.17.pdf【URL取得日:2025年11月14日】	-	-	
45	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①③		コウライオヤニラミ	<i>Coreoperca herzi</i>	I															朝鮮半島原産。	宮崎県大淀川水系萩原川に定着。	川の上流域の石や礫が多い環境。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	環境DNAを用いた調査で、捕食や競合によって在来生態系に大きな影響を及ぼしていることが示された。	④各県:東京、岐阜、宮崎、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)	大淀川水系では漁協による防除が行われている。	-	-	
46	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①③	未判定外来生物	パンキンシードサンフィッシュ(パンキンシード)	<i>Lepomis gibbosus</i>	I															アメリカ東部の大西洋岸と五大湖周辺原産。ヨーロッパの多くの国と南米の数か国、オーストラリアに外来分布。	石川。	砂礫底の池や水路から河川まで、水中植物の繁茂する場所を好む。	観賞魚として利用されている。現在は未判定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	石川のため池で確認された。定着の可能性が高いとされている。北米大陸の本来の生息域外の他、ヨーロッパの多くの国に水産利用目的で導入されている。生態系への影響については明らかになっていないが、固有の軟体動物への捕食が確認されているほか、多様性の低下や在来種への攻撃性が指摘されている。卵の保護を行うため初期の生存率が低い。	⑥国内での確認情報のある未判定外来生物	藤田(2025) Boshung and Mayden(2004)	-	-	-	







No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症				
								定着可能性	生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																				
								生物	導入	競合	交雑	捕食	捕食	生態系改変	繁殖	気候		人間	経済	産業	利用	付着	逸入													
80	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			ナイルティラピア(チカガイ、イズミダイ)	<i>Oreochromis niloticus</i>	I			◎	-	◎	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	アフリカ大陸西部、タンザニア、南アフリカ、エチオピア、ケニア、インドネシア、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、中国、インド、パキスタン、イラン、イラク、トルコ、シリア、ヨルダン、イスラエル、オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ、マダガスカル等に外来分布。	南日本の温暖地や工場排水で温暖な水域、小笠原諸島、南西諸島。	河川流域、湖沼、ダム湖、河口域等。	少数が食用に養殖されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉が流れ込んでいる等水温の高い川)。	世界の熱帯・亜熱帯域では在来種を駆逐しているほか、付着藻類、フジツバ、底生動物等を食べて食物網の基盤を破壊している。口内で卵や稚魚を保護するため、初期の生存率が高い。寿命は約7年。池田湖(鹿児島)、沖縄、小笠原等に侵入。局所的に長期間にわたって定着。	③GISD、④各県、北海道、青森、茨城、東京、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、徳島、高知、福岡、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道のオンネトー湖のことでグッピーとあわせて防除が実施され、淡水を引き込んで水温を低下させることで根絶した。 【URL取得日:2025年11月27日】				持続的養殖生産確保法の特定疾病にかかるおそれのある水産動物に含まれる。
81	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			ジルトイラピア	<i>Goptodon zillii</i>	I			◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	アフリカ大陸赤道以北、パレスチナ原産。東ヨーロッパや中東、マダガスカル、アジア、メキシコ、フィリピン等に外来分布。	滋賀、鹿児島、南西諸島。	河川流域、湖沼等。多様な環境に生息し、水温や塩分濃度に対してきわめて広い適性を示す。	現在の利用に関する情報は得られなかった。	-	滋養及び鹿児島(南西諸島を除く)では工場の温排水や湧水のある場所等に定着している。特に、小笠原・南西諸島で本種が生息している水域では、在来種が見られなくなっているところがある。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	③GISD、④各県、東宮、滋賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	熊本県の江津湖では釣られた魚の回収ボックスや電気ショックボート等による外来魚の駆除が行われ、本種も駆除が行われている。 https://www.city.kumamoto.jp/hk/ji/pub/detai.aspx?c_id=54id=7881 【URL取得日:2025年1月14日】				
82	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			ベヘレイ	<i>Odontesthes bonariensis</i>	I,IV			○	-	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル南部原産。チリ、ペルー、パラグアイ、イタリヤに外来分布。	霞ヶ浦(茨城)、丹沢湖(茨城)、丹沢湖(神奈川県)で確認。	湖。水温は10~28℃だが、冬期まで程度になる場所でも生息できる。	管理釣り場等で利用されていたことがある。養殖もされている。丹沢湖で野生化しているものは地域の名物として食用に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦・北浦では沖合生態系の優占種となるほど増殖しており、生態系に影響を及ぼしていると言われている。ワカサギやウツボ等への漁業被害も懸念される。生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。	④各県、茨城、千葉、山形、高知、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-				
83	定着初期/限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討対象外来種			グリーンソードテール(ソードテール)	<i>Xiphophorus helleri</i>	I,IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	◎	-	-	メキシコ、グアテマラ、ベリーズ、ホンジュラス原産。アメリカ、中南米、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ、マダガスカル等に外来分布。	山梨、奄美大島、沖縄島、久米島等。	比較的流れの速い河川から水路や池等にいる場合もある。	一般に広く知られた代表的な観賞魚であり、大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉が流れ込んでいる等水温の高い川)。	本州では温泉地に局所的に定着。沖縄では1960年代から定着。生態系への影響に関する知見の集積が必要。沖縄島では河川で増加し、在来魚種への影響が懸念されている。	③GISD、④各県、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	奄美大島で駆除を実施したことがある。				
84	定着初期/限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討対象外来種			グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	I			◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	-	-	◎	-	-	ベネズエラ、ガイアナ原産。世界に広く外来分布。	北海道、福島、長野、静岡、岡山、大分、南西諸島、小笠原。温泉や温排水のある場所では水草の生える場所にも生息。	止水を好むが、比較的流れのある小規模河川に生息している事も多い。流れのある場所では水草の生える場所にも生息。	一般に広く知られた代表的な観賞魚であり、大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉が流れ込んでいる等水温の高い川)。	温泉地や温排水に局所的に定着。北海道(内湯温泉)、長野(戸倉、上山田、遠野温泉)、静岡(蓮花寺温泉)、岡山(奥津温泉)、大分(別府温泉)、鹿児島(指宿温泉)、沖縄の各温泉、小笠原に侵入。海外の熱帯・亜熱帯域では、希少種を含むマダガスカル、カザン科、メダカ科等の小型魚類を駆逐している。卵生。定着は、国内の亜熱帯地域の他は、温泉地や温排水等のごく一部に限られる。	③GISD、④各県、北海道、福島、茨城、千葉、東京、愛知、奈良、和歌山、山口、徳島、高知、福岡、長崎、大分、熊本、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道のオンネトー湖のことでナイルティラピアとあわせて防除が実施され、淡水を引き込んで水温を低下させることで根絶した。 【URL取得日:2025年11月27日】				
85	分布拡大期～まん延期	防除検討対象外来種			カムルチー(ライギョ)	<i>Channa argus</i>	I,IV			○	-	○	-	○	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	アムール川～長江付近のアジア大陸東部原産。アメリカとオーストラリアに外来分布。	北海道東部、本州、四国、九州。	河川流域、湖沼、用水路等。抽水植物や水草が繁茂した場所を好む。	観賞魚として利用されている他、アメリカザリガニの駆除に用いられることもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。アメリカザリガニの防除等に利用する際は、厳密な管理下で行う必要がある。	北海道、本州、四国、九州のほぼ全域に分布。鳥の卵を捕食していることが報告されている。本種が多数生息する場所でも在来魚種が減少することはないとされている。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	③GISD、④各県、北海道、青森、福島、茨城、千葉、東京、愛知、奈良、和歌山、山口、徳島、高知、福岡、長崎、熊本、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。				
86	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	I,IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	台湾、海南島、長江流域以南の中国原産。	大阪、沖縄島、石垣島に定着しているが、現在はいずれも見られない。	流水環境に多いが、池沼にも生息。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	局所的に長期間にわたって定着していたが、近年は減少傾向にある。石垣島の個体群は絶滅した可能性もある。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	④各県、千葉、愛媛	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。				
87	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			タイワンドジョウ(ライギョ)	<i>Channa maculata</i>	I,IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	福建省以南の中国、ベトナム、台湾、海南島、フィリピン原産。ハワイとマダガスカルに外来分布。	瀬戸内海周縁の各地(愛媛を除く)と石垣島。	河川流域、湖沼、用水路等。抽水植物や水草が繁茂した場所を好む。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	和歌山、兵庫、石垣島に侵入。局所的に長期間にわたって定着。捕食や競合による生態系影響が懸念されているが、生息数が増えている。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	④各県、千葉、愛媛、奈良、和歌山、山口、高知	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。				
88	定着初期/限定分布	防除検討対象外来種			タイリクスズキ	<i>Lateolabrax maculatus</i>	I			○	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	黄海の渤海沿岸、東シナ海と北部南シナ海の中国大陸沿岸原産。	関東地方以西の本州、四国、九州の沿岸で確認。	沿岸域から河口域、淡水域への指向性が強い。河川に遡上。	養殖対象として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	スズキと分布の重複する朝鮮半島で交雑個体は見つかっていないが、人工的には容易に交雑する。愛媛県宇和島市の朱井川河口ではスズキと置き換わったとされる。知見の集積が必要。	④各県、茨城、愛媛、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、長崎、熊本、宮崎、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2019)	-				
<b>産業管理外来種(適切な管理が必要な産業上重要な外来種)</b>																																				
89	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			ニジマス(レインボートラウト)	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	I			◎	-	○	-	-	○	○	-	-	-	◎	-	-	-	アメリカの太平洋岸、カムチャッカ半島原産。世界に広く外来分布。	放流によりほぼ全国的に確認されているが、定着は北海道、東京、長野、和歌山、中国地方の一部地域のみ。	平地から高地の河川や湖沼、降海型。冷水性。	古くから大量に養殖・放流がされてきた水産上の重要魚種。多くの都道府県で漁業種として免許されている。また、管理釣り場の利用も多い。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	北海道では広い範囲で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。本州以南では越冬や増水による繁殖段階でほとんど定着できていないとの見解がある。本種とヤマメの交雑個体は発生段階で死亡するため、遺伝的かく乱の可能性は低い。ただし、正常な繁殖が阻害される可能性はある。漁業種が設定されている地域もあるため、防除を行う際は確認が必要がある。	②日本、IUCN、③GISD、④各県、北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、長崎、熊本、宮崎、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2019)	-			「さけ科魚類」として持続的養殖生産確保法の特定疾病にかかるおそれのある水産動物に含まれる。一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている。	



No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散	付着温入															
								生物	導入	競争	交雑	捕食	生態系改変	繁殖					気候														
12	国内由来の外来種	防除検討対象外			琵琶湖、淀川水系及び三方湖以外のハス	<i>Opesariichthys uniostris uniostris</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	琵琶湖淀川水系、福井県三方湖。	関東、北陸地方、濃尾平野、中国地方、九州。	ダム湖等大きな遊水池、湖沼、湖沼と結合した河川、大型河川。	琵琶湖では少量が漁獲されているが、一般にはあまり出回らない。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	魚食性のため、捕食による在来魚類への影響が懸念される。	③各県：福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、静岡、愛知、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
13	国内由来の外来種	防除検討対象外			東北地方、四国南部、九州南部以南などのオイカワ	<i>Opesariichthys platypus</i>	I, IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	関東以西の本州、四国の瀬戸内海側、九州の北部。国外では朝鮮半島西岸を含むアジア大陸東北部。	東北地方、四国太平洋側、隠岐諸島島後、五島列島、中通島、種子島、徳之島、沖縄島。特に沖縄島では絶滅危惧種の卵の被害が心配される。	平野部を流れる河川の中・下流域とそれに続く水路、きれいな湖沼。	釣魚として利用されている。観賞魚としても利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ウグイと競合し、負の影響を与える。自然環境下でカワムツ、ヤマツツ、オイカワの種間交雑が確認されている。最近沖縄島で確認された。沖縄島北部に分布しており、絶滅危惧種の卵の被害等の影響が懸念されるため、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。	④各県：北海道、青森、福島、高知、宮崎、鹿児島、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)、金尾(2025)	-	-	一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている。	-			
14	国内由来の外来種	防除検討対象外			関東地方のタカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephalus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	神奈川県西部及び新潟県境川水系以西の本州、四国、九州、対馬、五島列島。	関東地方。	河川上中流部。	観賞魚として利用されている。一部地域ではウナギ釣りの餌として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	多摩川では交雑によりアブラハヤと置き換わっている。	④各県：東京、⑥現行リスト作成時の検討種	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
15	国内由来の外来種	防除検討対象外			北海道、東北地方などのモツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	関東地方以西の本州、四国、九州。	北海道、東北地方、関東地方、長野、沖縄。	湖、池沼、それに続く細流、河川下流域、泥底の淀み。	観賞魚の餌用等として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	シナイモツゴ生息地に導入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。交雑個体は繁殖能がなく、遺伝的かく乱はないものの、繁殖に関する懸念により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。	③各県：北海道、青森、福島、長野、鹿児島、沖縄	細谷(編・監修)(2019)	シナイモツゴの生息するため池で水抜きによる防除が行われている。	-	一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている。	-			
16	国内由来の外来種	防除検討対象外			東北地方、関東地方及び九州のタモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	東海地方以西の本州、四国。	東北地方や九州。	河川中・下流域や湖沼、農業水路、ため池等の流れの緩やかな水域。水田地域の農業水路に多い。	観賞魚として利用されている他、川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	競合による影響が懸念されている。	④各県：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、鹿児島	細谷(編・監修)(2019)	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	-			
17	国内由来の外来種	防除検討対象外			琵琶湖以外のホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	琵琶湖。	琵琶湖以外の地域。	湖沼。	観賞魚として利用されている他、休耕田等で食用に養殖されていることがある。釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	奥多摩湖、山中湖、河口湖、諏訪湖、湯原湖に外来分布。スワモロコの地域はホンモロコの移殖による交雑又は競合が原因とされている。タモロコの生息地で交雑する可能性がある。	④各県：茨城、千葉、東京、愛知、奈良、和歌山、山口、愛媛、宮崎	細谷(編・監修)(2019)	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	-			
18	国内由来の外来種	防除検討対象外			関東地方以北及び九州などのゼゼラ	<i>Bivia zezera</i>	I, IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	濃尾平野、琵琶湖・淀川水系、山陽地方、九州北部。	関東地方、新潟県、濃尾平野(琵琶湖由来)、九州(琵琶湖由来)。特に九州では分布が拡大している。	主に湖沼や河川中・下流域の流れの緩やかな砂泥底から砂底。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦では1960年代に初認。九州北部では在来の同種集団と交雑。その他の影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。	④各県：青森、茨城、千葉、東京、和歌山、山口、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
19	国内由来の外来種	防除検討対象外			琵琶湖以外のスゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	I, IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	濃尾平野、淀川、山陽地方、九州北部。	琵琶湖では水深10m前後の砂底や砂泥底に群れで生息する。	琵琶湖。	観賞魚として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	関東地方や紀伊半島、四国に外来分布している。広島県での確認記録もあり、コウライモロコへの遺伝的かく乱が懸念される。	④各県：茨城、群馬、東京、鹿児島、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	-			
20	国内由来の外来種	防除検討対象外			東日本、九州などのコウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis tsuchigae</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	濃尾平野、和歌山県紀ノ川～広島県芦田川の比較的大きな河川に不連続に分布。国外では朝鮮半島西部。	九州。	河川の中・下流域とそれに続く水路。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。	④各県：千葉、東京、鳥取、高知	細谷(編・監修)(2019)	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	-			
21	国内由来の外来種	防除検討対象外			奄美群島以南のドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I, IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	日本全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	沖縄島。	水田や農業水路、湿地帯等の流れのない泥底。	観賞魚や食用として大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	沖縄県北部のヒョウモンドジョウ生息地に近接する地域に本州や中国由来のドジョウが確認されており、ヒョウモンドジョウに対する遺伝的かく乱が懸念されている。	③QISD、④各県：北海道、奈良、鹿児島	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
22	国内由来の外来種	防除検討対象外			石狩低地より南西の北海道及び本州以南のフクドジョウ	<i>Nemachilus barbatulus toni</i>	I, IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北海道石狩川より南西部、福島、神奈川県、宮崎。	北海道石狩川より南西部、福島、神奈川県、宮崎。	河川上流部から下流部の礫底。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	水生昆虫への捕食や同所的に生息する底生魚類への競合が懸念されている。本州で分布拡大が顕著であり、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。	④各県：福島、茨城、東京	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			
23	国内由来の外来種	防除検討対象外			青森県及び秋田県から兵庫県までの日本海側のミナミダカ	<i>Oryzias latipes</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	京都府以西の日本海側と岩手県以西の本州、四国、九州、琉球列島、隠岐や香取、対馬等の島嶼。	青森及び秋田から兵庫までの日本海側。	平野部の河川、池沼、水田、農業水路等の流れの緩やかな場所。	観賞魚や肉食魚の餌等として大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	北海道、関東地方、奈良県を含む全国(詳細不明)に外来分布。各地で放流による遺伝的かく乱が問題となっている。	④各県：北海道、福島、千葉、滋賀、和歌山、徳島、鹿児島、⑤地方自治体	細谷(編・監修)(2019)	-	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖			気候	人体	経済産業	利用													付着
24	国内由来の外來種	防除検討外来種			滋賀県、大阪府、和歌山県、東及び九州南部のオヤニラミ	<i>Coreoperca kawamobari</i>	IV	/	/	○	-	○	-	-	○	○	-	-	○	-	保津川・由良川以西の本州、四国北東部、九州北部。国外では朝鮮半島南部。	東京、神奈川、愛知、滋賀、宮崎。	水の澄んだ河川の緩流部、水路。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	導入年代は不明。滋賀県と愛知県では条例で放流を規制しており、岐阜県美濃加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東海地方や東京都の外來分布地は絶滅危惧種の生息地にもなっており、影響が懸念されている。近畿地方でも由良川水系、桂川水系以西には自然分布している。生態系影響についての知見の集積が必要。			③各県：東京、愛知、滋賀、奈良、和歌山、徳島、愛媛、宮崎 細谷(編・監修)(2019)	岐阜県において電気ショックとタモ網を用いた防除が実施されたことがある。	-	-	-

【国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散															
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖			気候	人体	経済産業	利用												
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																
<b>防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)</b>																																
1	定着初期/限定分布	防除検討外来種			外国産ギンブナ(ギベリオブナ)	<i>Carassius sp.</i>	I	/	/	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	-	国内では全国に分布しているが自然分布との区別は困難。国外では朝鮮半島と中国大陸。	琉球列島。	河川の渓流域を除くほとんどの環境。	海外では食用として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内に同種が存在する。在来種についても自然分布域は不明。琉球列島に中国や台湾産の個体が導入され、琉球列島固有のフナへの遺伝的かく乱や個体群の減少が確認されている。	④各県：東京、⑤検討委員	高田ほか(2010) 立原私稿	-	-	-	
2	定着初期/限定分布	防除検討外来種			外国産ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	IV	/	/	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	国内では濃尾平野、近畿地方、山陽地方、九州北部。国外では朝鮮半島から中国東部。	九州。	平野部の池沼や農業用水路の池を好む。	国内産の個体と思われるものは観賞魚として利用されている。中国産の個体はフナの導入に伴って入ったと推測されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	九州に中国由来のツチフキが外來分布しており、在来種との交雑による遺伝的かく乱が懸念されている。	④各県：茨城、群馬、東京、⑤検討委員	Jang-Liaw et al (2019)	-	-	-	
3	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			外国産ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I	/	/	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	国内では全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	全国。	主に水田や水路、湿地等の流れの無い泥底。	食用や観賞魚の餌等として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	全国各地に定着している。特に関東北部、大阪平野等では多くが外国産ドジョウか、在来種との交雑集団に置き換わっている。	④各県：東京、愛媛、鹿児島、⑤地方自治体	中島(2020)	鹿児島県：奄美群島にお住まいの方向け「ドジョウ、カラドジョウ防除マニュアル」 https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashir-kankyo/gairai/documents/72338_20231017_092523-1.pdf【URL取得日：2025年11月27日】	一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている。	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(昆虫)>  
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
③ 絶滅危惧種の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
I. 生態系被害が大きいもの。  
II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の原簿は、分類の並びとし、原則日本語目録に従った。なお、日本語目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症								
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																									
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着	混入																						
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																											
<b>侵入予防外来種(まだ侵入していない種)</b>																																											
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物(要緊急対応特定外来生物)	ヒアリ類4種群及びその交雑種(ヒアリ、アカミミアリ及びホクベヒアリを除く。)	<i>Solenopsis spp. (Solenopsis geminata species group, Solenopsis saevissima species group, Solenopsis tridens species group, Solenopsis virulens species group)</i>	I, III	○	○	◎	-	◎	-	-	○	-	◎	◎	-	○	-	◎	◎	-	○	-	◎	◎	-	○	北米～南米原産。	-	亜熱帯～暖温帯の草地等比較的開けた環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	これまでに我が国での確認事例はないものの、確認事例の多いヒアリ・アカミミアリ同様、貨物等に伴い侵入する可能性があることから注意が必要。節足動物の他、爬虫類、小型哺乳類を介して家畜への被害を起している種群もある。フランス領ギアナでは、 <i>S. saevissima</i> が元々沿岸の森林や牧草地にのみ分布していたが、熱帯雨林の地域が人為的に破壊されるにつれ、裸地となった地域に素早く分布を拡大しており、生態系への影響が懸念されている。刺された場合、深刻なアレルギーショックを引き起こした例も知られている。	①特定外来(要緊急対応)④各県:長崎	東ほか(2008)、寺山(2018)、橋本(編)(2020)、環境省HP(ヒアリ)	環境省・要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/</a> <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/e/attention/hiari.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/e/attention/hiari.html</a> [URL取得日:2025年11月27日]	環境省:要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/e/attention/hiariboujo.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outin/e/attention/hiariboujo.pdf</a> [URL取得日:2025年11月27日]	植物防疫法(アリアリとして、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	アフリカミツバチ及びアフリカ化ミツバチ	<i>Apis mellifera scutellata</i>	III	○	○	○	-	-	-	-	○	-	◎	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	アフリカ東部～南部原産。オーストラリア、北米南部～中部、西インド諸島等に外分布。	-	森林、農耕地、住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	南米等においては養蜂で用いられている。アフリカ化ミツバチは、セイヨウミツバチの近縁種アフリカミツバチとヨーロッパ産ミツバチとの交雑種である。形態による識別は困難。アフリカ化ミツバチは攻撃性が高く、海外では集団で人や家畜を長時間襲い、死に至らしめる事例がある。検査が必要な物(指定検疫物等): <a href="https://www.maff.go.jp/aqs/hou/37.html">https://www.maff.go.jp/aqs/hou/37.html</a> 監視伝染病(家畜伝染病): <a href="https://www.maff.go.jp/aqs/hou/41.html">https://www.maff.go.jp/aqs/hou/41.html</a> 監視伝染病(届出伝染病): <a href="https://www.maff.go.jp/aqs/hou/42.html">https://www.maff.go.jp/aqs/hou/42.html</a>	③GISD、④各県:長崎、沖縄、⑥その他	自然環境研究センター(編)(2019)	家畜伝染病予防法(蜜蜂として、指定検疫物)	-	-	腐蝕病(蜜蜂として監視伝染病(家畜伝染病)) パロア症、チョーク病、アカリダ症、ノゼマ症(蜜蜂として監視伝染病(届出伝染病))		
<b>定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)</b>																																											
3	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	外国産クワガタムシ(特定外来生物を除く。)	Lucanidae Gen spp.	I	○	◎	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	世界に広く分布。	-	森林や農耕地、登山、都市部等多様な環境に生息。	ペットとして多様な種が輸入されている。標本が多様な種が販売されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	野外での外国産のオオクワガタ属と日本産の同属種ヒラクワガタとの交雑個体の確認があり、遺伝的かく乱をもたらすおそれ指摘されている。	④各県:群馬、東京、兵庫⑥その他	荒谷(2003)、五箇(2004)、岩田(2024)、岩田(2024)、自然環境研究センター(編)(2019)	外為法(Colophon属全種がワシントン条約付属書IIIに掲載) 植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rg/turch/">http://www.pps.go.jp/rg/turch/</a> (検索結果819件) 輸入規制:規制無、うち9件が備考(外来生物法での規制有)	-	-				
4	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	特定外来生物のマルバネクワガタ属10種	<i>Neolucanus spp. (Neolucanus angulatus, Neolucanus baladeva, Neolucanus giganteus, Neolucanus katsuraorum, Neolucanus maedai, Neolucanus maximus, Neolucanus paramatus, Neolucanus saundersii, Neolucanus tanakai, Neolucanus waterhousei)</i>	I	○	-	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	東アジア、東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は高く、標本の取引が行われている。野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルナガゴキビ科のマルバネクワガタ類と交雑することによって遺伝的かく乱を生じさせることが危惧されている。	①特定外来④各県:長崎	井岡・田中(2018)、自然環境研究センター(編)(2019)	植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rg/turch/">http://www.pps.go.jp/rg/turch/</a> (検索結果83件) 輸入規制:規制無、うち9件が備考(外来生物法での規制有)	-	-					
5	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	クモテナガゴキビ属	<i>Euchirus spp.</i>	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルナガゴキビ科のクモテナガゴキビ類等の生息地に侵入した場合に、生息場所を巡って競合が生じるおそれがある。	①特定外来、④各県:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編)(2019)	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rg/turch/">http://www.pps.go.jp/rg/turch/</a> (検索結果83件) 輸入規制:規制無、うち9件が備考(外来生物法での規制有)	-	-						
6	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヒメテナガゴキビ属	<i>Propomaerus spp.</i>	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中国、南ヨーロッパ、西アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルナガゴキビ科のヒメテナガゴキビ類に比べて高緯度地域でも生息可能なため、九州以北の地域においても樹洞を利用する昆虫に影響を与えるおそれがある。	①特定外来、④各県:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編)(2019)	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rg/turch/">http://www.pps.go.jp/rg/turch/</a> (検索結果83件) 輸入規制:規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-	-						

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	評価項目																原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症				
							選定理由	定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		抽出・拡散																				
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入																		
7	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	テナガゴコネ属(ヤンバルテナガゴコネを除く)	<i>Cheirotonus</i> spp.	I	○	-	◎	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	-	◎	-	東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。現在は標本が売買されているもの、生体の販売は確認されていない。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガゴコネ生息地に侵入した場合には、生息場所を巡って競合が生じるおそれがあることに加え、近縁種であることから交雑による遺伝的かく乱が生じるおそれがある。	①特定外来④各県:長崎 <a href="http://www.aps.go.jp/rg/terch/">http://www.aps.go.jp/rg/terch/</a> (輸入規制規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	荒谷(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-					
8	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	外国産カブトムシ(サイカブトを除く)	<i>Dynastinae</i> Gen spp.	I	○	◎	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	◎	-	世界に広く分布。	-	森林や農耕地、里山、都市部等多様な環境に生息。	ペットとして多様な種が輸入されている。標本でも多様な種が販売されている。	ペットとして広く一般に流通している。野外への定着はまだ確認されていないが、飼育個体の脱走による野外での発見が定期的な報告されるため、注意が必要である。野外に逸出する場合、在来カブトムシとの交雑や競合による生態影響が懸念されている。	④各県:茨城、群馬、東京、長野、滋賀、京都、長崎、宮崎、沖縄、⑤その他 荒谷(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩田(2022)	荒谷(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩田(2022)	-	-	-	-					
9	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コカミアリ	<i>Wasmannia auropunctata</i>	I, III	○	○	◎	-	-	-	-	○	-	◎	◎	-	○	-	○	中南米原産。中米～フロリダ以南、アフリカ、ガラパゴス、ニューカレドニア等太平洋諸島、台湾、中国に外来分布。	-	森林、草地、農耕地等。	港湾のコンテナヤードでの確認事例のほか、空港の植物検疫での確認事例がある。海外では、野生動物へ被害を与えたとともに、人や家畜への刺傷被害の他に、イネコヤイネを失明させた例もある。	①特定外来、②W100: IUCN、③GISD、④各県:群馬、群馬、東京、岐阜、徳島、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、寺山(2024)	環境省:岡山県水島港国際コンテナターミナルにおけるコカミアリの確認について <a href="https://www.env.go.jp/press/press_01905.html">https://www.env.go.jp/press/press_01905.html</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-					
10	未定着	定着防止外来種		特定外来生物(要緊急対応特定外来生物)	ホクベイヒアリ	<i>Solenopsis xyloni</i>	I, III	○	○	◎	-	◎	-	-	○	-	◎	◎	-	○	-	○	北米原産。	-	亜熱帯～暖帯の草地等比較的開けた環境と思われる。	岩手県に運ばれた貨物から確認された事例がある。アメリカでは、他の在来アリの巣が感染された例が報告されている。南北アメリカ各地でアカミアリとの間で交雑が確認されている。	①特定外来(要緊急対応) 寺山(2022)	環境省:要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.aps.go.jp/rg/terch/">http://www.aps.go.jp/rg/terch/</a> (輸入規制規制無、備考:外来生物法での規制有)	-	-	-	-				
11	未定着	定着防止外来種		特定外来生物(要緊急対応特定外来生物)	ヒアリ(アカヒアリ)	<i>Solenopsis invicta</i>	I, III	○	◎	◎	◎	-	◎	○	-	◎	◎	○	◎	-	◎	◎	南米原産。オーストラリア、北米、台湾、中国南部等に外来分布。	-	亜熱帯～暖帯の草地等比較的開けた環境。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。研究機関において、学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	2017年以降、港湾部で多数確認、防除が実施されている。女王アリの確認事例もあるが、現時点では定着は確認されていない。他のアリ種を駆逐するだけではなく、集団で攻撃して多くの節足動物、地上生の両生類、爬虫類、小型哺乳類が減少することが知られている。北アメリカでは本種の刺傷によるアナフィラキシーショックでの死亡例が確認されている。	①特定外来(要緊急対応)、②W100: IUCN、③GISD、④各県:茨城、栃木、群馬、東京、千葉、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、高知、長崎、熊本、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	環境省:要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対応特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.aps.go.jp/rg/terch/">http://www.aps.go.jp/rg/terch/</a> (輸入規制規制無、備考:外来生物法での規制有)	-	-	-	-		
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																						
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)</b>																																						
12	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①	特定外来生物	アカボシゴマダラ(奄美亜種を除く)	<i>Hestina assimilis</i>	I																中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	宮城、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、岐阜、静岡県、京都、大阪、奈良、徳島。	都市、里山等。	生体の利用に関する情報は得られなかったが、ウェブサイト等において標本が取引されている。かつて愛好家により飼養されていた実績がある。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	日本に定着しているのは、名義タイプ亜種の <i>Hestina assimilis assimilis</i> と考えられる。また、近年与那国島で台湾亜種の確認記録がある。在来種と交雑して多くの節足動物、地上生の両生類、爬虫類、小型哺乳類が減少することが知られている。北アメリカでは本種の刺傷によるアナフィラキシーショックでの死亡例が確認されている。	①特定外来、②各県:北海道、福島、茨城、栃木、群馬、東京、千葉、神奈川、長野、岐阜、静岡県、京都、大阪、兵庫、徳島、長崎、沖縄	環境省自然環境局野生生物課(少種保全推進室)(編著)(2015)、自然環境研究センター(編著)(2019)	植物防疫法(タテハチヨ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.aps.go.jp/rg/terch/">http://www.aps.go.jp/rg/terch/</a> (アカボシゴマダラ <i>Hestina assimilis</i> として輸入規制規制無、備考:外来生物法での規制有)	-	-	-	-				
13	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	④	特定外来生物	クビアカツヤカミキリ	<i>Aromia bungii</i>	I																中国、朝鮮半島、ベトナム北部原産。	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、愛知、京都、大阪、奈良、徳島、和歌山、徳島。	公園や市街地の街路樹。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されている。特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	2012年に国内で確認されて以来、全国各地に次々と分布を拡大している。ウメ、サクラ、モモ、スモモでの被害が確認されており、分布の拡大が進むと、景観被害や農作物被害だけでなく、被害樹の落枝や倒木による人的被害が発生するおそれがある。また野営などで生じた場合、ヤマザクラ等の在来サクラ属植物にも影響が生じるおそれがある。	①特定外来、④各県:茨城、栃木、群馬、東京、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、高知、長崎、沖縄	岩田(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)、国立環境研究所侵入生物データベース	大阪府:大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画 <a href="https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20300/kubiakakekakur4pdf_1.pdf">https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20300/kubiakakekakur4pdf_1.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	森林総合研究所:クビアカツヤカミキリの防除法 <a href="https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12.pdf">https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	大阪府立環境農林水産総合研究所:クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書 <a href="https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20300/kubiakakekakur4pdf_1.pdf">https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20300/kubiakakekakur4pdf_1.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	※その他、複数地方公共団体のWebサイトにて種の同定方法や防除方法が掲載されている。	植物防疫法(法第二十二條[定義]第一項の農林水産大臣の指定する有害動物又は有害植物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.aps.go.jp/rg/terch/">http://www.aps.go.jp/rg/terch/</a> (クビアカツヤカミキリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-
14	定着初期/限定分布	防除推進外来種	④	特定外来生物	サビイロクワカミキリ	<i>Apriona swainsoni swainsoni</i>	I, III																インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、中国、朝鮮半島等原産。	福島。	市街地の街路樹。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されている。特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュを加害し、枯損させる事例が確認されている。街路樹等の植栽樹が加害されることで、葉が落ちて歩道の掃除を引起こす他、市街地等公共の場においては被害木の枯損や落枝等による二次的な人的被害が発生する危険性がある。その他、森林域に定着した場合、植生や森林生態系への悪影響が懸念される。	①特定外来④各県:福島、栃木、群馬、東京、岐阜、長崎⑤農林水産省、地方環境事務所、地方公共団体	武藤ほか(2022)、国立環境研究所侵入生物データベース	福島県:郡山市東山公園における「サビイロクワカミキリ」の防除について <a href="https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/54/88110.html">https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/54/88110.html</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-				





我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(昆虫)>

【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目撃されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本昆虫目録に従った。なお、日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、AntWiki)を参考とした。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症							
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																								
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済	産業	利用	付着	混入																				
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																										
<b>防除推進外来種(生態系等に及ぼす影響が大きいもの)</b>																																										
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②③		沖縄島のヤエヤマドボタル(オオシマドボタル)	<i>Pyrocoelia stripennis</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	八重山諸島。	沖縄島。	林内や草地、農地、緑地のある公園。	規制前はネットオークションで生体が取引されていた。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	沖縄本島へ導入・分布を拡大し、国内希少野生動物種であるアマノヤマカタマイマイへの影響が懸念されている。沖縄本島には、幼虫や卵が植栽木等に紛れて持ち込まれたと考えられている。沖縄県希少野生動物保護条例による指定外来種のため、沖縄県内(石垣市、竹富町及び与那国町を除く)において野外に放つことは禁止されている。また、飼養する際には、届出が必要。	④各県: 沖縄、⑤地方環境事務所、⑥その他	元藤・森(2022)	沖縄県: 沖縄県外来種対策行動計画に基づくヤエヤマドボタル(自然分布域以外)防除計画 <a href="https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/page_001/004/820/yaeyama_dobotaruplan.pdf">https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/page_001/004/820/yaeyama_dobotaruplan.pdf</a> 【URL取得日: 2025年11月27日】	-	-	-
<b>防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)</b>																																										
2	国内由来の外来種	防除検討外来種			北海道及び沖縄のカブトムシ本土産種	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	本州、四国、九州。	北海道、沖縄。	里山。	全国的にペットショップ等で販売されている他、Webサイト等を通して販売されている。養殖場も存在する。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	全国的にペットショップで販売されているため、脱走個体による遺伝的かく乱が起こる可能性がある。特に沖縄諸島の場合、固有亜種となるオキナワカブトムシ(沖縄本島)、クメジマカブトムシ(久米島)が生息しているため、侵入した場合の遺伝的かく乱の影響は重大となる。	④各県: 北海道、鹿児島、沖縄	小濱・高原(2002)、藤(1996)、日本列島甲虫全種目録	輸入規制は、植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rg/taochu/">http://www.pps.go.jp/rg/taochu/</a> (カブトムシ <i>Allomyrina dichotoma</i> , <i>Trypoxylus dichotomus</i> として輸入規制規制無)	-	-	-	
3	国内由来の外来種	防除検討外来種			伊豆諸島などのリュウキュウツツヤハナムグリ	<i>Protaetia pryori</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	奄美群島。	東京、千葉、神奈川県、伊豆諸島。	林道、都市公園。	一部のWebサイトで生体や標本が売買されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	侵入地では、カナブンやシロテンハナムグリ等の在来種との競合が懸念されている。	④各県: 群馬、東京⑥その他	大田(2012)、嶋本(2014)岸本ほか(2017)、磯谷幸・穂谷瑛(2021)、藤田(2018)、日本列島昆虫全種目録	輸入規制は、植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(陸生節足動物)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目撃されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順等は、分類の並びとし、原則日本分類学会ウェブサイト 日本産生物種目録検索 <http://www.ujshb.org/biosnum/search.php> に従った。

※ 斜線等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症								
								定着可能性	生態系被害				分布拡大	重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散																								
								生物	導入	競合	交雑	捕食	捕食	生態系改変	繁殖	気候	人体	経済産業	利用	付着混入																				
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																								
<b>侵入予防外来種(まだ侵入していない種)</b>																																								
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	アトラス属	<i>Atrax</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬傷被害がしばしば起きる。	①特定外来、④各県・栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ハドロニューク属	<i>Hadronyche</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬傷被害がしばしば起きる。	①特定外来、④各県・栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	特定外来生物のイトグモ属3種	<i>Loxosceles</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	北米～南米原産。グアテマラ、フィリピン、オーストラリア、チニニア等に外来分布。	-	住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	<i>Loxosceles reclusa</i> 、 <i>L. laeta</i> 、 <i>L. gaucho</i> の3種。壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬傷被害がしばしば起きる。	①特定外来、④各県・東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Blick et al. (2025)	-	-	-	-		
4	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ジュウサンボシゴケグモ	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>	III	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ原産。	-	住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。しかし、筋痙攣や嘔吐、呼吸困難等の症状を引き起こすこと、重症化した場合に死亡する可能性が示唆されている。	①特定外来、④各県・栃木、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
5	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	特定外来生物のゴケグモ属の全種(セアカゴケグモ、クロゴケグモ、ツヤクログケグモ及びジュウサンボシゴケグモを除く。)	<i>Latrodectus</i> spp.	III	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	世界に広く分布。	-	様々な環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	ゴケグモ属の種は基本的にα-ラトリキシンという強い神経毒を持ち、人体被害が懸念される。南西諸島に分布するアカゴケグモは在来種と考えられており、特定外来生物から除外されている。	①特定外来	Dzjalalija & Medie (2003)、Blick et al. (2025)	-	-	-	-		
<b>定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)</b>																																								
6	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	キョクトウサソリ科	<i>Buthidae</i> Gen. spp.	III	○	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	世界の熱帯・亜熱帯域に分布。	-	乾燥地、森林環境等。	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。	-	本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の可能性がともに示唆されている。近年、スリランカ原産である可能性が示唆されている。猛毒を有する種を多く含み、人の生命・人体に対する影響が重大である。2006年、沖縄県にて輸入した衣服に付着して侵入したサソリに刺されたという被害が報告されている。	①特定外来、④各県・東京	自然環境研究センター(編著)(2019)、国立保健医療科学院(2016)、Blick et al. (2025)	-	-	-	-			
7	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ツヤクログケグモ	<i>Latrodectus hesperus</i>	III	○	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	北米原産。イスラエル、韓国、アイルランドに外来分布。	-	都市部、住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	群馬県高崎市などで発見された報告はあるが、詳細は不明。クロゴケグモと類似した毒性分を持ち、多数の咬傷事例が報告されている。	①特定外来、④各県・栃木、東京、長崎、沖縄	ゴケグモ情報センターHP、清水ほか(2014)、Clark et al. (1992)、Blick et al. (2025)	-	-	-	-			
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																								
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)</b>																																								
8	定着初期/限定分布	防除推進外来種	④	特定外来生物	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	III																			アフリカ原産と考えられる。南北米、セトヘルグ、中東、パキスタン、インド、中国、タイ、マレーシア、パプアニューギニア、オーストラリア、ハワイに外来分布。	東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、岡山、山口、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄。	都市部、住宅地等。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いとされる。咬まれた場合、激しい痛みと嘔吐、腹部膨満などの症状を引き起こす場合がある。	①特定外来、②W100日本、④各県・群馬、茨城、栃木、東京、石川、長野、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、岡山、高松、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、ゴケグモ情報センターHP、清水ほか(2014)、Blick et al. (2025)	宮崎県、宮崎県特定外来生物(ハイイロゴケグモ)防除対策事業 <a href="https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activities/local/gov/hozen/r1/images/124_r1miyazaki-gokeyugumo.pdf">https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activities/local/gov/hozen/r1/images/124_r1miyazaki-gokeyugumo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意ください! <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_gokegumo.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_gokegumo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-	
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	④	特定外来生物	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	III																			東南アジア～オーストラリア原産と考えられる。パキスタン、インド、ニュージーランドに外来分布。	北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄。	都市部、住宅地等。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内における死亡例は今のところ確認されず、咬まれた場合、激しい痛みと嘔吐、腹部膨満などの症状を引き起こす場合がある。	①特定外来、②W100日本、④各県・福島、群馬、茨城、栃木、千葉、東京、石川、長野、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、岡山、高松、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、ゴケグモ情報センターHP、清水ほか(2014)、Blick et al. (2025)	三重県四日市市:セアカゴケグモの駆除方法等に関する調査研究業務 <a href="https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1723829189386/simple/seekagokeyugumo.pdf">https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1723829189386/simple/seekagokeyugumo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:特定外来生物セアカゴケグモ <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_seakagokeyugumo.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_seakagokeyugumo.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	福岡県:セアカゴケグモ対策マニュアル <a href="https://www.city.nakagawa.lg.jp/uploaded/attachment/13479.pdf">https://www.city.nakagawa.lg.jp/uploaded/attachment/13479.pdf</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
10	定着初期/限定分布	防除推進外来種	④	特定外来生物	クログケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>	III																			北米原産と考えられる。南米、アジアに外来分布。	山口。	都市部、住宅地等。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	2000年10月20日までに、山口県岩国市の米軍海兵隊基地内で、約60個体が捕獲されていることが報告されている。以来、基地側から定期的に情報提供を受け、地元新聞に逐一報道されている。基地内で継続的に確認されている他、基地外でも散見し確認記録がある。本種はゴケグモ属の中でも強い毒性を持ち、アメリカでは多数の咬傷事例が報告されている他、死亡例も確認されている。	①特定外来、④各県・群馬、栃木、東京、滋賀、山口、高知、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、ゴケグモ情報センターHP、清水ほか(2014)、Blick et al. (2025)	山口県と岩国市とが連携し、基地周辺の生息調査を実施している。 <a href="https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/325635.html">https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/325635.html</a> 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-		







我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(軟体動物)>  
【国外由来の外来種】

- 対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

- 選定理由  
I. 生態系被害が大きいもの。  
II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな被害を及ぼすもの。  
IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、裏リストを参考に整理した。

※ 網羅等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出機関等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症			
								定着可能性	生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																					
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済	産業	利用	付着	混入																
<b>侵入・定着防止外来種(未定着)</b>																																						
<b>侵入予防外来種(まだ侵入していない種)</b>																																						
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	カワヒバリガイ属(カワヒバリガイを除く。)	<i>Limnoperna spp.</i>	I, III	○	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	東アジア〜東南アジアに分布。	-	淡水域の岩の裏、水路等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている可能性がある。 <i>Limnoperna siamensis</i> はカワヒバリガイと形態が類似し、シノニムとして扱われることがある。	①特定外来、④各県: 栃木、静岡、長崎、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-							
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	クワツガガイ	<i>Dreissena bugensis</i>	I, III	○	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	黒海沿岸産。カスピ海、ヨーロッパ、北米等に外来分布。	-	淡水、汽水の岩、人工構造物、泥中。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与える。	①特定外来、③GISD、④各県: 東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-							
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	カワホトギスガイ(ゼブラガイ、ゼブラマツセル)	<i>Dreissena polymorpha</i>	I, III	○	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	◎	-	○	黒海、カスピ海及び周辺河川産。ヨーロッパや北米等に外来分布。	-	湖沼、河川。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与える。ヨーロッパでは本種の摂食活動を利用して貯水池の水質を浄化させる試みがなされている。	①特定外来、③GISD、④各県: 東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-							
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																						
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)</b>																																						
4	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	④		スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	<i>Pomacea canaliculata</i>	III														南米原産。中国、韓国、東南アジア、ハワイ等に外来分布。	関東以南。	水田、水路等。	かつては食用とされていたこともある。近年も「生きた除草剤」として水田への意図的導入例がある。	九州等で水稲への被害が起きている。アジア諸国ではタイモやレンコンなどへの被害も起きている。広東性血線虫の中間宿主となる。	②W100: 日本・IUCN、③GISD、④各県: 北海道、茨城、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡県、愛知、兵庫県、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤地方公共団体	自然環境研究センター(編著)(2019)	農水省: スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の被害防止対策について <a href="https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html">https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html</a> 【URL取得日: 2025年11月28日】 農水省: ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の被害防止について <a href="https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/attach/pdf/sukumi-10.pdf">https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/attach/pdf/sukumi-10.pdf</a> 【URL取得日: 2025年11月28日】 農水省: 病害虫の効率的防除体制の再編案(スクミリンゴガイの総合防除体系の確立) <a href="https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/syokubo/seika/attach/pdf/syokubo-seika-90.pdf">https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/syokubo/seika/attach/pdf/syokubo-seika-90.pdf</a> 【URL取得日: 2025年11月28日】 滋賀県: スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)防除対策マニュアル <a href="https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5464094.pdf">https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5464094.pdf</a> 【URL取得日: 2025年11月28日】 その他、複数の地方公共団体にて防除事業を実施している。	植物防疫法(法第二十二條[定義]第一項の農林水産大臣の指定する有害動物又は有害植物) 植物防疫法(リンゴガイ科として、植物防疫法施行規則第一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法(植物防疫法施行規則第一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物、まん延した場合には有用な植物に被害を与えるおそれがないことが確認されていない有害動物から除かれる有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について <a href="http://www.pps.go.jp/rf/tsrch/">http://www.pps.go.jp/rf/tsrch/</a> (輸入規制規制)	広東性血線虫								
5	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	④		ラブラタリンゴガイ(ジャンボタニシ)	<i>Pomacea insularum</i>	III														南米原産。ヨーロッパ、東南アジア、中国等に外来分布。	静岡、広島、八重山諸島。	水田、水路等。	近年も「生きた除草剤」として水田への意図的導入例がある。	輸入について植物防疫法上の規制あり。 広東性血線虫の中間宿主となる可能性がある。	④各県: 東京、静岡、長崎、鹿児島、沖縄	Matsukura et al. (2008)	-	-	可能性として広東性血線虫								
6	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③④		アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>	I, II, III														東アフリカ原産。マダガスカル、モーリシャス、コモロ、インド、東南アジア、中国南部、台湾、ハワイ、パナマ等に外来分布。	小笠原諸島、沖縄島、奄美諸島、宮古島、八重山諸島。	畑地に隣接した草むらや林縁の藪等。原生的な森林(小笠原諸島)。	かつては食用として利用されていたが、現在は利用に関する情報は得られなかった。	輸入について植物防疫法上の規制あり。 国内移動について植物防疫法上の規制あり。 広東性血線虫の中間宿主となる。 小笠原で国内希少野生動物種であるタイヨウフウトウカラを食害する。	②W100: 日本・IUCN、③GISD、④各県: 長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	広東性血線虫								
7	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	ヤマヒタチオビ(オカヒタチオビ)	<i>Euglandina rosea</i>	I, II														北米フロリダ、中南米産。熱帯・亜熱帯の世界各地に外来分布。	小笠原諸島、鳥島。	温暖な地域の森林〜草原。	利用に関する情報は得られなかった。	ハワイ諸島等で固有陸産貝類の絶滅要因となっている。現在、小笠原諸島ではニューギニアヤリガタリクスズムシの侵入により激減し、ほとんど見られぬ状態に陥っている。広東性血線虫の中間宿主となる可能性がある。	①特定外来、②W100: 日本・IUCN、③GISD、④各県: 長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	広東性血線虫(実験下で宿主となる)が知られている								
8	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③		アジアベッコウ(アジアベッコウマイマイ)	<i>Tanytremys indica</i>	I, II														インド原産。ブラジル、アメリカ南部、エジプト、モーリシャス、マレーシアに外来分布。	沖縄、小笠原諸島、大東諸島。	森林内、畑、集落地等。	利用に関する情報は得られなかった。	小笠原諸島母島で急速に分布拡大。陸産貝類の捕食が確認されている。 植物の流通を介して侵入・拡散したと考えられる。	④各県: 沖縄、⑤地方公共団体	Hirano et al. (2023) (農業研究所)近藤ほか(2021)、Kimura (2015)、環境省 <a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/Zouti/ine/iaslist/gairilist/bylist4/ref02.pdf">https://www.env.go.jp/nature/intro/Zouti/ine/iaslist/gairilist/bylist4/ref02.pdf</a>	小笠原世界遺産センター: 小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集令和5年度版 <a href="https://ogasawara-info.jp/wp-content/uploads/2024/04/e8a2687dfb37b880387330f7d99e.pdf">https://ogasawara-info.jp/wp-content/uploads/2024/04/e8a2687dfb37b880387330f7d99e.pdf</a> 【URL取得日: 2025年11月28日】	植物防疫法(ベッコウマイマイ科として、植物防疫法施行規則第一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-								

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症				
								定着可能性		生態系被害			分布拡大			特に問題となる被害		逸出・拡散																		
								生物	導入	競合	交雑	捕食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着													混入			
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①④	特定外来生物	カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>	I, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、朝鮮半島原産。アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイに外来分布。	利根川水系、大塩湖(群馬県)、天竜川、宇連川・矢作川(愛知県)、木曾川水系、琵琶湖・淀川水系。	淡水域の岩の裏、水路等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている。本種の生息水域における水利用は、分布拡大に直結するため注意が必要。	①特定外来、④各県:茨城、栃木、東京、群馬、静岡県、兵庫県、岡山、長崎、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	農研機構:特定外来生物カワヒバリガイの現状と被害対策 https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000743212.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	農水省:カワヒバリガイ被害対策マニュアル https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/k_hozen/pdf/kawahibarimanual.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	-	-	-
10	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①		ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米東海岸原産。北米西岸、イギリス、フランス、オランダに外来分布。	東京湾、大阪湾。	内湾の砂泥底。	食用として利用されている。千葉県市川市塩浜地先と船橋市地先では漁業種が設定され食用に漁獲されている。	東京湾や大阪湾の貧酸素環境でも残存することで在来種を抑えて優占種となる可能性があるほか、他の干潟でもアサリ等二枚貝と競合する可能性があり、放流や海に繋がる場所での蓄養は避けるべき。	④各県:北海道、千葉、東京、愛知、岐阜、静岡県、長崎、宮崎、沖縄	種彦・木幡(2005)、木村(2009)、中村ほか(2012)、遠藤・佐々木(2020)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-				
11	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①		シナハマグリなど外国産ハマグリ類(在来のハマグリ、チョウセンハマグリ、トッドウマハマグリ以外のハマグリ類)	<i>Meretrix petechialis</i> <i>Meretrix</i> spp.	I, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム原産。	太平洋側は東京湾以西瀬戸内海まで、日本海・東シナ海側は高山原、福岡県、有明海、鹿児島県。	内湾干潟の砂泥底。	種苗放流や蓄養が行われ、食用として利用されている。	蓄養池からの逸出に極力防ぎ、放出しないこと。	1970年代以降の漁獲量激減に伴い、中国からシナハマグリが放流され在来種と交雑が生じた。東京湾では台湾から <i>M.taiwanica</i> (和名なし)が在来種として導入されたと考えられる。在来ハマグリを保全するためには外来ハマグリを野放しを止め、アサリ等の移殖による非意図的な導入に留意すべき。	②W100:日本、④各県:千葉、東京、愛知、岐阜、静岡県、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	Yamakawa & Imai(2012)、Yamakawa & Imai(2013)、Hsiao & Chuang(2023)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-			
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																				
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	/	/	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	太平洋東岸原産。	北海道、本州、四国、九州。	潮間帯～水深30mの海域。大型貝類(サザエ・アワビ等)の貝殻や岩に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	水産利用種のサザエやアワビに付着し、高密度の低下を引き起こし、取り除きのためのコスト増大まで問題視されている。生態系等への影響については知見の集積が必要。	④各県:北海道、茨城、千葉、東京、静岡県、和歌山、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、山崎ほか(2009)、岩崎ほか(印刷中)	-	-	-			
13	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	/	/	コモチカワツボ	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ニュージーランド原産。アメリカ、オーストラリアに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	主に砂礫質の小河川等の淡水、汽水域からも報告があり、環境適応性は幅広い。	ホテルの餌として利用され、拡散する事例がある。	ホテルの餌やその他の目的で放出しないこと。	無性生殖で増殖し、繁殖力が極めて強く、非常に高密度で生息している地域が報告されている。知見の集積が必要。アサリの移殖による非意図的な導入に留意すべき。	③GISD、④各県:北海道、青森、福島、茨城、千葉、東京、神奈川県、長崎、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	浦部(2007)、増田ほか(2010)	国土交通省:馬淵川水辺の業種「コモチカワツボ」駆除大作戦! https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisyu/kisyu/images/31038_1.pdf 【URL取得日:2026年1月6日】	-	-	-		
14	定着初期/限定分布	防除検討外来種	/	/	カラムシロ	<i>Nassarius sinarus</i>	I, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国沿岸原産。韓国に分布。	瀬戸内海、有明海。	干潟。	中国では食用として利用されるが、精神障害、呼吸麻痺による死亡例がある。国内では利用に関する情報は得られなかった。	-	アゲマキやアサリの輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。同所的に生息するウネハマムシロやロオゴロフイと競合し、これらとの競争に悪影響を及ぼす可能性がある。カゴ漁などの水産業に大きな被害を与えている他、中国の東シナ海側では食用されることがあるが、精神障害や呼吸麻痺による死亡事例があるため、誤った摂食による人的被害が発生するおそれがある。	④各県:東京、京都、香川、福岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-			
15	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	/	/	ハブタエモノアラガイ	<i>Lymnaea columella</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。ヨーロッパ、オーストラリア等に外来分布。	本州、四国。	池沼、水路等の止水か半止水的環境の淡水。	利用に関する情報は得られなかった。	-	在来のモノアラガイとの置き換わりの事例が確認されている。肝臓等の吸虫類の中間宿主になりうる。知見の集積が必要。観賞用の魚種や水生植物に混入している可能性があるため、飼養又は栽培に使用した水を野放ししないようにすること。	④各県:北海道、福島、茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	高倉(2008)	植物防疫法(モノアラガイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-		
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	/	/	ヒロマキミズマイマイ	<i>Monetia dilatatus</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。ヨーロッパに外来分布。	宮城、神奈川、岐阜、新潟、愛知、石川、滋賀、大阪、兵庫。	河川。	利用に関する情報は得られなかった。	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、ハブタエモノアラガイと同様に生態系被害が懸念される。観賞用の魚種や水生植物に混入している可能性があり、飼養又は栽培に使用した水を野放ししないようにすること。	④各県:愛知、京都、福島、滋賀、福岡、⑤検討委員	河川水辺の国勢調査結果等	植物防疫法(ヒラマキガイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-		
17	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	/	/	オオクビキレガイ	<i>Rumina decollata</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	地中海沿岸地域原産。北米、南米、東アジアに外来分布。	本州(関東以西)、九州。	市街地、農耕地の乾燥した環境でも生息可能。	利用に関する情報は得られなかった。	-	農作物、園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸生貝類を捕食することが知られている。自家受粉で繁殖可能。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県:千葉、東京、静岡県、兵庫県、和歌山、山口、福岡、長崎、大分、沖縄	松隈・武田(2009)、梅谷(編)(2012)、Fisher et al.(1990)、石田(2020)、愛知県の外来種ブルーデータブックあいち2021(2021)	植物防疫法(アフリカマイマイ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-		
18	定着初期/限定分布	防除検討外来種	/	/	マダラコウラナメクジ	<i>Limax maximus</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア等に外来分布。	北海道、本州の一部に導入、定着も確認されている。	都市部、住宅地、農耕地、河川敷等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県:福島、茨城、群馬、東京、長野、滋賀、京都、長崎、沖縄	Rolls(1983)、Baker & McGhie(1984)	植物防疫法(コウラナメクジ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-		



我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(軟体動物)>  
 【国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目撃されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、移行リストを参考に整理した。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出機関等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症						
								定着可能性		生態系被害				分布拡大				特に問題となる被害		進出・拡散																					
								生物	導入	競合	交雑	捕食	摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入																				
<b>総合対策外来種(定着)</b>																																									
<b>防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)</b>																																									
1	国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種	防除推進外来種	①④		自然分布域外のサキグロタマツメタ	<i>Euspira fortunei</i>	I, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	東アジア原産。国内では伊勢湾、瀬戸内海、太平洋岸、有明海原産。	東北～九州の太平洋岸。	干潟や泥底の浅海。	利用に関する情報は得られなかった。	-	外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に大きな影響を与えている。本種が侵入した干潟等では大きなアサリの捕食被害が発生し、閉鎖された事例もある。	④各県:東京、静岡、岡山、長崎	大越・大越(編)(2011)、岩崎ほか(印刷中)	宮城県:サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	宮城県:サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	-	-
<b>防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)</b>																																									
2	国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種	防除検討外来種			小笠原諸島のヌノメカワニナ	<i>Melanoidea tuberculata</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	東～南アジア～北アフリカの熱帯～亜熱帯原産。国内では沖縄原産。愛知、滋賀、和歌山、鹿児島本土、小笠原に外来分布。	小笠原。	淡水、汽水域、水踏、水田。	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原諸島の河川において、固有のオガサワラカワニナとの競合・入れ替わりが確認されている。	④各県:愛知、滋賀、和歌山、鹿児島、⑤地方公共団体	佐竹ほか(2006)、佐々木ほか(2009)、新行内・佐々木(2023)	-	-	-	-		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト改定案 <動物(その他無脊椎動物)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)  
 ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。  
 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。  
 ③ 絶滅危惧種の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。  
 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由  
 I. 生態系被害が大きいもの。  
 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。  
 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。  
 IV. 知見が十分でないもの、近縁種と同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、掲載されている階級はBruosa et al. 2023: "Invertebrata 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストやその他の文献を参考に整理した。  
 ※ 斜線等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.3.27時点

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	和名(別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入												
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	繁殖	気候	繁殖																	
1	未定着	定着防止外来種			ムネミオプシス・レイディ(シーウォールナツ)	<i>Mnemiopsis leidyi</i>	I	○	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	○	-	北米・南米の大西洋沿岸原産。黒海、カスピ海、地中海等に外来分布。	-	内湾から河口域にかけての海域。	水槽展示が国内の水族館で行われている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	動物プランクトンや小魚を捕食することで、既存の生態系を破壊し、黒海では一時的に漁業を壊滅状態に陥らせた。	③GISD、④各県:長崎、沖縄	Ivanov et al. (2000)、自然環境研究センター(編著)(2019)、GISD	-	-	-	-			
総合対策外来種(定着)																																			
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)																																			
2	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③		ムシクイリクヒモムシ	<i>Geonemertes sp.</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地不明。小笠原諸島。	森林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	多様な節足動物を捕食。特に小笠原諸島の侵入地では土壌動物が壊滅状態。樹上性昆虫・飛翔性昆虫の捕食も確認されている。 <i>Geonemertes pealeensis</i> として小笠原諸島の被害が報告されてきたが、近年の遺伝子解析により、沖縄や大東諸島を含めて世界に広く分布する系統とは異なることが明らかになった。	⑤地方環境事務所、地方公共団体	Shinobe et al. (2017)、大林(2021)、Yoshino (2024)、Hookabe et al.(2025)	小笠原世界遺産センター:ははの湯できました https://ogasawara-info.jp/pdf/panphlet/panphlet_hahanoyu_r2_1.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 ※島外から持ち込まれた土付き苗を温浴処理し、混入動物全般を死滅させる。	-	-					
3	分布拡大期~まん延期	防除推進外来種	①④		オオマリコケムシ(クラゲコケムシ)	<i>Pectinatella magnifica</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米東部原産。ヨーロッパ、オーストラリア、韓国、中国等に外来分布。	本州、四国、九州。	湖沼。	利用に関する情報は得られなかった。	-	各地の水域で突然大規模な発生が生じることがある。取水施設での取水障害等の被害が生じる可能性がある。	④各県:青森、福島、茨城、愛知、京都、高知、福岡、⑤検討委員	宮下ほか(2014) 京都府レッドリスト福岡県リスト	愛知県大山市大坪池 https://biotop-sand.com/blog/introduction_93/ 【URL取得日:2025年11月28日】 ※池の流入水路上流部に底面敷設と小堤防を設置・透過・接触浄化	-	-					
4	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③		エリマキコウガイビル	<i>Bipalium vagum</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地不明だが、アジア原産と考えられる。アメリカ、パプアニューギニア、イタリヤに外来分布。	沖縄、小笠原諸島、大東諸島。	森林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	特に小笠原諸島母島で急速に分布を拡大し、固有陸産貝類を捕食。固有陸産貝類が急速に減少。世界自然遺産小笠原諸島管理計画(2024年4月)において、本種の脅威と長期的な対策が求められている。原産地は不明であるが、Bipaliidaeの起源が東南アジア、インド等であることから、本種もおそらくアジア起源とされている。	⑤地方環境事務所、地方公共団体	Jones & Sterrer(2005)、Brown et al.(2022)	小笠原世界遺産センター:ははの湯できました https://ogasawara-info.jp/pdf/panphlet/panphlet_hahanoyu_r2_1.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 ※島外から持ち込まれた土付き苗を温浴処理し、混入動物全般を死滅させる	-	-					
5	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	ニューギニアヤリガタリクウスムシ	<i>Platydemus manokwari</i>	I, II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ニューギニア原産。オーストラリア、太平洋島嶼、モルジブ等に外来分布。	沖縄、小笠原諸島、大東諸島、奄美群島。	森林、草原。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究目的で許可を受けた個体が飼養されている。	-	小笠原諸島父島の固有陸産貝類に壊滅的な捕食の影響を与えている。広東住血線虫の中間宿主となる。	①特定外来、②WI00-IUCN、③GISD、④各県:長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Sugira et al. (2006)、Iwai et al. (2010)	環境省:令和4年度ニューギニアヤリガタリクウスムシ防除手法開発業務 https://kanto.env.go.jp/procure/2022/post_962.html 【URL取得日:2025年11月28日】	小笠原世界遺産センター:母島におけるニューギニアヤリガタリクウスムシ侵入時の対応手法行動マニュアル【侵入時対応編】令和2年度改訂版 https://ogasawara-info.jp/wp-content/uploads/2024/10/3-4_Action_Manual_for_Responding_to_Invasion_of_New_Guinea_Flatworm_in_Hahajima_Invasion_Response_Edition_FY2020_Revised_Version_2020.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	-	広東住血線虫症				
6	定着初期/限定分布	防除推進外来種	②③		ブラティデムス属の1種	<i>Platydemus sp.2</i>	II	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地不明。	沖縄、小笠原諸島、大東諸島。	森林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原諸島で節足動物を捕食。絶滅危惧の固有トンボ成虫の捕食も確認されている。	⑤地方環境事務所	Shoji & Karube (2023)	-	-						
7	定着初期/限定分布	防除推進外来種	④		ヨーロッパザラボヤ	<i>Ascidella aspersa</i>	III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北大西洋ヨーロッパ沿岸、ノルウェー~地中海原産。アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、韓国等に外来分布。	北海道南部~東北地方。	水深50m程度までの沿岸海域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	北海道噴火湾でホタテガイ養殖に大きな経済的被害を与えている。	④各県:茨城、長崎、沖縄	金森ほか(2012)	水産業・漁村活性化推進機構:有害生物漁業被害防止総合対策事業 http://www.fpo-jf-net.ne.jp/gyomu/houjyogigo/05/yugai/yugai_file/yuguide.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】	-	-					
防除検對外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
8	分布拡大期~まん延期	防除検對外来種			カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>	III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地不明。北米、アラスカ沿岸、ギリシャ沿岸、ベルジャ湾岸、西太平洋等に外来分布。	本州、四国、九州、福徳、奄美群島。	内湾。	利用に関する情報は得られなかった。	-	オーストラリア原産という説があるが詳細は不明。付着基盤を被覆することにより、巨大な種を形成した種。海岸全体の水と堆積物の動態を変えてしまう。そうだけでなく、付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響があり、浜名湖で大発生してカキ養殖に被害を与えた。	②WI00-日本④各県:茨城、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、奈良、高知、福岡、長崎、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-						
9	分布拡大期~まん延期	防除検對外来種			カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	I, III	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地不明。ヨーロッパ等に外来分布。	本州、九州、石垣島。	河口、港湾等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	オーストラリア原産または大西洋北西岸原産とされるが確定していない。巨大な種を形成した種。海岸全体の水と堆積物の動態を変えてしまう。そうだけでなく、付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響があり、浜名湖で大発生してカキ養殖に被害を与えた。	④各県:茨城、静岡、愛知、京都、和歌山、鳥取、福岡、長崎、沖縄	Schwindt, E. Iribarne, O.O. Isla F. I. (2004)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(印刷中)	-	-						
10	分布拡大期~まん延期	防除検對外来種			アメリカナミウスムシ	<i>Girardia tigrina</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。ヨーロッパに外来分布。	関東以西。	河川中~下流域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大と個体数の増加が確認されている。ウスムシ類は捕食性であり、在来の水生動物に影響が懸念される。	④各県:福島、茨城、滋賀、京都、奈良、和歌山、高知、福岡、⑤検討委員	Benítez-Álvarez et al.(2023)、令和4年度河川水辺の国勢調査(2024)	-	-						
11	分布拡大期~まん延期	防除検對外来種			アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorotocephala</i>	IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。ハワイで確認事例がある。	埼玉、東京、神奈川県、愛知県、京都、兵庫、四国、福岡、宮崎。	河川中~下流域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大と個体数の増加が確認されている。ウスムシ類は捕食性であり、在来の水生動物に影響が懸念される。	④各県:茨城、和歌山、高知、福島、京都、福岡、⑤検討委員	川勝他(2007)、川勝他(2008)、Skjvs R.et al.(2010)	-	-						



## 候補種の抽出

- ①特定外来生物。(下記②～⑥で抽出された種で未判定外来生物にあたるものはその旨を記した。)
- ②IUCNのワースト100 [https://www.iucngisd.org/gisd/100\\_worst.php](https://www.iucngisd.org/gisd/100_worst.php)  
及び日本の侵略的外来種ワースト100: 日本生態学会(2002)外来種ハンドブック. 地人書館.
- ③Global Invasive Species Database 掲載種を追記。
- ④都道府県の外来種リストや条例等に掲載されている種。なお、掲載検討にあたっては2024年5月時点の都道府県リストへの掲載状況を参考とした。
- ⑤環境省の地方環境事務所、都道府県、地方公共団体、検討委員への意向調査による候補種。
- ⑥その他: 過去のリスト作成時の候補種(※)や事務局等の情報収集により、近年問題を及ぼしている/及ぼす可能性が危惧される種。  
※「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)の外来種リスト等を元に、日本に定着している外来種をリスト化した上で追記を行い検討されたもの。

## 【主な参考文献等】

### <哺乳類>

- 阿部永(監) (2008)日本の哺乳類 改訂2版. 東海大学出版, 神奈川. 206pp.
- 浅田正彦・落合啓二・長谷川雅美 (2000) 房総半島及び伊豆大島におけるキョンの帰化・定着状況. 千葉中央博自然誌研究報告, 6(1): 87-94.
- 浅川満彦 (2005) 外来種介在により陸上脊椎動物と蠕虫との関係はどうなったのか? : 外来種問題を扱うための宿主-寄生体関係の類型化. 保全生態学研究, 10(2): 173-183.
- 浅野玄 (2025) 海を渡ったアライグマ 人気者がたどった道. 東京大学出版会. pp170.
- Veron, G., M. L. Patou, G. Pothet, D. Simberloff & A. P. Jennings (2007) Systematic status and biogeography of the Javan and small Indian mongooses (Herpestidae, Carnivora). Zoologica Scripta, 36(1):1-10.
- Bomford, M. (2003) Risk Assessment for the Import and Keeping of Exotic Vertebrates in Australia. Bureau of Rural Sciences, Canberra.
- Brown, K. P. & Sherley, G. H. (2002) The eradication of possums from Kapiti Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 46-52.
- Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.
- 江口 勇也・佐久間 幹大・遠藤 優・坂西 梓里・鈴木 良実・千々岩 哲・高本 樹・片平 浩孝(2023)浜松市に定着した *Callosciurus* 属リス類の遺伝的集団構造: ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づく追跡調査とフィンレイソンリス由来ハプロタイプの優占. 哺乳類科学, 63(1): 53-62.
- Fisher, P. & Airey, A.T. (2009) Factors affecting 1080 pellet bait acceptance by house mice (*Mus musculus*). DOC Research & Development Series, 306: 22 p.
- Francis, M. C. (2008) A guide to the mammals of southeast Asia. Princeton University Press. : 31-334.
- Gosling, L. M. & Baker, S. J. (1987) Planning and monitoring an attempt to eradicate coypus from Britain. Symposia of The Zoological Society of London, 58: 99-113.
- Gurnell, J., S. P. Rushton, P. W. W. Lurz, A. W. Sainsbury, P. Nettleton, M. D. F. Shirley, C. Bruemmer & N. Geddes (2006) Squirrel poxvirus: Landscape scale strategies for managing disease threat. Biological Conservation, 131(2): 287-295.
- 長谷川雅美 (2017) 伊豆諸島におけるイタチ導入: 歴史と事実と教訓. Mikurensis, 6: 56-61.
- 橋本琢磨 (2011) クマネズミ - 島嶼からの根絶へ. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編). p351-378. 東京大学出版会, 東京.
- 橋本琢磨 (2025) 奄美大島から特定外来生物のフイリマングースを根絶 - 世界最大規模の根絶劇はどのように成し遂げられたのか? 科学, 95(2): 103-106.
- 堀繁久 (2004) 奥尻島の歩行性甲虫相とタヌキによる捕食の影響について. 北海道開拓記念館研究紀要, 32:1-20.
- Jackson, D. B. & Green, R. E. (2000) The importance of the introduced hedgehog (*Erinaceus europaeus*) as a predator of the eggs of waders (Charadrii) on machair in South Uist, Scotland. Biological Conservation, 93(3): 333-348.
- 川本芳・萩原光・相澤敬吾 (2004) 房総半島におけるニホンザルとアカゲザルの交雑. 霊長類研究, 20(2): 89-95.
- 岸本年郎 (2010) 小笠原における昆虫の保全. 日本の昆虫の衰亡と保護. 北隆館, 東京. pp.279-294.
- 久米学・小野田幸生・根岸淳二郎・佐川志朗・永山滋也・萱場祐一 (2012) 木曾川氾濫原水域における特定外来生物ヌートリア(*Myocastor coypus*) によるイシガイ科二枚貝類の食害. 陸水生物学報, 27: 41-47.
- 藏本卓哉・池田瞳・鳥居春巳・押田龍夫 (2009) 外来台湾リス類 *Callosciurus* の種同定に関する研究: フィンレイソンリス *C. finlaysonii* は静岡県に生息するのか? 日本哺乳類学会2009年度大会講演要旨.
- 増田隆一・井上友・江村正一・高田靖司・金子弥生 (2011) ハクビシンの多様性科学. 哺乳類科学, 51: 188-191.
- 増田隆一 (2011) 日本のハクビシンは台湾からやってきた~ 遺伝子から探る起源と多様性. どうぶつと動物園. 63: 26-29.
- Matsumoto, Y., Ju, Y., Yamashiro, T. & Yamashiro, A. (2015) Evidence of pre-introduction hybridization of Formosan sika deer (*Cervus nippon taiouanus*) on Okinoshima, Wakayama Prefecture, Japan, based on mitochondrial and nuclear DNA sequences. Conservation Genetics, 16: 497-502.
- McClelland, P. J. (2002) Preparation for the eradication of Norway rats (*Rattus norvegicus*) from Campbell Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 406 - 414. IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.
- Medina, M. M. & Martin, A., 2009. A new invasive species in the Canary Islands: a naturalized population of ferrets *Mustela furo* in La Palma Biosphere Reserve. Fauna & Flora International, Oryx, 44(1): 41-44.
- 南佳典・積田有斐・下山彩希・吉川朋子 (2016) 北海道東部釧路川源流域の河畔林内に生息するアメリカミンク *Neovison vison* が及ぼす小型げっ歯類への影響. 自然環境科学研究, 29: 1-10.
- 宮崎昭・丹治藤治 (2016) シカの飼い方・活かし方. 日本鹿研究 / 全日本鹿協会 編 (7): 51-53.
- 森生枝 (2002) ヌートリア野生化個体によるドブガイの大量捕食: 岡山県自然保護センター研究報告, (10):63-67.
- 永田純子・亘悠哉・高木俊人・立澤史郎・兼子伸吾. (2023) 喜界島に定着した国内外来ニホンジカの起源推定. 哺乳類科学, 63: 109-117.
- 中園和憲・炭山大輔・三谷奈保 (2020) トカラ列島口之島における外来テン (*Martes melampus*) の分布と在来種の捕食. 環境情報科学論文集, 34: 168-173.
- 日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.
- Nogueira-Filho, S. L., S. S. Nogueira & J. M. Fragoso (2009) Ecological impacts of feral pigs in the Hawaiian Islands. Biodiversity and Conservation, 18(14): 3677-3683.
- 白井啓・川本芳 (2011) タイワンザルとアカゲザル 交雑回避のための根絶計画. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p169-202. 東京大学出版会, 東京.
- 自然環境研究センター(編著)(2008)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.
- 田村典子 (2017) 狭山丘陵に生息する特定外来生物キタリスの早期対策の試み. 哺乳類科学, 57(2): 367-377.
- 田村典子・宮本麻子 (2005) 神奈川県における台湾リスの分布拡大の現状と拡大防止対策について. 神奈川自然史資料, 26:57-60.
- Taylor, L.L. & Lehman, S.M. (1997) Predation on an evening bat (*Nycticeius* sp.) by squirrel monkeys (*Saimiri sciureus*) in south Florida. Florida Scientist, 60(2): 112-117 .
- 鉄谷龍之・西山忠良・高野真矢・石井信夫・安藤元一 (2018) 静岡県伊東市における特定外来生物アムールハリネズミ *Erinaceus amurensis* の食性. 森林野生動物研究会誌, 43: 19-25.
- 常田邦彦・滝口正明 (2011) ノヤギ - 日本の状況と島嶼における防除の実際. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p317-350. 東京大学出版会, 東京.
- Veitch, C. R. (2002) Eradication of Pacific rats (*Rattus exulans*) from Fanal Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 381-388. Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.
- 亘悠哉 (2011) 衰退から回復へ: 日本の爬虫類・両生類を救うマングース対策. 爬虫両棲類学会報, 2011(2):137-147.
- Watari, Y., Matsuyama, Y., Tokuyoshi, M., Nose, T., Hayama, H., Kawakami, K. & Oka, N. (2025) Unexpectedly Early and Drastic Dietary Shift of Feral Cats to Seabirds: Evidence from Fecal Samples of Cats Captured during the Transition to the Breeding Season of the Streaked Shearwater on Mikura-Shima Island, Japan. Mammal Study, 50(3): 317-327.
- Wilson, D. E., R. A. Mittermeier, S. Ruff, A. Martinez-Vilalta & J. D. Hoyo (eds.) (2009) Handbook of the Mammals of the World. Vol.1/ Carnivores. Lynx Edicions, Barcelona. 727pp.
- 山田文雄 (2017) ウサギ学 隠れることと逃げることの生物学. 東京大学出版会, 東京. pp275.
- 山田文雄・小倉剛・池田透(編)(2011)日本の外来哺乳類: 管理戦略と生態系保全. 東京大学出版会, 東京. 439pp.
- 安田雅俊 (2017) 九州に定着した特定外来生物クリハラリスの由来と防除. 森林野生動物研究会誌, 4: 49-54.
- 増田隆一 (2024) ハクビシンの不思議 どこから来て、どこに行くのか. 東京大学出版会, 東京. 123pp.
- 安田雅俊, 田村典子, 森澤猛, 鳥居春巳 (2024) クリハラリス防除マニュアル. 哺乳類科学, 64(1): 89-94.

### 【分類の並びを準拠した文献】

- Wilson, Don E., DeeAnn M. Reeder (ed.) (2005) Mammal Species of the World (Third Edition). A Taxonomic and Geographic Reference. Johns Hopkins University Press. pp.2142.

### <鳥類>

- 愛知県環境部自然環境課 (2012) STOP! 移入種 守ろう! あいちの生態系 ~ 愛知県移入種対策ハンドブック ~. 225pp.
- 姉崎悟 (2015) 大東諸島北大東島で 2013 年 7 月に確認した鳥類. 山階鳥類学雑誌, 46(2):127-140.
- Lever, C. (1987) Naturalized Birds of the World. Longman Scientific & Technical. 615pp.
- del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2005) Handbook of the Birds of the World - Volume 10: Cuckoo-shrikes to Thrushes. Lynx Edicions. 812pp.
- del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2009) Handbook of the Birds of the World - Volume 14: Bush-shrikes to Old World Sparrows. Lynx Edicions. 893pp.
- 江口和洋・天野一葉 (2008) ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. 日本鳥学会誌, 57(1): 3-10.
- Grarock, K., Tidemann, C. R., Wood, J., & Lindenmayer, D. B. (2012) Is it benign or is it a pariah? Empirical evidence for the impact of the Common Myna (*Acridotheres tristis*) on Australian birds. PloS one, 7(7), e40622.
- 濱田哲暁・佐藤重穂・岡井義明 (2006) 外来種ヒゲガビチョウ *Garrulax cineraceus* の四国における記録と繁殖. 日本鳥学会誌, 55:105-109.
- 葉山久世・加藤ゆき・篠田授樹・松本令以・久米宗男・石井隆・池内俊雄 (2020) 特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録. BINOS= 日本野鳥の会神奈川支部研究年報, 27: 105-122.
- 日高敏隆(監)・樋口広芳・森岡弘之・山岸哲(編)(1997)日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ. 平凡社, 東京. 180pp.
- 鹿児島県ウェブサイト 鹿児島県侵略的外来種カルテ(キジ) (2017) [https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/documents/58074\\_20170401121841-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/documents/58074_20170401121841-1.pdf) [2026年1月閲覧]

環境省 (2018) 野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル. 環境省, 東京.

加藤ゆき (2010) カナダガン捕獲大作戦. 自然科学のとびら, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 16(2):10-11.

川上和人・叶内拓哉 (2012) 外来鳥ハンドブック. 株式会社 文一総合出版, 東京. 80pp.

金城常雄 (1993) 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ *Pycnonotus sinensis* の分布域の拡大と生態的特性. 九州病害虫研究会報, 39:119-123.

岸本寿男 (2001) オウム病 (psittacosis). IDWR, 3(45):12-14.

国立環境研究所ウェブサイト 侵入生物データベース コウライキジ. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20030.html> [2026年1月閲覧]

McCarthy, E. M. (2006) Handbook of avian hybrids of the world. Oxford University Press, New York. 190pp.

中村一恵・室伏友三・足立陸子・初瀬川孝夫 (1993) 神奈川県におけるカオグロガビチョウの野生化について. 神奈川自然誌資料, (14): 27-31.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク防除計画, 沖縄. 9pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくコウライキジ防除計画, 沖縄. 13pp.

Peacock, D. S., van Rensburg, B. J., & Robertson, M. P. (2007) The distribution and spread of the invasive alien Common Myna, *Acridotheres tristis* L. (Aves: Sturnidae), in southern Africa. South African Journal of Science, 103(11-12): 465-473.

佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡仁 (2018) 四国西部におけるサンジャクの野生化. Bird Research, 14: S1-S5.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

Sol, D., Santos, D. M., García, J., & Cuadrado, M. (1998) Competition for food in urban pigeons: the cost of being juvenile. Condor, 100: 298-304.

谷岡仁 (2020) 四国におけるハッカチョウ *Acridotheres cristatellus* の分布 (スズメ目ムクドリ科). 四国自然科学研究, 13: 34-41.

田中聡・嵩原健二 (2003) 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要, 29:19-24.

**【分類の並びを準拠した文献】**

日本鳥学会 (2024) 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京. 471pp.

財団法人山階鳥類研究所 (1979) ドバト害防除に関する基礎的研究.

※ 学名は「日本鳥類目録 改訂第8版(2024)」に準拠する。一部掲載の無い家禽については「外来鳥ハンドブック(2012)」に準拠した。

## <爬虫類>

阿部慎太郎 (2009) 沖縄の外来爬虫・両生類対策の現状. しまたてい, 50: 48-53.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥蘭稔・西村巖 (2008a) ミシシッピーアカミミガメのハス食害調査. Coastal Bioenvironment, 8: 133-143.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・田中明・奥蘭稔・西村巖 (2008b) ミシシッピーアカミミガメの食害調査と駆除. Coastal Bioenvironment, 13:845-856.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥蘭稔・椿光之助 (2009) ミシシッピーアカミミガメの食害調査(Ⅱ)～ハス・スイレンの消滅事例に見る移入動物と食害発生の関係～. Coastal Bioenvironment, 14: 75-79.

有馬進・鄭紹輝・鈴木章弘・奥蘭稔・川崎重治・井上英幸・永原光彦 (2010) ミシシッピーアカミミガメから隔離したハス栽培試験(中間報告). Coastal Bioenvironment, 15: 61-66.

Chiba, M., Hirano, T., Yamazaki, D., Ye, B., Ito, S., Kagawa, O., Endo, K., Nishida, S. & Chiba, S. (2022) The mutual history of Schlegel's Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and humans inscribed in genes and ancient literature. PNAS nexus, 1(5), pgac245.

Chiba, M., Chiba, S. (2024) Hidden invasiveness of non-native Schlegel's Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and three-way competition among natives and non-natives in Japan. Molecular Ecology, e17420.

槐真史・岩下歩叶・川崎守・鉄谷龍之・加藤英明. (2019). 神奈川県厚木市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* の生息状況. 神奈川自然誌資料, 2019(40): 85-87.

疋田努・鈴木大 (2010) 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. 爬虫両棲類学会報, 33: 569-576.

Huang, S. C., Norval, G. & Tso, I. M. (2008a) Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. Ecological Entomology, 33(5): 569-576.

Huang, S. C., Norval, G., Wei, C. S. & Tso, I. M. (2008b) Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. Zoological Science, 25(11): 1121-1129.

Hoskin, C. J. (2011) The invasion and potential impact of the Asian House Gecko (*Hemidactylus frenatus*) in Australia. Austral Ecology, 36(3): 240-251.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group - Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

Jono, T., Kawamura, T. & Koda, R. (2013) Invasion of Yakushima Island, Japan, by the subtropical lizard *Japalura polygonata polygonata* (Squamata:Agamidae). Current Herpetology, 32(2): 142-149.

片岡友美 (2017) 武蔵野台地におけるミシシッピーニオイガメ *Sternotherus odoratus* の採取記録. 爬虫両棲類学会報2017(1): 94. (講演要旨)

加藤英明・細田昭博・大庭俊司・衛藤英男 (2010) 静岡県で記録されたスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata,Agamidae). 日本生物地理学会会報, 29:4-5.

加藤英明・衛藤英男 (2012) 静岡県狩野川水系におけるカミツキガメ *Chelydra serpentina* (Testudines, Chelidridae) の定着. 東海自然誌(しはう岡山県自然史研究報告), 2012(5): 41-44.

加藤英明・大庭峻輔・大庭俊司・衛藤英男・多比良嘉晃 (2013) 静岡県磐田市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata, Agamidae) の繁殖と食性. 東海自然誌(静岡県自然史研究報告), 2013(6): 35-38.

小林頼太・長谷川雅美 (2005) 千葉県印旛沼流域における外来種ミナミシガメの定着について. 爬虫両棲類学会報, 2005(2): 150-154.

小林頼太 (2007) 日本におけるカミツキガメおよびワニガメの定着危険性—新聞記事を用いた外来ペットの逸出モニタリング—. 爬虫両棲類学会報, 2007(2): 101-110.

Kraus, F. (2009) Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis. Springer, Dordrecht. 2007: 101-110.

Kurita, T. (2013) Current status of the introduced common house gecko, *Hemidactylus frenatus* (Squamata: Gekkonidae), on Amamioshima Island of the Ryukyu Archipelago, Japan. Current Herpetology, 32 (2): 50-60.

栗山武夫・岡本卓・長谷川雅美・疋田努・五箇公一 (2009) 伊豆諸島八丈島へのニホントカゲの侵入. 爬虫両棲類学会報, 2009(2): 124-127.

黒木俊郎 (2005) 爬虫類におけるクリプトスポリジウム感染症. クリーパー, 27: 105-109.

Latella, I. M., S. Poe, and J. T. Giermakowski (2011) Traits associated with naturalization in *Anolis* lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. Biological Invasions, 12:53-58.

Lever, C. (2003) Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press, New York. 11: 47-54.

前之園唯史・戸田守 (2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. AKAMATA, 14: 75-80.

Matsuda, Y., Kaburagi, S., Kamezaki, N., Ohta, H., Takahashi, H., Imazu, T., Kagayama, S. & Kawamura, K. (2024) Density-dependent unidirectional hybridization between the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, and the exotic Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii*, in Japan, inferred from molecular and morphological analyses.,203(3): zlae070

向井貴彦・田上正隆 (2017) 岐阜県羽島市で捕獲されたスウィンホーキノボリトカゲ. 日本生物地理学会会報= Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 71, 249-251.

日本爬虫両棲類学会 (2009) 南九州で発見されたオキナワキノボリトカゲ外来個体群の対策に関する要望書. [https://herpetology.jp/statements/2009japalura\\_j.php](https://herpetology.jp/statements/2009japalura_j.php) [2026年1月閲覧]

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

小鹿野・小林, 2022. 日本各地で生じるニホンイシガメとクサガメとの交雑に関する文献データを用いた解析, 2022(2):176-187.

Okamoto, T., Kuriyama, T. & Goka, K. (2013) An impact assessment of the alien lizard *Plestiodon japonicus* (Scincidae, Reptilia) on a threatened island population of the native lizard *P. latiscutatus* at an early phase of the biological invasion. Biological Invasions, 2010:41-46.

大河内勇 (2013) 小笠原諸島兄島にグリーンアノールが侵入. AIRIES News, 10: 237-249.

Ota, H. (1999) Introduced Amphibians and Reptiles of the Ryukyu Archipelago, Japan. Pp. 439-452. In: G. Rodda, Y. Sawai, D. Chiszar, and H. Tanaka (eds.), Problem Snake Management: The Habu and the Brown Treesnake. Cornell University Press, Ithaca, New York.

Ota, H., Hoshino, I. & Sueyoshi, T. (2006) Colonization by the Subtropical Lizard, *Japalura polygonata polygonata* (Squamata: Agamidae), in Southeastern Kyushu, Japan. Current Herpetology, 25(1): 29-34.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & M. Toda (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. Global Environmental Research, 8(2): 133-143.

太田英利・那須哲夫・末吉豊文・星野一三雄・森田哲夫・岩本俊孝 (2013) 鹿児島県本土部における国内外来種オキナワキノボリトカゲ *Japalura polygonata polygonata* (Hallowell, 1861) (爬虫綱, アガマ科) の生息状況. Nature of Kagoshima, 38: 1-8.

沢田英司 (2012) レンコン田のアカミミガメによる被害と対策. p.9-13. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵 (編) 第14回日本カメ会議&ニホンイシガメシンポジウム講演要旨集, 2005: 116-119.

Shimizu, Y. (2013) Green anoles have invaded the protected area of the World Natural Heritage of the Ogasawara (Bonin) Islands. DIWPA News Letter, 32: 50-60.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

Suzuki, D., Ota, H., Oh, H.-S., & Hikida, T. (2011) Origin of Japanese populations of Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as inferred by a molecular approach. *Chelonian Conservation and Biology*, 6: 35-38.

Suzuki, D., Yabe, T. & Hikida, T. (2013) Hybridization between *Mauremys japonica* and *M. reevesii* inferred by nuclear and mitochondrial DNA analyses. *Journal of Herpetology*, 17: 1013-1020.

高橋洋生(2005)ホオグロヤモリの人為的洋上分散の一例. 爬虫両棲類学会報, 17: 34-48.

寺田考紀(2011)沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報, 38: 1-8.

Terrell, S. P., Funk, E. W. & Funk, R. S. (2003) Proliferative enteritis in leopard geckos (*Eublepharis macularius*) associated with *Cryptosporidium* sp. infection. *Journal of Zoo and Wildlife Medicine*, 34:69-75.

Toda, M., Takahashi, H., Nakagawa, N. & Sukigara, N. (2010) Ecology and control of the green anole (*Anolis carolinensis*), an invasive alien species on the Ogasawara Islands. p.145-152. In: K. Kawakami and I. Okochi (eds.) *Restoring the Oceanic Islands Ecosystem*. Springer, New York.

Toda, M., Okada, S., Hikida T. & Ota, H. (2006) Extensive natural hybridization between two geckos, *Gekko tawaensis* and *G. japonicus* (Reptilia:Squamata), throughout their broad sympatric area. *Biochem. Genet.*, 44(1-2): 1-17

辻井聖武・矢部隆・日野輝明(2012)千葉県印旛沼水系における外来種カミツキガメ(*Chelydra serpentina*)の食性. 名城大学農学部学術報告, 48: 13-17.

USGS-NAS(United States Geological Survey - Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

Yamashiro, S., Toda, M. & Ota, H. (2000) Clonal composition of the parthenogenetic gecko, *Lepidodactylus lugubris*, at the northernmost extremity of its range. *Zoological Science*, 2009: 124-127.

安川雄一郎(2005)今後日本国内に定着するおそれの高い淡水性カメ類について. 爬虫両棲類学会報, 15: 2029-2037.

安川雄一郎(2012)侵略的外来種としてのミシシippアカミミガメ~各国における現状と対策~. p.17-26. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵(編)第14回日本カメ会議&ニホンインガメシンポジウム講演要旨集. 48: 13-17.

ホオグロヤモリ(活ヤモリとして)販売例E・S・P <https://megalodon.jp/2025-0828-1005-26/https://www.espweb.jp:443/food/livingfood/> [2026年1月閲覧]

ホオグロヤモリ(エサ用ヤモリとして)販売例CANDLE HP [https://megalodon.jp/2025-0828-1405-34/r-candle.jp/products/detail.php?product\\_id=25](https://megalodon.jp/2025-0828-1405-34/r-candle.jp/products/detail.php?product_id=25) [2026年1月閲覧]

#### 【分類の並びを準拠した文献】

カメ目: Turtle Taxonomy Working Group [van Dijk, P.P., Iverson, J.B., Rhodin, A.G.J., Shaffer, H.B., and Bour, R.]. 2014. Turtles of the world, 7th edition: annotated checklist of taxonomy, synonymy, distribution with maps, and conservation status. In: Rhodin, A.G.J., Pritchard, P.C.H., van Dijk, P.P., Saumure, R.A., Buhlmann, K.A., Iverson, J.B., and Mittermeier, R.A. (Eds.). *Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group*. *Chelonian Research Monographs* 5(7):000.329-479, doi:10.3854/crm.5.000.checklist.v7.2014.

有鱗目: Uetz, P. (editor), *The Reptile Database*, <http://www.reptile-database.org>, accessed Feb 23, 2015.

Pough, F. H., Andrews, R. M., Crump, M. L., Savitzky, A. H., Wells, K. D., & Brandley, M. C. (2016) *Herpetology*, Forth Edition. 591pp Sinauer Associates, Inc. Sunderland, MA, USA.

科レベルの配列はPoguh et al.,2016に倣い、それ以下は学名アルファベット順。

#### <両生類>

Atobe, T., Osada, Y., Takeda, H., Kuroe, M., & Miyashita, T. (2014) Habitat connectivity and resident shared predators determine the impact of invasive bullfrogs on native frogs in farm ponds. *Proceedings of the Royal Society B*, 2007:101-110.

荒尾一樹・北野忠(2006)静岡県浜松市で確認されたアフリカツメガエル. 爬虫両棲類学会報, 2006: 17-19.

Beard, K. H., Price, E. A. & Pitt, W. C. (2009) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 5. *Eleutherodactylus coqui*, the Coqui Frog (Anura: Leptodactylidae). *Pacific Science*, 11:47-54.

土永知子・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部. 2019: 和歌山県田辺市鳥ノ巣半島のアフリカツメガエル. *南紀生物*, 61(2): 81-90.

土井敏夫(2012)ヌマガエル幼体によるドジョウ稚魚への捕食行動. 爬虫両棲類学会報 2012(1):17-19.

福山欣司・後藤康人・植田健仁・戸金大(2010)東京都でのヌマガエルの生息の確認. 爬虫両棲類学報, 14: 75-80.

後藤康人・小野高志(2021)八丈島のアズマヒキガエル駆除記録(2012年1月-2021年3月). 爬虫両棲類学会報 2021(2): 144-150.

八谷和彦・水野寛(2024)北海道深川市におけるアズマヒキガエル駆除活動と大量発生収束. 爬虫両棲類学会報 2024(1): 19-27.

Hirai, T. (2004) Diet composition of introduced bullfrog, *Rana catesbeiana*, in the Mizorogaike Pond of Kyoto, Japan. *Ecological Research*, 15: 61-66.

長谷川雅美・小賀野大(1998)講演要旨 房総半島で発見されたヌマガエル・その分布範囲と生息状況. 爬虫両棲類学雑誌, 17(4): 193-194.

林光武・赤羽記年・石塚利一・木村有紀(2000)栃木県におけるヌマガエル *Rana limnocharis* の分布確認記録. 栃木県立博物館研究紀要 -自然-, 65: 9-12.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group - Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

IUCN-red list <http://www.iucnredlist.org/> [2026年1月閲覧]

Kidera, N. & Ota, H. (2008a) Can exotic toad toxins kill the native Ryukyu snakes? : Experimental and field observations on the effects of *Bufo marinus* toxins on *Dinodon rufozonatum* wall. *Current Herpetology*, 27(1): 23-27.

Kidera, N., Tandavanitj, N., Oh, D., Nakanishi, N., Satoh, A., Denda, T., Izawa, M. & Ota, H. (2008b) 2008. Dietary habits of the introduced cane toad *Bufo marinus* (Amphibia: Bufonidae) on Ishigakijima, Southern Ryukyus, Japan. *Pacific Science*, 66: 255-270.

小林頼太・長谷川雅美(2005)関東平野におけるアフリカツメガエルの確認記録と定着可能性. 爬虫両棲類学報, 2005(2): 169-173.

Kraus, F. (2009) *Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis*. Springer, Dordrecht, 63: 297-316.

Lee, K., Chen, T., Shang, G., Glulow, S., Yang, Y. & Lin, S. (2019) A check list and population trends of invasive amphibians and reptiles in Taiwan. *Zookeys* 829: 85-130.

Lever, C. (2003) *Naturalized reptiles and amphibians of the world*. Oxford University Press, New York. [http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/11/Cane\\_toad\\_DAFWA\\_220410.pdf](http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/11/Cane_toad_DAFWA_220410.pdf)

前之園唯史・戸田守(2007)琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. *AKAMATA*, 62: 423-430.

Massam, M., Kirkpatrick, W. & Page, A. (2010). Assessment and prioritisation of risk for forty introduced animal species. *Invasive Animals Cooperative Research Centre*, Canberra.

松井正文(2005)DNA解析による外来種チュウゴクオオサンショウウオの生息確認. 河川環境管理財団. 27: 23-27.

松井正文(2009)外来生物クライシス. 小学館. [http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/10/Xenopus\\_iaevis\\_VPCendorsed\\_270410.pdf](http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/10/Xenopus_iaevis_VPCendorsed_270410.pdf)

三谷奈保・戸田光彦・荻野伊万里・玖須博一・野田一男・松尾公則(2009)対馬におけるヌマガエルの分布拡大および在来カエル類との関係. 長崎県生物学会誌, 66: 17-22.

光岡佳納子・戸田光彦・高橋洋生・谷村就盛・小賀野大・小林頼(2011)講演要旨 利根川下流域における外来生物アフリカツメガエルの生息状況. 爬虫両棲類学報, 2011(1): 50-51.

森口一・林光武・木村有紀・富岡克寛・小林敏男(2004)群馬県塚町と新田町におけるヌマガエルの分布確認. 爬虫両棲類学報, 19: 375-380.

日本爬虫両棲類学会編(2021)新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版.

日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

小賀野大・福祉融・木村孝康(2005)印旛沼水系に侵入したヌマガエルの分布範囲と生息状況. 千葉生物誌, 55(1): 1-8.

Olson, C. A., Beard, K. H. & Pitt, W. C. (2012) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 8. *Eleutherodactylus planirostris*, the Greenhouse Frog (Anura: Eleutherodactylidae). *Pacific Science*, 66(3):255-270.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & Toda, M. (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Global Environmental Research*, 17:193-194.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

高倉耕一・土田華鈴・松井正文・富永篤・吉川夏彦・江頭幸士郎・福谷和美・福山伊吹・山本和宏・松原康平・大沼弘一・原壮大朗・西川完途(2025)賀茂川におけるオオサンショウウオ類の個体群サイズ推定. 保全生態学研究, 30(2): 139-148.

田場美沙基・下地直子・山里将平・白幡大樹・富永篤(2013)鹿児島県と論島へのシロアゴガエルの侵入と定着. 爬虫両棲類学報, 2013(2):96-97.

上村亮・皆藤琢磨・小野宏治・富永篤(2022)ホンコンシロアゴガエル *Polypedates megacephalus* の沖縄県への侵入事例. *AKAMATA* 30: 36-41.

宇井大晃・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部(2025)和歌山県田辺市鳥ノ巣半島におけるアフリカツメガエルの駆除活動. *南紀生物*. 67(1): 84-91.

USGS-NAS(United States Geological Survey - Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

(2024)第10回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)

#### 【分類の並びを準拠した文献】

Frost, D.R., T. Grant, J. Faivovich, R. Bain, A. Haas, C. Haddad, R. de Sá, A. Channing, M. Wilkinson, S. Donnellan, C. J. Raxworthy, B. Blotto, P. Moler, R. Drewes, R.

Nussbaum, J. D. Lynch, D. Green, & W. C. Wheeler. 2006. The amphibian tree of life. *Bulletin of the American Museum of Natural History* 297: 1-370.

#### <魚類>

Allen, G. R., Midgley, S. H. & Allen, M. (2002) *Field guide to the freshwater fishes of Australia*. Western Australian Museum, Perth. 410pp.

Boschung, H. T. & Mayden, R. L. (2004) *Fishes of Alabama* Smithsonian Institution Press Washington. 736pp.

Centre of Agriculture and Biosciences International. Invasive Species Compendium. <https://www.cabidigitallibrary.org/product/QI> (CABI) [2026年1月閲覧]

Doi, T., Aoyama, S. & Kinoshita, I. (2004) Ontogeny of the mandarin fish *Siniperca chuatsi* (Perciformes: Sinipercaidae) reared in aquarium. *Ichthyological Research*, 51:337-342.

Etnier, D. A. & W.C. starnes (1993) The fishes of Tennessee. The University of Tennessee Press. Knoxville. 696pp.

FishBase. <https://www.fishbase.se/search.php>

Francis, R. A. eds. (2012) A Handbook of Global Freshwater Invasive Species. Earthscan. New York. 484pp.

藤岡康弘 (2013) 琵琶湖固有(亜)種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. *魚類学雑誌*, 60: 57-63.

藤田朝彦 (2025) 石川県で生息が確認された未判定外来生物 *Lepomis gibbosus* / パンプキンシードサンフィッシュ (新称). *Ichthy* 57: 44-47.

Global Invasive Species Database. <https://www.iucngisd.org/gisd/>

Goldstein, R.J., R.W. Harper, and R. Edwards (2000) American aquarium fishes. Texas A&M Univ. Press. 448pp.

萩原富司 (2007) 外来種の防除: 初期コントロールを目指して—霞ヶ浦におけるオオタナゴに関する調査—. *地球・人間環境フォーラム2006年度研究報告資料*. <http://www.gef.or.jp/activity/ecosystem/tanago/ootanago2007.pdf>

萩原富司 (2011) 霞ヶ浦における国外外来種オオタナゴ *Acheilognathus macropterus* の繁殖生態と生活史. *魚類学雑誌* 58(1): 41-48.

北海道ブルーリスト 北海道外来種データベース. <http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/>

細谷和海 (編著) (2019) 山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社. 560pp.

古橋龍星・中村潤平・是枝侑旺・米沢俊彦・本村浩之 (2020) 鹿児島県北西部の川内川水系における定着が確認された国内外来魚2種 (ハスとギギ) の標本に基づく記録. *Nature of Kagoshima* 46: 259-265

井原高志・乾隆帝・大畑剛史・鬼倉徳雄 (2011) ダム湖流入河川における国内外来魚ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris* の産卵環境. *日本生物地理学会会報*. 66: 41-48.

Invasive Species Compendium <http://www.cabi.org/isc/datasheet/65338>

石川真一・斎藤 晋・峰村 宏・宍田 幸男・西村 尚之 (2013) ブックレット群馬大学11 外来生物の脅威—群馬県における生息・生態・諸影響と除去方法—. 上毛新聞社事業局出版部, 群馬. 88pp.

Ishikawa, T. and K. Tachihara (2013) Introduction history of non-native freshwater fish in Okinawa-jima Island: ornamental aquarium fish pose the greatest risk for future invasions. *Ichthyological Research* September 2013 Published online.

伊藤玄・北村淳一・谷口倫太郎・熊谷正裕 (2023) 文献情報に基づく日本産タナゴ亜科魚類における国内外来種の分布状況. *保全生態学研究* 28: 125-135

Jang-Liaw NH, Tominaga K, Zhang C, Zhao Y, Nakajima J, Onikura N, Watanabe K (2019) Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations. *Ichthyol Res* 66:460-478

Kakioka, R., T. Kokita, R. Tabata, S. Mori and K. Watanabe (2012) The origins of limnetic forms and cryptic divergence in *Gnathopogon* fishes (Cyprinidae) in Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 96, 631-644. doi:10.1007/s10641-012-0054-x

環境省中国四国地方環境事務所 (2024) 岡山県内におけるスイゲンゼニタナゴの危機的状況について (外来タナゴ類の確認について) <https://chushikoku.env.go.jp/procure/alienbl.html> [2026年1月閲覧]

春日清一 (2001) 霞ヶ浦の外来魚による生態系崩壊. *国環研ニュース* 20(4):3-4.

川合禎次・川那部浩哉・水野信彦 (編) (1980) 日本の淡水生物—侵略と攪乱の生態学. 東海大学出版会, 神奈川. 220pp.

Kawamura, K., Nagata, Y., Ohtaka, H., Kanoh Y. & Kitamura, J. (2001) Genetic diversity in the Japanese rosy bitterling, *Rhodeus ocellatus kurumeus* (Cyprinidae). *Ichthyol. Res.*, 48: 369-378.

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (監修・編) (2001) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 (改訂版). 山と溪谷社. 東京. 719pp.

北川忠生 (2017) メダカ改良品種による野生集団の遺伝的攪乱. 2017年度 市民公開講座「第3の外来魚問題」—人工改良品種の野外放流をめぐる— 要旨

北原佳郎 (2024) ヒナモロコ属魚類 *Aphyocypris kikuchii* の標準和名. *Ichthy* 48: 28-32.

Kottelat, M. and Freyhof, J. (2007) Handbook of European Freshwater Fishes. Kottelat, Cornol & Freyhof, Berlin, 646 pp.

栗田喜久・乾隆帝・中島淳・鬼倉徳雄 (2011) 福岡県北部の遠賀川水系山田川用水路における魚類の出現パターン. *日本生物地理学会会報*. 66, 183-193.

Lever, C. (1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press, San Diego. 436pp.

Liu H, Yang, Koji Tominaga, Chungung Zhang, Yahui Zhao, Jun Nakajima, Norio Onikura (2019) Katsutoshi Watanabe 1 Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations. *Ichthyological Research* 66: 460-478.

Matsumoto, S., T. Kon, M. Yamaguchi, H. Takeshima, Y. Yamazaki, T. Mukai, K. Kuriwa, M. Kohda and M. Nishida (2009) Cryptic diversification of the swamp eel *Monopterus albus* in East and Southeast Asia, with special reference to the Ryukyuan populations. *Ichthyological Research* 57(1): 71-77.

松沢陽士・瀬能宏 (2008) 日本の外来魚ガイド. 文一総合出版. 東京. 157pp.

Miller, R. R. (2005) Freshwater fishes of Mexico. The University of Chicago Press. Chicago and London. 652pp.

Miyamoto, K., Fukuda, K. & Michita, Y. (2024) Evaluating the effectiveness of non-native brown trout suppression to improve native white-spotted charr stocking. *Ichthyol Res*, 71: 522-528. <https://doi.org/10.1007/s10228-024-00959-z>

諸澤崇裕・藤岡正博 (2007) 霞ヶ浦における在来4種と外来3種のタナゴ類 (*Acheilognathinae*) の生息状況. *魚類学雑誌* 54(2): 129-137.

中島淳 (2020) ドジョウの実態とその保全. *農業および園芸* 95(2):113-122.

中村亮太・泉北斗 (2022) 千葉県におけるカネヒラの新たな分布記録と繁殖の確認. *Niche Life* 10: 49-53.

中田和義・中岡利泰・五嶋聖治 (2006) 移入種ブラウントラウトが淡水産甲殻類に及ぼす影響: 絶滅危惧種ニホンザリガニへの捕食. *日本水産学会誌* 72: 447-449.

日本魚類学会自然保護委員会編 (2013) 見えない脅威「国内外来魚」どう守る地域の生物多様性. 東海大学出版会, 神奈川. 254pp.

西田睦 (2001) モツゴの仲間. in: 松井 (監) 遺伝的多様性と生物多様性センター, 富士吉田. 16-17.

野内孝則・荒山和則・富永敦 (2008) 霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. *茨城内水試研報*. 41: 47-54.

大浜秀規・加地奈々・青柳敏裕 (2011) 県内におけるヒメドジョウの生息状況. *山梨県水産技術センター事業報告書* 40: 30-33.

Page, M. & Burr, B. M. (1991) A Field Guide to Freshwater Fishes. North America North of Mexico. Houghton Mifflin Company. New York. 448pp.

Pusey, B., Kennard, M. & Arthington, A. (2004) Freshwater fishes of north-eastern Australia. CSIRO Publishing, Collingwood. 700pp.

Ruzycki, J. R., Beauchamp, D. A. & Yule, D. L. (2003) Effects of introduced lake trout on native cutthroat trout in Yellowstone Lake. *Ecological Applications* 13: 23-37.

Sakai, H, N. Nakashima, T. Uno, M. Yonehana, S. Kitagawa and M. Kuwahara (2011) A Pelagic Cyprinid of Lake Biwa *Gnathopogon caeruleus* and a Brooklet—*Dwelling* Relative *G. elongatus* formed a Hybrid Swarm in a Dammed Reservoir Lake Ono. *Journal of National Fisheries University*, 60: 43-50.

酒井治己・米花正三 (2012) 山口県小野湖産コイ科魚類モロコ *Gnathopogon* の筋肉タンパク質遺伝子型によって分けられる3型間に形態的差異はあるか. *Journal of National Fisheries University*, 60: 145-150.

自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社. 東京. 480pp.

瀬能宏 (2000) 今、小田原のメダカが危ない—善意? の放流と遺伝子汚染. *自然科学のとりら*. 6:14.

嶋津信彦 (2013) 沖縄島における外来魚ソードテールの分布拡大と駆除活動. *沖縄生物学会誌*, 109-110.

清水孝昭・高木基裕 (2010a) 愛媛県に侵入したカラドジョウ集団内に見られた起源の異なる2つの遺伝子系統. *魚類学雑誌* 57(2): 125-134

清水孝昭・高木基裕 (2010b) ミトコンドリアDNAによる愛媛県を中心としたドジョウの遺伝的集団構造と攪乱. *魚類学雑誌* 57(1): 13-26.

侵入生物データベース <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

田子泰彦 (2002) 神通川で漁獲されたサクラマス最近の魚体の小型化. *日本水産増殖学会誌*, 50(3): 387-391.

高田未来美・立原一憲・西田睦 (2010) 琉球列島におけるフナ分布と生息場所: 在来フナと移殖フナの比較. *魚類学雑誌* 57(2): 113-123

鷹見達也・吉原拓志・宮腰靖之・桑原連 (2002) 北海道千歳川支流におけるアママスから移入種ブラウントラウトへの置き換わり. *日本水産学会誌*, 68: 24-28.

谷口倫太郎・川瀬成吾・小山直人・野口亮太・浅野雅人・中田和義 (2025) 兵庫県で採集された日本初記録の外来タナゴ. *日本生態学会第72回全国大会 講演要旨*

谷口倫太郎・高橋鉄美・川瀬成吾・佐藤萌柚・野口亮太・柴 杉杉・小山直人・浅野雅人・中田和義 (2025) 外来種 *Rhodeus albomarginatus* タイリクシロフチタナゴ (新称) の日本初記録および再生産. *日本生物地理学会会報*, 80: 1-13.

竹花佑介 (2010) メダカ: 人為的な放流による遺伝的攪乱. *魚類学雑誌*. 57(1): 76-79.

United States Geological Survey. <https://www.usgs.gov/>

USGS-NAS (United States Geological Survey - Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

渡辺勝敏・森誠一 (2012) ネコギギ: 積極的保全に向けたアプローチ. *魚類学雑誌*, 59: 168-171.

Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. & Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with a *kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.* 67, 361-374.

Werner, R. G. (2004) Freshwater Fishes of the Northeastern United States. A FIELD GUIDE. Syracuse University Press. Canada. 335pp.

Woodford, D. J., Impson, N. D., Jenny, A. D. & Roger, B. (2005) The predatory impact of invasive alien smallmouth bass, *Micropterus dolomieu* (Teleostei: Centrarchidae), on indigenous fishes in a Cape Floristic Region mountain stream. *African Journal of Aquatic Science*, 30(2): 167-173.

Wydoski, R. S. & Whitney, R. R. (2003) Inland fishes of Washington. Univ. Washington Press. Singapore. 384pp.

山形県内水試 (2010) 研究成果 平成22年度「関東系ヤマメと地場産サクラマスと両者の交雑群の成熟とスモルト」

山梨県水産技術センター (2007) 研究課題: ヤマトイワナ種苗生産試験.

山崎浩二・阿部正之(2007)最新図鑑 熱帯魚アトラス. 平凡社. 東京. 559pp.  
吉郷英範・岩崎誠(2004)沖縄島で繁殖している *Tanichthys albonubes* (硬骨魚類;コイ科). 比婆科学, 214:25-26.

#### 【分類の並びを準拠した文献】

科(亜科)レベルの配列:Nelson, J. S. 2016. Fishes of the World, 5th ed. John Wiley & Sons, New York, 601pp.  
科レベル以下の配列:細谷和海(編著)(2019)山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社  
細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順

#### <昆虫類>

秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏(2011)三重県に定着したフェモラータオオモモトハムシ. 月刊むし, (485): 36-43.  
秋田勝己・乙部宏・高桑正敏(2010)三重県のフェモラータオオモモトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, (473): 43-45.  
荒谷邦雄(2003)外国産クワガタ・カブトの輸入規制緩和による在来個体群への影響. 遺伝, 57(4): 2-9.  
荒谷邦雄(2005)最近の外国産クワガタムシ、カブトムシ事情. 昆虫と自然, 40(4): 27-32.  
荒谷邦雄(2003)ペットとして輸入される外国産コガネムシ上科甲虫の影響. 森林科学, 38: 21-32.  
Catalogue of Life (COL)[2025年1月閲覧]  
戎谷秀雄・宮武頼夫(2011)三重県におけるフェモラータオオモモトハムシの2006年の記録. 月刊むし, (488): 41.  
藤田宏(2018)伊豆諸島神津島にも定着した外来種・リュウキュウツヤハナムグリ. 月刊むし, (574):9.  
五箇公一・小島啓史(2004)外来昆虫の引き起こす問題—外国産クワガタムシの輸入を巡って. 環動昆, 15(2): 137-146.  
橋本佳明(編)(2020)外来アリのはなし. 朝倉書店, 東京. 187pp.  
東正剛・緒方一夫、サンフォード・D・ポーター(2008)ヒアリの生物学:行動生態と分子基盤. 海游社. 228pp.  
堀繁久(1996)カブトムシ. 東清二(編著)沖縄昆虫野外観察図鑑 第2巻甲虫目[改訂]  
細谷忠嗣(2014)トカラ列島宝島における外来糞虫ヤエヤマニセツツマグソコガネの定着について. Kogane, (16): 95-98.  
井岡稔貴・田中良尚(2018)アマミマルバネクワガタとマキシムマルバネクワガタ台湾亜種の異種間交雑例. さやばねニューシリーズ= Sayabane NS, (30), 56-58.  
ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group - Global Invasive Species Database) <http://www.issg.org/database/welcome/>  
岩田隆太郎(2018)クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) の現状:その分類・分布・生理・生態・根絶法. 森林防疫, 67(6), 7-34.  
岩田朋文(2022)富山県における外国産カブトムシ(アトラスオオカブト属)の野外での発見例3題. 富山市科学博物館研究報告, 46, 67-68.  
岩田朋文(2024)富山県における外国産クワガタムシ(アルキデスヒラタクワガタ)の野外での発見例. 富山市科学博物館研究報告, 48, 65-66.  
環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室(2013)アルゼンチンアリ防除の手引き(改訂版).環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室, 東京.  
Kanbe, Y., Okada, I., Yoneda, M., Goka, K. & Tsuchida, K.(2008)Interspecific mating of the introduced bumblebee *Bombus terrestris* and the native Japanese bumblebee *Bombus hypocrita sapporoensis* results in inviable hybrids. Naturwissenschaften, 95(10): 1003-1008.  
環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)(2015)レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5昆虫類. p434.  
苅部治紀・松本浩一・尾園暁(2008)カンショオサゾウムシによるノヤシ加害についての速報. 小笠原研究年報, (31): 95-99.  
苅部治紀・松本浩一・尾園暁(2009)小笠原諸島におけるカンショオサゾウムシによるノヤシの被害続報. 小笠原研究年報, (32): 71-78.  
苅部治紀・加賀玲子(2019)神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に関する生態的知見. Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)48:75-80.  
片野田逸朗・谷口明(1997)奄美群島に侵入したタイワンカブトムシの生態と防除. 鹿児島県林試研報, 3: 1-26.  
川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫(2024)奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ(新称)(半翅目:マルカイガラムシ科)の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究. 28(1): 3-9.  
川井信矢(2000)日本及び台湾初記録のニセツツマグソコガネ. 鯉角通信, (1): 9-11.  
岸本圭子・岸本年郎・酒井香・寺山守・太田祐司・高桑正敏(2017)国内外来種を含む訪花性ハナムグリ亜科5種の発生状況—東京港野鳥公園の事例—. 保全生態学研究, 22(1): 159-170.  
小林裕和・松岡進樹(2010)アオドウガネとヤマトアオドウガネ. 鯉角通信, (21): 93-96.  
小林陽允・寺山守・砂村栄カ・江口克之・小栗 恵美子(2024)日本における外来種アシジロヒラフシアリの侵略性に関わる生態情報. 衛生動物, 75(3): 163-168.  
小濱継雄・嵩原建二(2002)沖縄県の外来昆虫. 沖縄県立博物館紀要, 28, 55-92.  
国立環境研究所侵入生物データベース[2025年1月閲覧]  
近藤健・大林隆司・小野剛・竹内浩二・井川茂・小谷野伸二(2009)小笠原諸島父島におけるアメリカシロヒトリの発生消長. 関東東山病害虫研究会報第56集, pp.103-106.  
楠井善久(2005)沖縄のシロテンハナムグリ属における固有種と外来種の種間交雑について(学会発表).  
九州地方環境事務所(2023)ツマアカスズメバチ防除計画. <https://kyushu.env.go.jp/content/000129566.pdf>[2025年10月閲覧]  
Lee, S., Lee, M. H., Choi, W., Jang, H., Kim, J. & Lee, S. (2025) Establishment of *Sagra femorata* (Coleoptera:Chrysomelidae) in South Korea.  
榎原 寛(2002)外来の森林・木材害虫—中国産ツヤハダゴマダラカミキリのアメリカへの侵入と日本への波及. 昆虫と自然, 37(3): 20-22.  
元陳力昇・森 英章(2022)国内外来生物ヤエヤママドボタルの分布拡大によるアマノヤマタカマイマイへの影響および保全に向けた取り組みについて. 日本貝類学会令和4年度大会.  
武藤将道・吉井重幸・塘忠顕(2022)福島県で最近発見された外来カミキリ *Apriona swainsoni swainsoni* (Hope, 1840)(コウチュウ目・カミキリムシ科・フトカミキリ亜科)の分布, 食害および後食に関する予備的な報告. 昆虫. ニューシリーズ, 25(1): 18-24.  
日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.  
日本チョウ類保全協会(編)(2019)フィールドガイド増補改訂版日本のチョウ. 誠文堂新光社. 東京, 343pp.  
日本列島昆虫全種目録[2025年1月閲覧]  
野林千枝(2004)沖縄島産シロテンハナムグリの変異. 鯉角通信(8): 15-20.  
織谷幸太・織谷咲良(2021)神奈川県川崎市およびその多摩川対岸におけるリュウキュウツヤハナムグリの記録. 月刊むし, (610)  
大田真人(2012)東京都大田区でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, (502):16.  
嶋本習介(2014)千葉県でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, 516:46-47.  
自然環境研究センター(編著)(2019)最新 日本の外来生物. 平凡社. 東京, 592pp.  
田中宏卓・紙谷聡志(2025)奄美大島と沖縄島に侵入したソテツシロカイガラムシは種が異なる?. 日本昆虫学会第85回講演要旨.  
田付貞洋(編)(2014)アルゼンチンアリ 史上最強の侵略的外来種. 東京大学出版会. 331pp.  
田付貞洋(編)アルゼンチンアリ—史上最強の侵略的外来種. 東京大学出版会. 東京, 331pp.  
寺山守(2018)アカヒアリ(ヒアリ):概説と最近の動向. <https://terayama.jimdofree.com/>[2025年7月閲覧]  
寺山守(2024)コカミアリ概説. <https://terayama.jimdofree.com/>[2025年7月閲覧]  
寺山守(2022)ホクベイヒアリ *Solenopsis xyloni* の国内での発見. 蟻(43). 34-37.  
寺山守(2018)アルゼンチンアリ概説. <https://terayama.jimdofree.com/>[2025年7月閲覧]  
辻本悟志(2023)外来のカイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* によるソテツの被害と防除. [https://churashima.okinawa/sp/userfiles/files/240813\\_kaigaramusi.pdf](https://churashima.okinawa/sp/userfiles/files/240813_kaigaramusi.pdf)[2025年7月閲覧]  
辻本悟志・亀山統一・久保駿太郎・山城勝・高山新吾・吉元充・川口エリ子・坂巻祥孝(2024)ソテツに加害するカイガラムシ *Aulacaspis yasumatsui* の沖縄島への侵入実態とその薬剤防除上の課題. 樹木医学研究. 28(3). 147-151.  
Villemant, C., Barbet-Massin, M., Perrard, A., Muller, F., Gargominy, O., Jiguet, F. & Rome, Q.(2011)Predicting the invasion risk by the alien bee-hawking Yellow-legged hornet *Vespa velutina nigrithorax* across Europe and other continents with niche models. Biological Conservation, 144: 2142-2150.  
Yamasaki K, K Shütte & T Nawa(2022) New record of Chinese Reddish Mantis, *Hierodula chinensis* Werner, 1929 (Mantodea, Mantidae) from Japan. Check List 18 (1)147-150.  
Yokoyama, J. & M. Inoue(2010)Status of the range expansion of an introduced bumblebee, *Bombus terrestris* (L.), in Japan. Applied Entomology and Zoology, 45(1): 21-27.

要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報(環境省)[2025年7月閲覧]

#### 【分類の並びを準拠した文献】

日本昆虫目録に従った。日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。

#### <陸生節足動物>

Clark, R. F., Wethern-Kestner, S., Vance, M. V. & Gerkin, R. (1992) Clinical presentation and treatment of black widow spider envenomation: a review of 163 cases. Annals of emergency medicine, 21(7): 782-787.  
Dželalija, B. & A. Medić (2003) *Latrodectus* Bites in Northern Dalmatia, Croatia: Clinical, Laboratory, Epidemiological, and Therapeutical Aspects. Croatian medical journal, 44(2): 135-138.  
江口克之・塚 本将・Francesco Ballarin・沓 掛丈・薄田真由(2022)台湾原産の不快害虫であるヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualienensis* (オビヤスデ目ヤケヤスデ科)の東京都本土における初確認. 衛生動物, 73(2): 59-61.

藤山静雄(2009)外来種ヤンバルトサカヤスデの日本本土での定着の可能性について. 信州大学環境科学年報, 31: 133-136.  
ゴケグモ情報センターHP <http://www.insbase.ac/xoops2/modules/bwiki/> [2026年1月閲覧]

石田剛之・藤山静雄(2010)ヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualienensis* Wang の産卵誘起に及ぼす温度と日長の影響(予報). 信州大学環境科学年報, 32: 99-102.

国立保険医療科学院(2016)No.1380 輸入衣服に付着して侵入したサソリによる刺症事例. [2025年1月閲覧]

森戸浩明(2017)イトグモ(*Loxosceles rufescens*)によるイトグモ咬症(loxoscelism)の1例. 日本皮膚科学会雑誌, 127(6): 1339-1344.

新島溪子(2002)ヤンバルトサカヤスデによる列車妨害記録. Edaphologia, 69: 47-49.

小野博嗣(編著)(2009)日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野. 738pp.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

清水裕行・金沢至・西川喜朗(2014)日本のゴケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物館研究報告, 68, 41-51.

新海栄一(編著)(2017)ネイチャーガイド, 日本のクモ(増補改訂版). 文一総合出版, 東京. 407pp.

Taucare-Ríos A., Nentwig, W., Bizama, G. & Bustamante, R.O. (2018) Matching global and regional distribution models of the recluse spider *Loxosceles rufescens*: to what extent do these reflect niche conservatism? Medical and Veterinary Entomology, 32(4), 490-496.

#### 【分類の並びを準拠した文献】

日本分類学連合ウェブサイト 日本産生物種数調査 <http://www.ujssb.org/biospnum/search.php>

#### <甲殻類>

Cohen, A.N., Carlton, J.T., Fountain, M. C. (1995) Introduction, dispersal and potential impacts of the green crab *Carcinus maenas* in San Francisco Bay, California. Marine Biology, 122: 225-237.

Darling, J. A. & Tepolt, C. K. (2008) Highly sensitive detection of invasive shore crab (*Carcinus maenas* and *Carcinus aestuarii*) larvae in mixed plankton samples using polymerase chain reaction and restriction fragment length polymorphisms (PCR-RFLP). Aquatic Invasions, 3(2): 141-152.

Dick, Jaimie T. A. & Platvoet, Dirk (2000) Invading predatory crustacean *Dikerogammarus villosus* eliminates both native and exotic species. Proc. R. Soc. Lond. B. 267: 977-983.

Dick, Jaimie T.A., Platvoet, Dirk. & Kelly, David W. (2002) Predatory impact of the freshwater invader *Dikerogammarus villosus* (Crustacea: Amphipoda). Can. J. Fish. Aquat. Sci. 59: 1078-1084.

Dittel, A.I., Epifanio, C.E. (2009) Invasion biology of the Chinese mitten crab *Eriocheir sinensis*: a brief review. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 374: 79-92.

土井航・渡邊精一・風呂田利夫(2009)大都市近郊の内湾域に定着した外来種のカニたち. 海の外来生物-人間によって攪乱された地球の海. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会: 76-90.

Doi, W., Inuma, Y., Yokota, M. & Watanabe, S. (2009). Comparative feeding behavior of invasive (*Carcinus aestuarii*) and native crabs (*Hemigrapsus takanoi*). Crustacean Research, 38: 1-11.

Grosholz, E.D. (2005) Recent biological invasion may hasten invasional meltdown by accelerating historical introduction. PNAS (Proceedings of the National Academy of Science of the United States of America), 102: 1088-1091.

星野 亨・群馬県立尾瀬高等学校理科部・大高 明史・スミス ロビン J. (2023) 群馬県菅沼におけるウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* と共生ヒルミズおよび貝形虫の新記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, 27: 99-106.

池末弥(1967)コウライエビの増養殖に関する研究-I. 水産増殖, 15(2): 1-5.

池末弥・木村重人・山下康夫(1967)コウライエビの増養殖に関する研究-III. 水産増殖, 15(2): 33-42.

今井正・小笠原長護・斉藤英俊(2021)豊田市と大府市における淡水エビの外来種チュウゴクスジエビの記録. 矢作川研究, (25): 15-19.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種:2002-2003年と2022-2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

加戸隆介(2006)キタアメリカフジツボ-北米からきて北日本の潮間帯を席巻した新しい移入種-. In: 日本付着学会編 フジツボ類の最新学 知られざる固着性甲殻類と人とのかわり: 80-92.

加戸隆介(2017)北日本に侵入・定着した新しい移入フジツボ 2 種の特徴と分布拡大. マリンエンジニアリング, 52(1): 3-8.

Kado, R. & Nanba, N. (2006) *Balanus glandula*: a new alien barnacle from the west coast of North America, established on the northeast coast of Japan. Assessment and control of biological invasion risks: 210-211.

Kado, R., & Nanba, N. (2016) Normality of succession of an intertidal community after the great east Japan earthquake. In Ecological Impacts of Tsunamis on Coastal Ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake. Springer, Tokyo, 2016: 11-24.

Kakui, K. & Komai, T. (2022) First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdocoela) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp *Neocaridina* sp. aff. *dauidi* (Decapoda: Caridea: Atyidae). Aquatic Animals, 2022: AA2022-1.

環境省(2020). 特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる外来生物及び輸入届出が出された未判定外来生物に係る情報及び評価(案)(昆虫等陸生節足動物、無脊椎動物、植物) [https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/12/03\\_zentai\\_12\\_siryu3.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/12/03_zentai_12_siryu3.pdf)

金田彰二・倉西良一・石綿進一・東城幸治・清水高男・平良裕之・佐竹潔(2007)日本における外来種フロリダマミズヨコエビ(*Crangonyx floridanus* Bousfield)の分布の現状. 陸水学雑誌, 68(3): 449-460.

北田修一(2016)種苗放流の効果と野生集団への影響. 日本水産学会誌, 82(3): 241-250.

Kobayashi, S. (2012). Molting growth patterns of the Japanese mitten crab *Eriocheir japonica* (De Haan) under laboratory-reared conditions. Journal of Crustacean Biology, 32(5): 753-761.

小松浩典(2023)自然教育園に侵入した外来種シナヌマエビ種群 *Neocaridina* spp. Reports of the Institute for Nature Study, 55: 11-14.

倉西良一(2009)多摩川水系に侵入した外来動物「フロリダマミズヨコエビ」の分布・拡散の現状と生態系への影響予測: 2008年. とうきゅう環境浄化財団. 96pp.

丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也(1987)外国産新魚種の導入経過 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所. 157pp.

Mori, K & Tanaka, M. (1989) Intertidal community structure and environmental conditions of exposed and sheltered rocky shores in Amakusa, Japan. Publications from the Amakusa Marine Biological Laboratory, Kyushu University, 10: 41-64.

森敬介(2006)内湾護岸壁におけるフジツボ類の空間競争. 『フジツボ類の最新学』(日本付着生物学会編). 恒星社厚生閣, 東京. 112-128.

西野麻知子・丹羽信彰(2004)新たに琵琶湖へ侵入したシナヌマエビ?(予報). オウミア.

Noordhuis, R., van Schie, J. & Jaarsma, N. (2009) Colonization patterns and impacts of the invasive amphipods *Chelicorophium curvispinum* and *Dikerogammarus villosus* in the IJsselmeer area. The Netherlands. Biological Invasions, 11(9): 2067-2084.

大森正之(2022)諫早湾干拓による漁業資源の劣化から再生へ. 明大商学論叢, 104(2): 17-32.

大貫貴清・鈴木伸洋・秋山信彦(2010)静岡県浜松市の溜池で新たに発見された移入種 *Palaemonetes sinensis* の雌の生殖周期. 水産増殖, 58(4): 509-516.

斉藤英俊・鬼村直生・米谷公宏・清水謙裕・小林薫平・児玉敦也・河合幸一郎(2017)外来釣り餌動物チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* の出現状況. 広島大学総合博物館研究報告, (9): 33-39.

自然環境研究センター(編著)(2019)最新 日本の外来生物 平凡社, 東京. 592pp.

東城幸治(2009)外来種フロリダマミズヨコエビと在来ヨコエビ種間の個体群ダイナミクス追求、ならびに外来種の分布拡大防止策検討. 河川整備基金助成事業. 69pp.

Trussell, G. C. (2000) Phenotypic clines, plasticity, and morphological trade-offs in an intertidal snail. Evolution, 54: 151-166.

内田大貴・山川宇宙・碧木健人・皆川優作・神田雅治(2021)埼玉県で確認された外来種チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis*. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15: 33-36.

Vogt, G., Falckenhayn, C., Schrimpf, A., Schmid, K., Hanna, K., Panteleit, J., Helm, M., Schulz, R., & Lyko, F. (2015) The marbled crayfish as a paradigm for saltational speciation by autopolyploidy and parthenogenesis in animals. Biology open, 4(11): 1583-1594.

山口寿之(2009)新たな外来フジツボ 最新情報 海の外来生物, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会, 神奈川: 49-71,

山口寿之(1989)外国から日本に移住したフジツボ類, 特に地理的分布および生態の変化. 神奈川自然誌資料, 10:17-32.

Yamaguchi, T., Prabowo, R. E., Ohshiro, Y., Shimono, T., Jones, D., Kawai, H., Otani, M., Oshino, A., Inagawa, S., Akaya, T. & Tamura, I. (2009). The introduction to Japan of the Titan barnacle, *Megabalanus coccopoma* (Darwin, 1854) (Cirripedia: Balanomorpha) and the role of shipping in its translocation. Biofouling, 25: 325-333.

山口寿之・大城祐・稲川奨(2011)外来種ココポーアアカフジツボの越境と遺伝的特性. 遺伝: 生物の科学, 65(1): 90-97.

山口寿之(2014)外来種ココポーアアカフジツボの国内分布. Sessile Organisms, 31(2): 15-23.

#### 【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

#### <軟体動物>

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ(2021)愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-download.html>

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ (2012) 愛知県移入種対策ハンドブック-ブルーデータブックあいち2012  
[https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/08\\_shiryolist.pdf](https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/08_shiryolist.pdf)

Barker, G. M. & McGhie, R. A. (1984) The biology of introduced slugs (Pulmonata) in New Zealand. 1. Introduction and notes on introduction and notes on *Limax maximus*  
 The New Zealand Entomologist 8:106-111.

Brannock, P.M., Wetthey, D.S. & Hilbish, T. J. (2009) Extensive hybridization with minimal introgression in *Mytilus galloprovincialis* and *M. trossulus* in Hokkaido, Japan.  
 Marine Ecology Progress Series, 383: 161-171.

遠藤雅実・佐々木淳 (2020) ホンビノスガイの貧酸素環境耐性およびへい死量推定に関する検討. 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76(2): 11057-11062.

Fisher, Theodore W., Orth, Robert E., Swanson, Stuart C. (1980) Snail against snail. California Agriculture, Nov-Dec. pp.18-21.

福田宏 (2003) 西日本における貝類の移入. 日本ベントス学会自然環境保全委員会, 企画シンポジウム「移入海産ベントスの生息状況と環境的課題」報告. 日本ベントス学会誌, 58: 99-100.

福田宏 (2004) 外来種と同定の問題. 日本ベントス学会誌, 59: 68-73.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係 (2018). 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>

萩原富司・白井亮久・諸澤崇裕・熊谷正裕・荒井聡 (2021) 霞ヶ浦におけるイケチヨウガイ属 *Sinohyriopsis* spp. の定着. 伊豆沼・内沼研究報告, 15: 139-149.

Haubrock, P. J., Cuthbert, R.N., Ricciardi, A., Diagne, C. & Courchamp, F. (2022) Economic costs of invasive bivalves in freshwater ecosystems. Diversity and Distributions 28:1010-1021

樋口広芳・長谷川雅美・上條隆志・岩崎由美・菊池健・森由香 (2020) 伊豆諸島八丈小島におけるノヤギ駆除後の島嶼生態系回復状況と復元に向けた基礎調査—伊豆諸島自然史研究会—. 自然保護助成基金助成成果報告書, 29: 94-102.

平野尚浩・田谷昌仁・伊藤 舜・工藤広大・和田慎一郎 (2023) 外来陸産貝類アジアベッコウは陸産貝類の生体を捕食する. 日本貝類学会令和5年度大会.

樋渡武彦・木幡邦男 (2005) 東京湾に移入した外来大型二枚貝ホンビノスガイについて. 水環境学会誌, 28(10): 8-21.

北海道 環境生活部自然環境局 自然環境課(生物多様性). (2025年3月26日更新). 北海道ブルーリスト2010 北海道外来種データベース  
[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist\\_top.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.html)

Hsiao & Chuang (2023) *Meretrix taiwanica* (Bivalvia: Veneridae), a previously misidentified new species in Taiwan. Molluscan Research, 43(1): 12-21.

石田惣 (2020) 市民科学による大阪府のオオクビキレガイの生息調査, 並びに分布の現況. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 78(3-4), 105-118.

岩崎敬二 (2019) Distribution of native *Mytilus trossulus* and non-native *M. galloprovincialis* (Mytilidae: Bivalvia) along the coast of Hokkaido Island, Japan. 奈良大学紀要, (47): 37-54.

Iwasaki, K. (2024) Negative Impacts on Native Intertidal Zonation by the Non-Indigenous Mytilid Mussel *Xenostrobus securis*. 奈良大学紀要, (52): 51-69.

Iwasaki, K., & Yamamoto, H. (2014). Recruitment and population structure of the non-indigenous brackish-water mytilid *Xenostrobus securis* (Lamarck, 1819) in the Kino River, Japan. Aquatic Invasions, 9(4): 479-487.

岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西榮二郎・山西良平・林 育夫・大越健嗣・小菅文治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井 宏 (2004). 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59: 22-44.

岩崎敬二・木下今日子 (2004) 日本に人為的に移入された非在来海産ベントスの分布拡大について. 日本プランクトン学会報, 51(2): 132-144.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・齊藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種: 2002-2003年と2022-2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

国土交通省 河川局 環境課 (2024) 令和4年度河川水辺の国勢調査結果の概要[河川版](生物調査編) II. 調査項目別調査結果の概要 2. 底生動物調査結果の概要. 環境省 参考資料2 リスト案についての各学会からの意見<動物(その他無脊椎動物)>. 63pp.

Kimura, K. (2015). Interference effect of the alien land snail *Macrochlamys* sp. on the native land snail *Bekkochlamys perfragilis*. Research Bulletin of Environmental Education Center, Miyagi University of Education, 17: 59-61.

木村妙子 2009. 海の外來貝類の現状と研究のススメ. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会(編), 海の外來生物. 東海大学出版会. 秦野市. pp. 33-48.

近藤健・五十嵐清晃(営農研修所) (2021) 野菜, 果樹, 花卉・切葉類の生産性向上~外来カタツムリ「アジアベッコウ」の農作物に対する食性調査及び農業による防除効果の検討~, 亜熱帯における農業技術の普及及び経営指導, 1野菜, 果樹, 花卉, 切葉類の生産向上(6)

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2024) 京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類、海産生物以外).  
<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

増田ほか (2010) 兵庫県初記録の外來淡水腹足類コモチカワツボ(ミズツボ). 兵庫陸水生物, 61: 149-153.

Matsukuma, A., and S. Takeda (2009) An invasive snail *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758) in Japan, with records of quarantine by the Plant Protection Station, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japan during 1997-2007. Bulletin of the Kyushu University Museum 7: 35-85.

Matsukura, Keiichiro., Mitsuru Okuda and Yakashi Wada (2008) Genetic divergence of the genus *Pomacea* (Gastropoda: Ampullariidae) distributed in Japan, and a simple molecular method to distinguish *P. canaliculata* and *P. insularum*. Applied entomology and zoology, 43 (4): 535-540.

中村泰男・金谷弦・小泉知義・牧秀明 (2012) 大井人工干潟(京浜運河・東京湾) 周辺の環境変動と二枚貝の生残: とくに溶存酸素濃度と底泥硫化物に着目して. 水環境学会誌, 35(8): 127-134.

根本隆夫・杉浦仁治・古丸明 (2003) 利根川・霞ヶ浦北浦における外来シジミの分布について. 茨城内水面水産試験場調査研究報告, 38: 32-41.

日本生態学会(編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館. 東京. 390pp.

大越健嗣・大越和加(編) (2011) 海のブラックバス サキグロタマツメタ 恒星社厚生閣, 東京. 244pp.

大越健嗣 (2004) 輸入アサリに混入して移入する生物—食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. 日本ベントス学会誌, 59, 74-82.

Rollo, D.C. (1983) Consequences of competition on the reproduction and mortality of three species of terrestrial slugs. Researches on Population Ecology 25: 20-43.

佐々木哲朗・佐竹潔・土屋光太郎 (2009) 小笠原諸島における外来種ヌメカワニナと固有種オガサワラカワニナの分布, 特に河川改修工事が与える影響について. 陸水学雑誌, 70(1): 31-38.

白井亮久・近藤高貴・梶田忠 (2010) 分子データから示された琵琶湖固有の絶滅危惧種イケチヨウガイの移入種ヒレイケチヨウガイによる遺伝的攪乱. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 68(3-4): 151-163.

高倉耕一 (2008) 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環科研報告 平成19年度 第70集: pp.43-51.

寺本沙也加・阿部陽・小林俊将 (2024) 東北太平洋沿岸におけるヨーロッパヒラガキ(軟体動物門: 二枚貝綱: イタボガキ科) の移入と定着状況について. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 82(1-4): 133-151.

梅谷献二(編) (2012) 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 全国農村教育協会. 404pp.

浦部美佐子 (2007) 本邦におけるコモチカワツボの現状と課題. 陸水学雑誌, 68: 491-496.

Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2012) Hybridization between *Meretrix lusoria* and the alien congeneric species *M. petechialis* in Japan as demonstrated using DNA markers. Aquatic Invasions, 7: 327-336.

Yamakawa & Imai (2013) PCR-RFLP typing reveals a new invasion of Taiwanese *Meretrix* (Bivalvia: Veneridae) to Japan, Aquatic Invasions (2013) Volume 8, Issue 4: 407-415.

山崎友資・川南拓丸・岸本喜樹・澤野直紀・五嶋聖治 (2009) 北海道南部に置ける外来種シマメノウフネガイの抱卵と漁業被害. ちりぼたん, 39:156-161.

横山寿 (2019a) 外来シジミ類の分類と生態-I 日本と世界における侵入・拡散. 陸水学雑誌, 80(3): 125-144.

横山寿 (2019b) 外来シジミ類の分類と生態-II 生物学の特徴と生態系への影響. 陸水学雑誌, 80(3): 145-163.

**【分類の並びを準拠した文献】**

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

**<その他無脊椎>**

Benítez-Álvarez, L., Leria, L., Sluys, R., Leal-Zanchet, A. M., & Riutort, M. (2023) Niche modelling and molecular phylogenetics unravel the colonisation biology of three species of the freshwater planarian genus *Girardia* (Platyhelminthes, Tricladida). Hydrobiologia, 850(14): 3125-3142.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係 (2018). 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>

Hookabe, N., Hiruta, F. S., Yabuki, A., Yoshino, H., Hisasue, Y., Sawada, N., Ueshima, R. & Kajihara, H. (2025) Unrecognized species-level diversity of terrestrial nemertean in the UNESCO world heritage Ogasawara Islands revealed by mitogenomics. BMC Ecology and Evolution, 25, 135: 1-16.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group - Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/>

Ivanov, V. P., Kamakin, A. M., Ushivtzev, V. B., Shiganova, T., Zhukova, O., Aladin, N., Wilson, S. I., Harbison, G. R., & Dumont, H. (2000) Invasion of the Caspian Sea by the comb jellyfish *Mnemiopsis leidyi* (Ctenophora). Biological Invasions, 2: 255-258.

Iwai, N., S. Sugiura, Chiba, S. (2010) Predation impacts of the invasive flatworm *Platydemus manokwari* on eggs and hatchlings of land snails. Journal of Molluscan Studies, 76(3): 275-278.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義(印刷中). 日本の海産外来種:2002-2003年と2022-2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1).

Jones, H. D., & Sterrer, W.O.L.F.G.A.N.G. (2005). Terrestrial planarians (Platyhelminthes, with three new species) and nemertines of Bermuda. *Zootaxa*, 1001(1): 31-58.

金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭(2012)外来種ヨーロッパザラボヤ *Asciidiella aspersa* (Müller, 1776)の生物学的特徴と簡易識別および同定について(技術報告). 北水試研報, 81: 151-156.

環境庁(1977)松くい虫防除特別措置に関する調査研究 昭和52年3月 自然環境保全のための調査研究.

川勝正治・西野麻知子・大高明史.(2007). プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68(3), 461-469.

川勝正治・鶴田大三郎・木村知之・茅根重夫・村山 均・山本清彦(2008)日本の平地水域のプラナリア類-在来種と外来種の手引き.

<http://www.riverwin.jp/pl/flatland/Flatland%20FPs%202008%20Shibuki-%20tsubo%20in%20Jap.pdf>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課(2002)京都府レッドデータブック2002 甲殻類およびその他の淡水産無脊椎動物.

<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb2002/bio/crustacea.html>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課(2024)京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類、海産生物以外).

<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

宮下実・原田愛美・野口真実(2014)〈調査報告〉オオマリコケムシの和歌山県における初確認と紀の川市・岩出市の文布状況. 近畿大学先端技術総合研究所紀要, 19: 1-11.

大林隆司(2021)オガサワラリクヒモムシが父島でカマドコオロギを捕食. 小笠原研究年報, (44): 51-53.

Schwindt, E., Iribarne, O. O., & Isla, F. I. (2004) Physical effects of an invading reef-building polychaete on an Argentinean estuarine environment. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, 59(1): 109-120.

Shinobe, S., Uchida, S., Mori, H., Okochi, I., & Chiba, S. (2017) Declining soil Crustacea in a World Heritage Site caused by land nemertean. *Scientific Reports*, 7(1): 12400.

SHOJI, K. & KARUBE, H. (2023). Predation by terrestrial flatworm platydemus sp.(Tricladida: Continenticola: Geoplanidae: Rhynchodeminae) on an adult of *Rhinocypha ogasawarensis* (Odonata: Zygoptera: Chlorocyphidae). *Tombo: Acta odonatologica Japonica*, 66: 60-62.

Sluys, R., Kawakatsu, M., & Yamamoto, K. (2010). Exotic freshwater planarians currently known from Japan. *Belgian Journal of Zoology*, 140(Suppl.), 103-109.

Sugiura, S., Okochi, I., & Tamada, H. (2006). High predation pressure by an introduced flatworm on land snails on the oceanic Ogasawara Islands 1. *Biotropica*, 38(5), 700-703.

YOSHINO, H. (2024) Current distribution and field observations of the invasive land nemertean, *Geonemertes* sp., and some isopods in the Bonin (Ogasawara) Islands. 小笠原研究, (51): 45-56.

#### 【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストやその他文献を参考に整理